

日米知事相互訪問計画に基づく
第 3 回 日 本 知 事 団 訪 米

報 告

JAPAN... U. S. GOVERNORS' CONFERENCE

写真あり 1967 写真あり

昭 和 42 年

全 国 知 事 会 事 務 局

写真あり

説明 日本知事団の出発
昭和 42 年 5 月 17 日

訪米日本知事団経路図

写真あり

・重要都市

目 次

	訪米日本知事団経路図	3
	はしがき	7
	訪米知事団一行氏名	8
	日本知事団アメリカ訪問日程	10
第 1 部	アメリカにおける第 3 回日米知事会議	21
	アメリカにおける第 3 回日米知事会議（日程）	23
	第 3 回日米知事会議アメリカ側出席代表	24
	アメリカにおける人口移動	
	ミシガン大学教授 エバー・エルドリツジ	26
	人口移動に伴う社会的経済的諸問題について	
	福島県知事 木村守江	48
	住民の自治意識とこれが高揚について	
	岡山県知事 加藤武徳	52
	討論	58
第 2 部	各州視察と米政府高官との会見	65
	5 月 16 日（火）出発前	67
	5 月 17 日（水）出発当日	68
	5 月 16 日（火）ハワイ州ホノルル	68
	5 月 17 日（水）ハワイ州ホノルル	69
	安孫子団長メツセージ	70
	5 月 18 日（木）ハワイ州ホノルル～アイオワ州デモイン	77

5月19日(金) サンフランシスコ～アイオワ州デモイン	80
5月20日(土) アイオワ州デモイン	83
5月21日(日) アイオワ州デモイン～ミシガン州デトロイト	90
5月22日(月) ミシガン州デトロイト	91
5月23日(火) ミシガン州～ワシントンD・C・	96
5月24日(水) ワシントンD・C・～ロードアイランド州プロビデンス	102
5月25日(木) ロードアイランド州プロビデンス	111
5月26日(金) ヴァーモント州モンペリア	118
5月27日(土) ヴァーモント州～カナダモントリオール	123
5月28日(日) ヴァーモント州～マサチューセッツ州	124
5月29日(月) マサチューセッツ州ボストン	128
5月30日(火) マサチューセッツ州ボストン	133
後 記	134
第3部 訪問各州の概況	135
EXP067	175
便宜供与を受けた人々の氏名リスト	177

は し が き

この報告書は、日米知事相互訪問計画に基づく第3回日本知事団の訪米についての記録として作成しましたが、惣々の間にまとめたので、粗漏の点も多いことと存じお詫びいたします。

第1部では「アメリカにおける第3回日米知事会議」について記述し、第2部では「各州訪問と米政府高官との会見」について記述しました。第3部では「訪問州の概況」について記述し、参考に供することといたしました。

この報告書の作成に当っては、加藤知事が「夕刊新聞」に掲載された記事を、随所に引用させていただきましたので、お礼申し上げます。

最後に便宜供与を受けた人々の氏名リストを加えました。

旅行団一行氏名
日本知事代表団

	氏名	職
共同団長	安孫子藤吉及び夫人	山形県知事
共同団長	金子正則	香川県知事
	木村守江	福島県知事
	池田直	佐賀県知事
	田部長右衛門及び夫人	島根県知事
	平野三郎及び夫人	岐阜県知事
	加藤武徳及び夫人	岡山県知事
	永野巖雄	広島県知事
	下位真一郎	奈良県副知事
		随 行
	宮内 彌	全国知事会事務局長
	小川政吉	〃 渉外部参事
	安田正典	商船航空サービス
		アメリカ国務省
	河本幸夫	Escort officer
	福田 実	通 訳
	Paul 田 村	通 訳

アメリカ全国知事会

Brevard Carihfield	事務局長
Gene T. Minogue	Airlines Consultant
Loyal M. Liken	”
Lois Murphy	クリフイールド局長秘書

日本知事団アメリカ訪問日程

(5月17日(水)午前10時
日本航空2便にて 東京国際空港発)

5月16日(火) ハワイ州ホノルル

午後11時 日本航空2便によりホノルル国際空港着。
ロイヤル・ハワイアン・ホテル宿泊。

5月17日(水) ハワイ州ホノルル

午前 9時 ホテルにて共同団長安孫子知事メツセージ発表。
午前 9時30分 イースト・ウエスト・センターに向けホテル発。
午前 11時15分 パンチボール記念墓地到着。
正 午 日本総領事官邸で昼食会。
午 後 自由行動(エスコート付き)
午後 5時20分 ハワイ州知事官邸における晩さん会出席のためホテル発。

5月18日(木)

ハワイ州ホノルルーアイオワ州デモイン

午前 9時54分 シー・ライフ公園に向けホテル発。
午前 11時45分 同上発。ポリネシア文化センター昼食会に出席。
午 後 自由行動。
午後 6時30分 歓楽亭に向け出発。在ハワイ日系人団体招宴。
午後 11時45分 日本航空2便によりホノルル国際空港発。

5月19日（金） アイオワ州デモイン

- 午前 7時30分 サンフランシスコ着。
- 午前 8時30分 サンフランシスコ発。午後2時11分イリノイ州シカゴ着。ユナイテッド航空321便に乗り替え。
- 午後 3時 アイオワ州デモインに向けシカゴ発。
- 午後 4時3分 デモイン着。アイオワ州知事，軍旗護衛兵，楽隊の歓迎。セーバーリー・ホテルに向う。
- 午後 7時 アイオワ州知事ヒューズ氏夫妻主催，全米知事会実行委員との晩さん会。セーバーリー・ホテル内デモイン・ルーム。
- 午後 9時30分 閉 会。

5月20日（土） アイオワ州デモイン

- 午前 8時 ホテル内アイオワ・ルームにて非公式朝食会。
- 午前 9時30分 }
午前 11時30分 } 第3回日米知事会議。
- 午前 10時 知事夫人は州知事私邸において茶会招待。
- 正 午 ホテル内アイオワ・ルームにて昼食会。
- 午後 1時30分 州議事堂，議事堂構内釣鐘，農場，美術館等視察。
- 午後 4時30分 ホテル帰還。
- 午後 6時30分 ホテル内テラス・ルームにてヒューズ知事夫妻主催レセプション及び晩さん会。

5月21日（日）

アイオワ州—ミシガン州デトロイト

- 午前 9時 セーバリー・ホテル内アイオワ・ルームにて非公式朝食会。
- 午前 10時 30分 空港に向けホテル発。
- 午後 零時 15分 ユナイテッド航空 246便にてデモイン発。
- 午後 1時 22分 シカゴ着。飛行機乗替え。
- 午後 2時 40分 アメリカン航空 546便にてシカゴ発。
- 午後 4時 27分 デトロイト・メトロポリタン空港着。
ロムニー知事，ラホドニイ日本名誉総領事歓迎。
- 午後 5時 30分 ホテル・ポンチャートレイン着。
- 午後 7時 ホテル・ポンチャートレイン，オリエンタル・ルームにてデトロイト・エジソン会社主催レセプション。
- 午後 9時 「ミシガン州」と題する映画上映。

5月22日（月） ミシガン州デトロイト

- 午前 7時 30分 ホテル発。
- 午後 8時 30分 ブルーム・フィールド・ヒルの州知事私邸における朝食会。（クランブルツク・アート・アカデミーの日本人留学生 5名陪席。
- 午前 9時 15分～ 知事私邸において記者会見。
9時 30分
- 午前 9時 30分 バスにてクランブルツク地域を観光。
- 午前 10時 15分～ ジェネラル・モーターズ会社技術研究所視察。
10時 45分
- 午前 11時 30分～ 出征軍人記念館到着。デトロイト経済クラブ主催のミ

正午	シガン週間「政府デー」昼食会。
午後 2 時	出征軍人記念会館発。
午後 2 時 30 分～ 3 時	フォード自動車会社リバー・ルージュ工場視察。
午後 3 時 15 分	デブリーグ氏所有のヨット「ジグミル 4 世号」にてデトロイト河巡航。
午後 5 時 15 分	デトロイト市下町 D-C ドック到着。下船。
午後 7 時	出征軍人記念会館において大デトロイト地区商業会議所主催レセプション及び晩さん会。
午後 9 時	晩さん会終了。バスにてホテル帰還。

5 月 23 日 (火)

ミシガン州デトロイト～ワシントン D・C・

午前 8 時	バスにてホテル発。
午前 8 時 15 分	マグレガー記念会議場にてフレイザー理事と会見。
午前 9 時	グリーンフィールド・ビレツジ視察。馬車にて見学。 (リンカーン大統領が弁護士をつとめたローガン郡裁判所およびエデイソンが電球、蓄音機を発明したメンロー・パーク・ラボラトリー等)
午前 9 時 45 分	バスにてアナーバーに向う。
午前 10 時 30 分	ミシガン大学本部、構内視察。
午前 11 時 20 分	アナーバー市庁舎到着。フルチャー市長等訪問。
午後 12 時 15 分	ミシガン大学迎賓館イングリズ・ハウス到着。 ハツチャー総長主催昼食会出席。
午後 3 時 30 分	ユナイテッド航空 652 便にてデトロイト発。

午後 5時15分 ワシントン D・C・到着。ワシントン・ヒルトン・ホテルに向う。

午後 7時30分 日本大使館における晩さん会。

5月24日(水)

ワシントン D・C・～ロードアイランド州プロビデンス

午前 9時45分 ワシントン・ヒルトン・ホテル発。

ジョンソン大統領及び前フロリダ州知事大統領府緊急計画局長ファリス・ブライアント氏と大統領府 275号室にて会見。

知事夫人は市内見物。

午後 12時30分 国会議事堂内上院議会会議室にて昼食会。

後に上下両院議会見学。

午後 6時55分 アリゲニ航空 829 便にて空港発。

午後 8時07分 ロードアイランド州ヒルスグローブ空港着。

チエイフイー知事歓迎。バスにてシエラトン・ビルトモア・ホテルに向う。

5月25日(木)

ロードアイランド州プロビデンス及びニューポート

午前 8時30分 州庁にて州知事と朝食会。

午前 9時30分 ロードアイランド州デザイン学校及び美術館にてオリエンタル・コレクション見学。

午前 10時30分 ニューポート及び史跡「ブレイカーズ邸」視察のため出発。

- 午後 12 時 15 分 オーション・ドライブに沿うて観光。
- 午後 1 時 「エルム」邸に到着。昼食会。
- 午後 2 時 30 分 聖ジョージ・スクール視察。
- 午後 3 時 15 分 アリス・ブレイトン女史の家に到着。
装飾的に刈り込んだ庭園見学。お茶。
- 午後 4 時 15 分 プロビデンスのシエラトン・ビルトモア・ホテルに帰
還。
- 午後 6 時 イースト・プロビデンスのスカンタム・クラブにて焼
蛤夕食会。
- 午後 10 時 ホテル帰還。

5 月 26 日（金）

ヴァーモント州モンペリア及びバーリントン

- 午前 6 時 バスにてヴァーモント州モンペリアに向けプロビデ
ンス発。
- 午前 9 時 ヴァーモント州庁（モンペリア）着。州庁にてホフ知
事歓迎。記者会見。
- 午前 11 時 45 分 ナショナル生命保険会社にて昼食会。
知事夫人は、ストーリーのトラツプファミリー・ロッジに
てミセス・マリキ・フオントラツプ夫人と昼食。
のち景色を鑑賞しながらドライブしてバーリントンに
向う。
- 午後 3 時 エセツクス・ジャンクソンの IBM を工場長ジェーム
ス・J・リツチャー氏の案内にて視察。

- 午後 4時15分 バーリントンのハラデイーン着。
- 午後 5時30分 ヴァーモント大学においてライマン・S・ラウル総長
主催の晩さん会出席。
- 午後 9時30分 ホリデー・イン帰還。宿泊。

5月27日(土)

ヴァーモント州バーリントン～カナダ・モントリオール

- 午前 7時30分 ホリデー・インにて朝食。
- 午前 8時45分 1967年万国博視察のためカナダ・モントリオール
に向けバスにて出発。
- 午前 11時 モントリオール万国博着。
- 午前 11時30分 チャルス・E・ワイリー氏の案内にてヴァーモント館
視察。
- 午 後 自由行動。
- 午後 6時 クエベック館にて夕食会。
- 午後 8時 EXPO67 出発。
- 午後 10時15分 ホリデー・イン帰還。

5月28日(日)

ヴァーモント州バーリントン～マサチューセッツ州ボストン

- 午前 8時30分 ホリデー・インにて朝食。
- 午前 9時30分 バーリントン市及び市内再開発地視察。
- 午前 11時 ノース・イースト航空 227 便にてマサチューセッツ州
ボストンに向けバーリントン発。

午後 12 時 1 分 ボストン・ローガン国際空港着。シエラトン・プラザ
・ホテルに向う。

午後 自由。

夜 ウインチェスターの知事私邸にて同知事主催
イタリアン料理晩さん会。
ライシャワー前大使夫妻出席。

5 月 29 日 (月)

マサチューセッツ州ボストン

午前 8 時 30 分 シエラトン・プラザ・ホテルにて朝食。

午前 9 時 15 分 フリーダム・トレイル視察のため出発。
記念艦コンステイチューション号，ボストン博物館，
ハーヴァード大学等訪問，サイクロトロン視察。

午後 12 時 30 分 レストラン・アンソニー・ピア・フォーにて昼食。

午後 1 時 45 分 州議事堂に向う。州議会議事堂訪問。近傍の歴史的な
町（レキシントン・コンコード・プリマス）訪問。
ホテル帰還。

午後 6 時 30 分 クラブ・アルゴンクインにてレセプション及び晩さん会。

5 月 30 日 (火)

マサチューセッツ州ボストン

この日をもって日本知事代表団の公式行事を終る。

知事たちは午前又は午後，直接日本帰国又はヨーロッパ，南米訪問のため出発。

写真あり

説 明 第 3 回 日 米 知 事 会 議

アイオワ州デモイン・セイバリー・ホテル

昭和 42 年 5 月 20 日

第 1 部

アメリカにおける

第 3 回 日米知事会議

アメリカにおける第 3 回日米知事会議（日程）

アイオワ州デモイン・セイバリー・ホテル

1967 年 5 月 20 日

開	会	午前 9 時 30 分
開	会 の 辞	アイオワ州ハロルド・E・ヒューズ知事
歓	迎 の こ と ば	アメリカ全国知事会会長ノースダコタ州知事ウィリアム・ガイ
ア	メ	リカ出席代表紹介 同 上
日	本 側 挨拶	共同団長山形県知事安孫子藤吉
日	本 側 出席知事紹介	同 上
日	本 側 提出議題	(1) 人口移動に伴う社会的経済的諸問題。 (2) 住民の自治意識とこれが高揚について
ア	メ	リカ側提出議題 アメリカにおける人口移動
ア	メ	リカ側意見発表者 アイオワ州立大学教授エバー・エルドリッジ博士
日	本 側 意見発表者	福島県知事 木村守江 岡山県知事 加藤武徳
討	論	
閉	会	午前 11 時 30 分

第3回日米知事会議アメリカ側出席代表

ウィリアム・L・ガイ	アメリカ全国知事会会長, ノースダコタ州知事
ハロルド・E・ヒューズ	アイオワ州知事
ジェイムス・A・ローズ	オハイオ州知事
ジョージ・ロムニー	ミシガン州知事
ワレン・P・ノーウエルス	ウイスコンシン州知事
ヒューレット・C・スミス	ウエスト・ヴァージニア州知事
キヤルヴァイン・L・ランプトン	ユタ州知事
ジョン・ヴォルフ	マサチューセッツ州知事
ブレヴァード・クリフイールド	アメリカ全国知事会事務局長
エバー・エルドリッジ博士	アイオワ州立大学教授
フランク・コビンソン	アイオワ州計画局長

アメリカにおける第3回日米知事会議は、前記会議日程のように、5月20日アイオワ州デモインのセイバリー・ホテルで開催されたが、会議には、日本側から、知事夫人を除いた日本知事団全員が出席、アメリカ側からは、別紙アメリカ側出席代表リストの人々が出席した。

会議は、2時間足らずの短時間であったが、議題に対する討議を尽し、相当の成果を挙げ得たものと確信する。ただアメリカ側演説者ミシガン大学教授エバー・エルドリツジ博士の「アメリカにおける人口移動」を検討すると、人口移動に伴う社会的経済的問題は、日米必ずしも軌を一にしておらないということである。すなわちアメリカでは、人口移動は、給与の格差をなくし、経済発展の原動力と考え、たとえ農村人口が減少しても、却つて生産は増加し、1人あたりの所得は増加しているので、農村人口の過疎問題は、少しも憂える必要はないとしている点である。

この点について、岡山県知事は、「夕刊新聞」に次のように発表しておられるので、引用させていただくこととする。

前文略『また、労農人口の減少による過疎地帯の悩みは、米国には無いということが、次第にわかつて来た。また、1人あたりの平均賃金所得が、地域によつて異つていることが、人口移動がこの格差を是正しているのだという説明も行なつていた。これらの結果、人口移動にともなう社会的、経済的問題はいろいろあるが、総じて所得全体はますますよくなつており、移動による利益は大きいとする考えで、論理が進められていた。』

『米国でも日本と同様に、農村の人口流出、都市人口の増大が問題化しつつあるようだが、日本ほど深刻ではないというのがわたしの受けた印象で、人口移動の対策の説明でも、ちよつとわれわれの理解に苦しむような点がないでもなかつた。』 エバー・エルドリツジ博士の演説の全文は、次に掲載するとおりである。

アメリカにおける人口移動

ミシガン大学教授

エバー・エルドリツジ博士

緒言

ガイ知事、ヒューズ知事及び高貴なる訪問者各位。

日本の年鑑と、アイオワ大学心理学部学生リー女史の翻訳のご協力を得て私は、日本の人口問題について若干の知識を得ることが出来ました。多くの点で日本の人口移動は、アメリカの人口移動と似ています。日本はアメリカと同様、人口の密集地域を有しております。日本はまた、アメリカにおけると同様人口稀薄な地域を有しております。日本では、アメリカと同様、一地域から他の地域に不断の人口移動が行なわれております。

また日本では、アメリカのように、職業の絶対数は着実に増加していますが、すべての「職種」が平均して増加しているのではなく、アメリカのように、人口は職が得られる地域に移動する傾向があります。

したがって、日本における人口移動の背後にある基本的な要素及びこれらの要素の一般的結果は、アメリカにおけると同様であります。しかしながら同時に若干の根本的相違もあるのであります。これらの相違の一つは、地理的分布ということであります。第一図は日本がアメリカに重ねられておるところを示しています。アメリカにおける人口移動の範囲は、日本国内における人口移動の範囲より遙かに広範囲にわたっております。この範囲の相違ということが、時間、経費、社会的調整、及びその他の社会的要因に関する相違をもたらすのであります。

加うるに、日本の人口移動の影響は、アメリカにおける影響と相当異つておるのであります。人口移動の影響における主要な相違は、現在の人口密度に関係をもっております。(第二図) 日本は 1965 年に 1 平方哩に 679 人の人口密度を有しており、アメリカは 54 人でありましたが日本の 1 年間

の人口増加率はアメリカの増加率よりは非常に少ないのであります。

アメリカ国内における人口移動の方向と大きさ

今朝の私のお話は、アメリカの人口移動の方向と大きさ、及びどうして移住が起るのか、移動する人はどんな人か、この人口移動の重要な経済的帰結は何か等について専ら説明いたします。これらの題目に関する私のお話は、アメリカ国内の経験にすぎませんけれども、きつと多くの点で皆さん方にも知られた事柄であると存じます。と申しますのは、皆さん方は、日本国内の人口移動について基本的に同一考え方に立つておられるからであります。

第3図は、1950年～1960年間のアメリカ各州内における雇用総数の百分率増減を示しております。この図の下部の説明は、図示した百分率増減の範囲を示しております。これによつて雇用における最大の百分率増加は、西部諸州に起つていことが分ります。もつとも東部のニューヨーク、コネティカット、ニュージャージー、デラウエア、メリーランドも相当の増加を示しておりますが………加うるにシカゴ地域、イリノイ、ミシガン、オハイオ諸州は、非常に大幅の増加を示しています。西部地域とアメリカの既成工業地帯は最大の雇用増加率を示しております。

働らく人々は、引退しておるか裕福に独立している場合のほか、職のあるところに移動することはさきに述べました。これは彼等の家族のために生活費を得ることが必要だからであります。この論理は、第3図と、アメリカ国内各州における1950年～1960年間の人口増減を示す第4図とを比較すれば分ります。重ねて人口増加率の大きいのは、西部地区、シカゴ周辺の工業地区及び若干の最東部の州であることが分るのであります。

アメリカ中心部には比較的雇用が増加しないし、また大陸中央部地区には比較的人口増加率が低いと不用意に考え勝ちであります。同様にこれら大陸中央部諸州には経済発展の進度が遅かつたと一般に考えられ勝ちであります。

このような仮定は、必ずしも真実ではありません。今朝私が強調したいと思
いますことは、経済発展は大陸中央部諸州にも起つたということ及び、人口
は経済発展の十分な指標にはならないということでもあります。この点に関し
後に更にくわしく述べてみたいと存じます。私は一つの重要な真実について
皆さんの注意を喚起したいと存じます。比較的人口増加率の低い州の多くは、
農耕が雇用全体のうちで高い率を占めている諸州であるということでありま
す。

第 5 図は、アメリカ国内の人口移動の形態を示したものであります。陰影
のある部分は「流出移動」(out-migration)の地域であります。流出
移動という言葉は、しばしば誤解されております。この言葉は必ずしも州の
絶対的人口の喪失を意味するものではありません。ある州の 1950 年にお
ける人口数を基礎として考えますと、出生は加えられ、死亡は減じられ、そ
の州は 1960 年には、一定の本来有すべき人口 (potential popula-
tion) を有している筈であります。もし実際にこの州が本来有すべき人口
(potential population) よりも少ない人口を有しておるならば、流
出移動が生じたのであります。もしその州が potential population より
も多くの人口を有しているならば流入移動が起つたのであります。流出移
動とか流入移動という言葉は、このように使われるのであります。陰影のあ
る州のすべては、この期間中彼等の住民がその州に留つていたとしても、
1960 年に本来有すべき人口よりも少ない人口を有していた州であります。
言葉を替えて申せば、第 5 図の「陰影」のある州の多くは、人口の増加はあ
つたとは言え、純粋な流出移動が起らなかつたとするならば、もつと多くの
人口増加があつた筈であります。

重ねて私は、流出移動の州は、農耕が全体の職業に対して比較的高い比率
をなしている州であると指摘したいのであります。

第 6 図は、アメリカ国内における人口移動のもう一つの別の型を示してお
ります。人口 5,000 人以下の都市は、人口 50,000 人以上の都市が 32.8

％の増加をみているに反し 22％の減少をみております。小都市から大都市へのこの移動は、アメリカでは長年にわたり起つている現象であります。そして小都市にも大都市にもいろいろの問題を起しております。職は多くの小さい都市に減少し、大きな首都地域に多くの新しい職がつくり出されていることは、経済学上の真理であります。アイオワの関心事の一つは、州内に人口 5,000 以下の都市 900 以上も有していることでもあります。

第 7 図は、人口 500,000 以上の都市を示しています。—これはアメリカでは大都市であります。これらの都市の大部分は、東部と西部に位置し、中西部には殆んどありません—これは一部大陸中部地域からの流出移動を物語っております。これらの大都市に職が増加して、小都市に減少している時には、大都市の位置は、全般的人口移動に影響を及ぼします。

移動の刺戟は国の経済発展より来たる

一般の人々は、流出移動は経済発展に起因し、事実経済発展に貢献するということを認識せずに、経済の衰退と関連させようとしがちであります。生産力は、経済発展の最も信頼の置ける評価基準の一つであります。もし生産力の増加が、消費者側にとって望ましい増加であるならば、その生産力の増加は、収入の増加という報酬を与えられるであります。

第 8 図は、アイオワにおける年間 1 人あたりの生産力の変化を示しております。アイオワは流出移動の州であり、比較的雇用者の増加も少なく、人口の増加も僅少であります。これら一般的統計の底にひそむものを観察者が探求するならば、彼はアイオワ州内の農業も農業以外の仕事も、両者の生産力の増加は、まことに顕著であることに気付くであります。農業以外の労働者の一人あたりの生産力の 24％の増加に比し、農業従事者の一人当りの生産力が 59％増加したことは、すさまじい経済発展を示すものであります。

また、農作物における驚嘆すべき生産力の増加は（1）収獲の改良及び更に重大なことは（2）単位労働力に対してより多くの土地と資本を増加する農園の統合＝＝これによつて一人当りの年間生産力を増加する＝＝の結果であることに注目すべきであります。

しかしながら農作物の生産力の増加は、仕事が少ないことによるのである。一人の農夫が隣りの農場を自分の農場に加えると、一家族が農業を止めることになるのであります。その結果われわれは、農業における経済発展（生産の増加）は、仕事を減らすという珍らしい事情を引き起しておるのであります。他方農業以外の経済発展はしばしば、仕事を殖やしておるのであります。農業における固定した土地は、農業以外の産業では当面することのない制約をもたらすのであります。それ故農業における技術的経済的発展が早ければ早いほど、一そう農耕の仕事の減少を早めるのであります。農耕の仕事が全体の雇用に対して、高い比率をもっているところでは、（発展に起因する）農耕の仕事の減少を（発展に起因する）農耕以外の仕事の増加をもつて相殺することが著しく困難になるのであります。

このことは第 9 図に示されております。1950 年～1960 年間のアメリカにおける農耕の仕事の数は、ほぼ 15% 減少しておりますが、他方農業以外の仕事は 15% 以上増加しております。全国的に見て農耕の仕事の減少は、新らしい農業以外の仕事ははじめられることによつて相殺されるよりも激しいのであります。しかしながら新らしい農業以外の仕事は、必ずしも農業の仕事が失われる地域に生ずるとは限りません。

第 10 図は、アイオワの農村人口が 1900 年以来急速に減少していること及び、都市の人口が急速に増加していることを示しております。全人口のうち農村の人口の占める割合は、74% から 46.9% に減少しています。このことはアイオワが農業以外の仕事を新たに起すことに成功していることを示すものであります。アイオワが農業以外の新らしい仕事を起して成功はしましたが、すはらしい農業の発展のため全体の雇用を無くすことによつて殆

んど抹殺されてしまいました。そしてアイオワの全人口統計を最も平凡なものにしてしまいました。それにもかかわらず、詳しく調べてみると、農業及び、農業以外の産業の両者において、アイオワ州内に経済発展が起つていることを知り得るのであります。

移動する人はどんな人々か？

流出移動地域における人口移動について最も警戒を要する局面の一つは、移動者の選択 (selectivity) = 勝れたものが選ばれること = ということであります。多くの移動者は、多くの他の経済的手段をもっている若い人々であります。彼等はある程度の訓練と教育とを有しております。彼等は進歩的態度と高度の楽観主義と野心とを有しております。これらの人々は、何処かでよりよい経済的機会をもっているか又は、もち得ると信じ、ある地区を離れます。仕事の総数は、アメリカの大陸中部地区よりも他の地域において一層急速に増加しております。しかしながら、老令者や慎重派の人又は保守的な人々は、流出地域に留っております。この種の移動の選択性は(よいものだけが選ばれること)、流出地区の社会的、経済的発展に関していろいろの意味をもっております。第 11 図は、アイオワ以外の二つの流入州と比較し、流出州アイオワの年令別の変化を示しております。20 才～40 才令層の減少は、流出州の明白、かつ、典型的なものであります。

もちろんすべての移動者が経済的利益のため住所を変えるというわけではありません。アメリカには失業者や「少しばかり自棄的な者」が、住所を変えれば何かよいことがあるかも知れないと期待して住所を変えることもあります。しかしながら不幸にして多くの人々は大都市のスラム地区に引き入れられるのであります。そこでは彼等は何らの経済的利益をもたらすことなく、また彼等自身のため、彼等が居住する都市のため、社会問題を大いに増加させております。この種の移動は、それによつて引き起される社会問題の重大

さの故に、軽視さるべきではありません。しかしながら数のうえから見ると、大部分の移動は、その他の理由によるものであることは、まことに幸いであります。

発展という観点から見た人口移動の効果

国家の発展は、すべての人々に平均して利益を与えるものではなく、また、すべての産業に平均して利益を与えるものでもなく、更に、地理的な区域に平均して利益を及ぼすものでもないことは、経済上の事実であります。したがって経済的発展より生ずる人口移動は、各種の問題や恩恵を招来するものであります。多くの問題は、移動者が立去る土地と移り住む土地に起ります。流出移動から生ずる主な問題の一つは、農村の小都市の小企業に与える経済的圧迫の増大であります。現在の小売商人の数は、遂次に減少する人口のため、商売を継続することが困難であります。農村地域は、医者や弁護士や歯科医のような知的職業者を維持して行くことは困難であります。また農村地域が彼等の教会や学校、行政活動を、減少する人口を基盤として、維持して行くことは困難であります。アメリカの農村では、コストの上昇と減少する人口のため公共団体の位置と統合とが、重要な問題となつております。

かつまた、流出移動の問題は、地域社会の人々の態度に緊張をもたらすのであります。そしてしばしば欲求不満や紛糾や敗北主義の態度となつて現れ、かつ、しばしば冷酷ささえ引き出しておるのであります。

しかしながらこれらの問題も、流入移動の地域に引き起される諸問題に比較すると決して大きな問題ではありません。第 12 図は、多くの移動が、すでにアメリカ最大の人口密集地に向つていることを示しています。このような人口移動は、道路、交通機関、空港、通信連絡等の諸問題を一層悪化させております。人口密集地域は、住宅問題や適切な行政の実施や、適切な施設の供与において、漸次困難を加えております。人口密集のその他の問題は空

気、水の汚染、及び組織的警察の保安行政、教育、衛生その他に漸次困難を加えて来ております。

それ故私は、移動は各種の問題を伴うものであると申し上げたいのであります。多くの重大な社会的経済的問題がアメリカ国内の人口移動から起つております。同時に人口移動は恩恵も伴つており、流出移動により経済的發展が可能であることを認識することも重要であります。

第 13 図は、1960 年と 1975 年間に於けるアイオワの生産額の予想される増加を示してあります。この価格は、アイオワの予想される将来の流出移動にも拘らず約 100 パーセントの増加が期待されてあります。時には経済發展は、流出移動のために起ります。もしもすべての労働者がアメリカ国内の農業に従事したとしたならば、一人あたりの生産高の増加は、歴史的記録が示すほどには大きなものにはならなかつたであります。

第 14 図は、流出移動の地域 == アメリカの平原諸州 == が、全国平均と比較して、1 人当りの収入が増加していることを示してあります。1929 年から 1933 年まで平原州の 1 人当りの収入の平均は、アメリカの 1 人当りの収入 525 ドルの 79.6 パーセントでありましたが、1965 年に平原州の 1 人当りの収入は、アメリカの 1 人当りの収入 2.746 ドルの 95.6 パーセントでありました。アメリカの 1 人当りの収入は着実に増加しており、平原州（流出移動地区）は、絶対的意味においても相対的意味においても、彼等の 1 人当りの収入を増加して参りました。アイオワでは 1966 年に 1 人当りの収入が、州の歴史上始めてアメリカの 1 人当りの収入を凌駕いたしました。流出移動は、生産力の増加と 1 人当りの収入の増加を妨げるものではないということは、注目すべきであると存じます。流出移動に伴う使用資源の減少は、生産力と収入に大きな増加をもたらすものであります。

何故ならば流出人口は、もとの場所よりも新しい場所でより多くの商品を生産しサービスを行なつておりますので、国家の経済發展に対する貢献は、移動後は移動前よりもより大きいのであります。

第 15 図は、1950 年に 69.2 パーセントの家族が年収 4,000 ドル以下であつたことを示します。1960 年には僅か 42 パーセントがこの部類に属しておりました。アイオワは年収 4,000 ドル以下の家族の減少に同様の改善を示しました。不完全雇用の地域又は仕事の少ない地域から完全雇用の地域又は仕事の多い地域への人々の移動は、低収入の家族を減少するものであり、かくして、アメリカ国内の家族に一層公平な収入の分配をもたらすものであります。

人口移動のその他の影響や恩恵を述べることも出来ます。恐らく人口移動の恩恵のうちの一つは、訓練と教育に対する必要性の認識、公的私的及び経済的社会的調査研究に対する必要性の認識、建設的な閑暇時の活動とレクリエーションの機会及び、文化的発展に対する必要性の認識であります。

む す び

人々が去つて行く人口稀薄な地域と人々が集る人口稠密な地域を招来する人口移動の問題に関し、多くの人々の間で、多くの産業の間で、地理的地域間に配分すべき恩恵に関し、これらの問題や恩恵や影響及び解決手段を論及するため、国・州及び地方自治体の **planning** が進めらるべきことは、將に重要喫緊となつてきています。このような **planning** の目的は、すべての人々のためその恩恵を最大のものとし、その影響を最少のものとするのであります。物質的、社会的、経済的 **planning** の過程に、より大きな投資を行なうことによつてのみ、このような目的が達成されるのであります。

このあとアイオワ州の計画立案者であるフランク・コビントン氏が補足説明に立ち、「人口移動問題の対策としては、優先的に予算を組まなければならない」と基本方針をのべた。このためには目標を確立することが先決であり、ことを運ぶにはコストに比例した利益を考えねばならない。つまりコス

トと利益の選択によつて決まる問題だと話した。

これに対し日本側からは、木村福島県知事及び加藤岡山県知事が、別項のとおり演説した。

写真あり

第 1 図

JAPAN (日本)

POPULATION (1965)	98,282
(人口)	
POPULATION PER SQUARE MILE	679
(一平方マイルにつきの人口密度)	
ANNUAL RATE OF POPULATION	
INCREASE (人口年間増加率)	1.0%

UNITED STATES (アメリカ合衆国)

POPULATION (1965)	193,818
(人口)	
POPULATION PER SQUARE MILE	54
(一平方マイルにつきの人口密度)	
ANNUAL RATE OF POPULATION	
INCREASE (人口年間増加率)	1.5%

第 2 図

写真あり

第 3 図

写真あり

第 4 図

写真あり

第 5 図

現役軍人を除く総就業パーセンテージの増減
Size of city カウンティ（郡）内の Percent change in total
in the county 市のサイズ（市の人口） civilian employment
写真あり

第 6 図

写真あり

第 7 図

(アイオワ州の各人平均年生産力増加)

IOWA
PRODUCTIVITY INCREASE
PER MAN YEAR

	1950	1960	(増加率, %) PERCENT CHANGE
FARM (農業)	\$ 4,421	\$ 7,021	59
NONFARM (農業外)	\$ 5,550	\$ 6,900	24

PRODUCTIVITY IN TERMS OF VALUE ADDED, NOT
TOTAL SALES

(総売上額ではなく, 価値増加による生産力)

第 8 図

(1950年から1960年にかけての)
CHANGE IN UNMBER OF JOBS
(アメリカ合衆国における職業数の変動)
IN UNITED STATES 1950-60

写真あり

第 9 図

アイオワの人口
IOWA POPULATION

	Rural (農村)	Urban (都市)	Percent Rural パーセント (農村の全体に対する)
1900	1,659,467	572,386	74.3
1920	1,528,526	875,495	63.6
1940	1,454,037	1,084,231	57.3
1960	1,295,025	1,439,525	46.9

第 10 図

POPULATION CHANGE BY AGE 1950-60
1950年から1960年にかけての年齢別人口パーセンテージ増減

AGE (年齢)	IOWA (アイオワ)	ARIZONA (アリゾナ)	CALIFORNIA (カリフォルニア)
under 19 (19才以下)	+ 18.9	+ 86.2	+ 81.3
20-40	- 12.6	+ 52.8	+ 26.0
40-55	+ 03.1	+ 76.8	+ 41.7
55-65	+ 03.4	+ 73.8	+ 34.5
65-over (65才以上)	+ 17.3	+ 100.4	+ 51.6

第 11 図

写真あり

第 12 図

アイオワの生産価値
 VALUE OF IOWA'S OUTPUT
 (In constant dollars)

1960	8,519 million dollars (85 億 1900 万ドル)
1975	15,749 million dollars (157 億 4900 万ドル)

第 13 図

Five Year Per Capita Personal Income
 各人平均所得 (年平均)

United States, Plains Region, and Iowa
 アメリカ合衆国全体, 平地 地域, 及び アイオワ

1929 - 1963

	U. S. Per Capita Personal Income \$ (全国各人平均所得)	Plains As A % of U. S. 平地地域 全国を 100 としての%	Iowa As A % of U. S. アイオワ 全国を 100 としての%
1929 - 1933	525.1	79.6	77.2
1934 - 1938	506.3	80.2	80.4
1939 - 1943	778.3	84.5	86.5
1954 - 1958	1,947.4	91.2	90.0
1959 - 1963	2,295.6	94.2	92.2
1963 - 1965	2,449.0	95.2	94.0
1965	2,746.0	95.6	97.5

Source : Iowa Business Digest November

第 14 図

(アメリカ合衆国における, 年収 4,000 ドル以下の家族の)
PERCENTAGE OF U. S. FAMILIES WITH LESS
(占めるパーセンテージ)
THAN \$ 4,000 ANNUAL INCOME

写真あり

第 15 図

人口移動に伴う社会的経済的諸問題について

福島県知事 木 村 守 江

まず、日本における人口移動の状況と、その特色について申し上げます。

日本は、19世紀末いわゆる明治時代の中期から産業革命の進展とともに、農村から都市への人口集中が進んだのでありますが、第二次世界大戦中から戦後へかけて、戦災と疎開のため、都市人口は、農村地域へ一時逆流したのであります。

しかし、戦後、戦災都市の復興とともに、再び都市への人口集中が進み、特に、1960年以降、高度経済成長とともに農村から大都市への集中化が著しく激化したのであります。

第二次世界大戦後の人口移動の状況とその特色をみますると、まず第一に、人口移動は、農業を中心とした後進地域から、東京、横浜、名古屋、京都、大阪、神戸の六大都市をはじめ、太平洋沿岸の先進地域へ集中するという形で行なわれているのであります。

第2に、人口移動は、1955年以降急激に行なわれておりますが、1955年から1960年間と、1960年から1965年間とでは、その様相は若干異なっているのであります。すなわち、1955年から1960年間は、東京、大阪等の大都市を中心に増加しているのでありますが、1960年以降は、これらの大都市の都心部よりも、その周辺地区への増加率が急激に上昇しているのであります。

この原因は、大都市の生活環境の悪化により、隣接県への転出が増加したこと、並びに他の地域から大都市へ集中するものも、住宅や土地などの関係から、その周辺部に定住地を選んでいることにあるのであります。

第3に、人口流出地域は、東北日本海沿岸、西南日本に多く分布しておりますが、それらの地域にあつても、とくに人口3万人未満の市町村における

流出が多く、逆に、人口の増加している地域は、太平洋沿岸や瀬戸内海沿岸が中心であります。特に大都市ほど人口の増加率は大きくなっているのがあります。

第 4 に、人口移動の主体をなすものは、若い生産年齢人口であり、このため、都市農村とも年齢別人口構造は著しく変化し、大都市では、若年労働人口が膨張しているのに対し、農村ではその老令化、女性化が目立っているのありまして、さらに、この年齢別人口構造の変化は、出生率にも影響を与え、特に、農村の低い出生率は将来における新規労働力の供給量を縮減させる可能性があるのあります。

第 5 に、人口移動に伴う農業人口の減少とあわせて、特に 1960 年以降は、挙家離農の傾向も無視できず、人口のみならず農家戸数も大きく減少しているのあります。

このような現象は、高度経済成長下の労働力の急増と新規供給量の縮減による労働市場の需給関係の緊迫によるものであり、さらに農業自体としても、技術や機械化の導入が進んだことが原因としてあげられるのあります。

また、戦前農家人口の流出を規制していた家父長制的家族協業体制ともいうべき「家」から解放され、次三男はもちろんあとつぎも自主的に職業の選択ができるようになったことも離農の原因となつていると考えられるのあります。

以上、人口移動の状況とその特色について申し上げましたが、このような人口移動の傾向は、今後もそう急速になくなることはないものと考えられるのあります。しかし、移動促進の要因と抑制要因とがからみあつて将来の推計は極めて困難であります。

ここで、人口移動に伴う当面する社会的、経済的諸問題とその対象について申し述べたいと存じます。

まず、人口移動に伴う地域的課題の一つには、過密問題がございます。これは、都市部に人口や産業が過度に集中することにより、都市の主要な機能

に麻痺現象を起こしていることでもあります。

そして二つには、過疎問題であり、これは生産活動に直接関係する若年労働力の減少による産業の停滞――特に、農業生産の維持が困難になつていのほか、防災、医療、教育活動等の地域社会の基礎的条件の確保が困難になつて、共同体としての地域社会の存続を危うくしていることでもあります。

これらの問題の基本的解決を意図して、これまでも政府や地方公共団体の手によつて、新産業都市の建設や工業整備特別地域の設定など各種の地域開発政策が実施されてきたのであります。

もちろん、その成果は全くなかつたわけではありませんが、最近における人口移動は、依然として大都市をはじめ先進地域に集中しているのが現状であります。

これまでの地域開発は、どちらかというところ、経済開発に重点がおかれていたのであります。そのみでは人間の生活が向上するわけではないのでありまして、日本における人口の動向、人口の構造の著しい変化と、社会的、経済的発展との関連を十分に検討し、経済面のみではなく、社会開発面を重視した人間中心の考え方にたつて対策を講じていく必要があると考えるのであります。

すなわち、具体的にはまず、人口集中地域への対策としては、人口集中の激化している大都市に対し、集中を可能な限り抑制するとともに都市のもつ諸機能や企業の一部を地方に分散すること、並びに一方では都市の再開発を進めて行くことでもあります。

これは、いずれも容易に行なえる問題ではありませんが、それぞれに有機的な関連をもつて進められ、他方、後進地域の開発が行なわれてこそ解決への道に近づくことになるかと考えるのであります。

また、人口減少地域への対策としては、人口激減地区（過疎地域）と、それ以外の減少地区（後進地域）とに区分して考えることが必要であると存じます。

人口激減地域に対しては、その地域に散在している集落のうち、比較的まとまりのある集落をその地域の拠点として、そこに公共的な施設を集中し、交通網を整備することにより、広域的な立場から地域の再整備をはかることでもあります。

また、公共施設の設置、維持が困難な過疎地域においては、いくつかの集落が共同で住民生活維持のための基礎的公共施設を設置し、その利用の促進をはかることでもあります。

さらには、より積極的にいくつかの集落の住民を適地に集中し、集落の再編成を行ない、再編成した新しい集落に公共施設を充実することでもあります。これらの対策が将来は基本的な施策になると考えるのであります。

その他の人口減少地区に対しましては、国土の均衡ある利用、地域格差の是正、住民生活の向上という観点から、地域の開発を進め、かつ、これまでの画一的な産業開発から、地域の特性を活用し、日本全体の中での分担すべき機能を考慮した開発を行なうことでもあります。

特に、生活環境施設等の拡充、教育文化面での充実等をはかり、豊かで住みよい魅力ある地域をつくる必要があります。

以上、人口移動と社会的経済的諸問題について申し上げましたが、この命題に対処する基本的な姿勢は、社会的な面での開発と経済的な面での開発とが調和と均衡のとれた形で進められなければならないということを最後に申し上げて、与えられた命題に対する発表を終わります。

住民の自治意識とこれが高揚について

岡山県知事 加藤 武 徳

近年政府の活動が膨張の一途をたどっていることは、各国共通の問題であると考えるのであります。わが国においても、かつては国家の任務は、消極的な治安が主であつて、個人の生活には関与しないがよいとされていたのであります。しかし、19世紀の終りごろから20世紀になると、国民が幸福な生活を送れるようにするためには、国家が社会、経済の面において積極的な関与を行なう必要があるところから、国家は国民に対して一定水準の幸福な生活を保障する責任を負うものであるとされたのであります。

わが国の憲法においても、「すべて国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する。国はすべての生活部面について、社会福祉、社会保障及び公衆衛生の向上及び増進に努めなければならない」と規定し、福祉国家の理念を明文化しまして、国家、社会の要請する種々の行政のうち、全国的な水準をもつて、あるいは全国的にまとめて処理した方がよいものは、中央政府の責任とし、住民の日常生活に直結したものとして地方の実情に即して処理した方がよいものは、地方政府すなわち県、市町村の責任となすべきであるとされているのであります。しかし、福祉国家の機能が充実されるにしたがつて、その行政事務はますます複雑さを加えてまいりますので、財源的問題とともに、中央政府と地方政府（地方公共団体）との行政事務の配分については常に議論がなされているところであります。

わが国の地方自治も憲法において、国家の基本的な統治構造の一環として保障されているところでありますが、これが制度化するにあつては三つの事項を基本原則としており、それは、第一に住民の権利の拡充、保障、第二に地方公共団体の自主性、自立性の強化、第三に地方公共団体の能率化と公正の確保であります。このうちの住民の権利の拡充保障という第一の原則は、

自治運営の責任主体が住民であつて、団体意思の最終決定権は住民であるということに他ならないのであります。住民が選挙によつて自分達の代表を選びその代表者を通じて間接に行政に参加するという、いわゆる間接民主政治の方式がとられているのであります。このほかに条例の制定改廃請求、事務監査の請求、議会の解散請求、議員、長等の解職請求など直接請求の権利が認められており、現行の自治制度は間接民主政治の方式のみによらず、直接民主政治の方式をも補完的にとり入れ、議会主義の欠かんを補充しているのであります。これらはいずれも住民の権利の拡充にほかならないのであります。各種の直接請求の権利は、従前行なわれてきた地方自治行政に対する国の後見的な監督に代るものであり、間接民主制を補完する機能として地方自治制度の特色であるとされております。

ところで、中央政府と地方公共団体の間で、事務や財源の適正な配分が行なわれ、地方社会の合理的再編がなされたとしても、地方公共団体が与えられた財源を有効に利用し、その法上の正当なる権限を最大限に發揮するためには、地方公共団体の行政能力を十分に涵養する必要があります。その行政能力を欠くならば自治の振興は画餅におわるでありましょう。そして行政能力の充実のためには、地方公共団体の物的設備の充実、人的訓練の徹底、事務能率の増進とともに、住民の自治意識の高揚が欠くべからざる要素であると思うのであります。

地方自治体の行政も、中央政府と同じく住民の負担において行なわれるものでありますから、住民の権利の適切な行使と住民の政治行政に対する意識の高揚がとくに要求されることはいうまでもないところであります。いかに制度が十全でありましてもこれを究極においてコントロールする住民の自治意識のうらづけがなければ、複雑な制度はいたずらに浪費し非能率を招くばかりでしょう。

しかるにわが国においては、残念ながらこの点はかならずしも充分であるとはいえないのであります。住民の自治意識を測定することはなかなか困難

であります。選挙権および直接請求権の行使の面、あるいは世論調査などによつて若干の考察を試みたいと思います。まず住民がその選挙権を行使するにあつて、無自覚であるということは、およそ近代国家では考えられないことでもあります。特に最近では、「明るく正しい選挙」の推進を住民運動として盛り上げ、津々浦々にいたるまでその啓発にあたつており、自治意識の高揚に努めているのであります。地方選挙の投票率からみますと、住民の最も身近な市町村の選挙においては、昭和38年の統一選挙では、市町村長選挙の平均投票率80.19%、市町村議会議員選挙の平均投票率85.94%と比較的高いのであります。県の段階になりますと同じく統一選挙において、知事選挙77.27%、県議会議員選挙80.52%と市町村の選挙と比較いたしますとやや下つてまいりますが、選挙に関する限り形式的にしる住民の意識は高まつてきていると考えられるのであります。ただ投票率の上昇は、同時にその内容において住民が充分みずからの権利と役割を自覚したものでなければなりません。古い因襲や慣習にとらわれて、無自覚的に投票所に行くことが高い投票率となつて表われるのならば、むしろ、その高さ自体が問題といえましょう。また直接請求権の行使にあたつてはどうでありましょうか。ともすれば、直接請求権の発動が特定の政党の宣伝利用のために使われたり、あるいは或る地域や個人間の感情的対立のはけ口とされているという事情が無しとしないのであります。このことは、地方自治の自殺行為であるというほかはないのであります。特に選挙の直前において直接請求の発動が多く行なわれる事実からは若干権利の適切な行使に欠ける面をうかがうことができるのであります。

次に昭和40年3月日本政府の広報室が発表した「自治意識に関する世論調査報告書」によれば、調査対象数3,000のうち回答数は2,422(81%)でありましたが、自分の住んでいる県の知事の名前を知っている者が77%、市町村長の名前を知っている者は82%となつていました。また自分の住んでいる県や市町村のやつていいる仕事についての要望や不満を持つて

いるかとの間に対して、持っていると答えたものは40%、持っていないと答えたものは60%となっており、県や市町村についての要望や不満を申し出たことがあるかとの間に対して、あると答えたものは11%にすぎないのであります。これをみても県や市町村の行政に対する意識はまだまだ充分でないと思われるのであります。もとより住民の自治意識は、他の全ての政治問題と同じように、急速に高揚するというよりは、長年月にわたる住民の経験によつて徐々に高まつて行くものでありましよう。また、そう期待するところではありますが、同時に地方政府の首長や議会議員がみずからの行政や活動を通じて積極的に自治意識の高揚に努めるべきでありましよう。それが地方政府の基礎と民主社会の基礎をより強固にするものであります。これが具体策についてはいわゆるきめ手となるべきものが容易に見当らない状況であります。

こうした問題について、貴国における州民の自治に対する意識は、いかがでしょうか、また自治意識の高揚について特別に配慮されている具体的なことがあれば、お伺い出来れば幸いです。

なお、加藤知事は「夕刊新聞」に、住民の自治意識の高揚に関する知事の演説について、次のように発表しておられるので、引用させていただくこととする。

“自治意識”高める

加藤知事渡米第三信

わたくしが日米知事会議でコメントした「地方公共団体の自治意識とその高揚について」の概要にふれておこう――。中央政府の活動が、近年しだいに活発となり、地方にまでどんどん手を伸ばしている現況だが、この結果中央と地方の権限の問題、財源の配分の問題などが、議論の中心となつている。

また、日本では地方自治を国の統治構造の重要な機構としており、地方住

民の権利の保証と拡充，地方公共団体の自治制の強化，能率化と法制の確保などが基本的原則であることを指摘した。この地方自治の原則を実行するために，都道府県の知事や議員を選挙によつて選ぶ方法と，そうでなしに県の条例の改廃を請求したり，議会の解散や知事，議員の解職を請求するリコール制度も認められている。従つて自ら票を投じて選んだものが政治にたずさわる間接民主政治方式のみならず，直接民主政治の方式をもつていることを述べたのである。

公共団体が定まった財源で多くの仕事をするためには，どうしても住民の地方自治に対する意欲が強くなければならない。つまり，自治意識を育てていかなければならない点を強調したのである。住民の自治意識を測定することは，かなり困難なことであるが，わたくしはごく簡単に次の二点にしぼつて説明した。

まず第一に選挙の投票率である。毎回，日本では選挙の投票率が大いに問題になる。国のばあい，県，市町村のばあいとそれぞれ特色があるが，一般的にいつて身近な選挙ほど，投票率が高いという傾向がみられる。しかし，見方によつては古い因習なり，慣習なりにとらわれて「狩り出し投票」が行なわれているとすれば，投票率の高さが必ずしも自治意識の尺度とはならないことも指摘しておいた。

第二はリコールの問題だ。日本ではもちろん，リコールの請求が適正に行なわれているばあいもずいぶんとあるが，しかし，なかには特定の政党の宣伝に利用しようとする動きがないではない。また一定の地域や個人的な感情の対立が，リコールの大きな原因になつているばあいがないとはいえない。とくに選挙の行なわれる直前に，リコールが実施されたケースが何回かあるが，これが果たして適正な権利の行使であるかどうか，疑問であることも強調した。これらのことは，住民の自治意識の問題と密接な関係があり，権利の乱用であるとする議論が，背後にある点も報告したのである。

そこで日本における地方自治意識の調査内容も 2，3 報告した。それは

昭和 40 年 3 月，日本政府の広報紙が発表した「自治意識の世論調査報告書」によつたのであるが，3,000 人の調査対象のうち 81%にあたる 2,422 の回答が基礎となつている。内容別に列挙すると，在住県の知事の氏名をしつてゐる者が 77%，市町村長の氏名をしつてゐる者は 82%，県，市町村に対する要望や不満をもつてゐるものが 40%，もつてゐない者が 60%であつた。このうち県や市町村に不満や要望を申し出たものは，わずか 11%にすぎなかつた。これをみても，県，市町村の行政に対する意識は，まだ，じゆうぶんとはいへない。

他のすべての政治問題と同じように，住民の自治意識を急速に高揚することはなかなかむずかしく長年月にわたる住民の経験によつて徐々に高まつていくものだろう。同時に，地方行政の首長や議員が，自らの行政や活動を通じて積極的に自治意識のレベルアップにつとめるべきだと考える。米国では州住民の政治に対する意識のていど，また，どのような方法で自治意識の高揚に努力されているか——と，問題提起のまま，報告を終えた。（アイオワ州デモインで）

日本側の意見発表が終ってから討論に入ったが、その概要は次のとおりである。

ユタ州ランプトン知事

農村から都市への人口移動は、日米共通の問題であります。日本は農業が主な産業でありますので、日本の人口移動は、社会的理由よりはより多く経済的理由によるものと思われませんが、いかがでしょうか？

木村知事

日本の人口移動は、社会的理由ではなく、経済的理由によるものと思います。ただ日本とアメリカと異なる点は、日本は国土が狭く人口密度が高いのでありますが、アメリカはこれに反しております。さきほどお話がありました技術を求め昇進を求めて移動することはよく分るのでありますが、日本では全く収入が無い場合、又は生活に困るため、家族を残して単身出稼ぎに出る例が多いのであります。この場合、必ずしも約束された収入があるとは限らず、女性問題や飲酒等のため、家庭を破壊するような例が多くあります。特に日本の北部地方にこのような例が多いのでありまして、この問題は、経済的問題より社会問題として取上げられております。この点についてアメリカでは、どのような対策を立てておられるか伺いたいと存じます。

ウエスト・ヴァージニア州スミス知事

質問はよく分かりました。ウエスト・ヴァージニアでは、同じような経験をして参りました。このような問題が将来起らないように、連邦政府から十分な経済援助を得て、地域開発にあたりました。もちろん州としても人口移動

の対策として、連邦と協力して解決に努力いたしました。アパラチヤ地域は、――景気後退地区であります――公共投資を得て、基本的設備すなわち交通、教育、保健の施設を整え、天然資源の開発を地行的に行なつて、健全な経済を築き上げるため、成長センターを設けて努力しております。

ワシントンでは最近大都市の周辺に集落――New town――を作り、流入人口の吸収を図つており、中央アパラチヤ計画では、人口移動に伴う問題の解決に努力しています。ここは人口 150 万をかかえ、人口密度は全アメリカを上廻っていますが、交通、住宅、教育等及び就職の機会を増大するため、現在の市の周辺に New Town を作つて、人口をこれに吸収し、人口移動を喰ひ止めようとしています。このような仕事は、地方自治体でもやつて行けると思ひます。月の世界に人間を送る時代ですから、このような人間の社会的経済的問題を解決し得る能力をもっている筈であります。

加藤知事のいわれた自治意識の高揚について、ウエスト・ヴァージニアでは、市、郡の選挙で 7 割か 8 割位しか投票しない地域がありますが、これは自治意識が十分高揚されていないからではないかと思ひます。

ノース・ダコタ州ガイ知事

日本政府は、人口をうまく配分するような＝つまり人口稀薄の地域に人を移動させるような＝何らかの政策をとつておりますか？

木村知事

日本政府としては、人口の移動と産業の発展とを調和のとれた状態にしたいと努力しています。すなわち過密都市を解消し、地方分散をさせ、人口の都市集中を避けるよう努力しています。しかし人口は、産業の発展しているところに集中する傾向があります。そして取残された農村の人口は、減少しています。先程アイオワ州の例として、人口は減つたが生産と個人所得は上つているというお話がありましたが、日本においても、技術と機械の導入に

よつて、生産が上つているところがありますが、日本では人口減少の結果、現在の状態が続くと、農家の跡継ぎがなくなり、農業生産が低下して行くことが心配され、これが非常に大きな問題となつています。

安孫子知事

農村の人口が都市に集中すると、農村の耕地がだんだん広がるということは、日本ではありません。日本では農村から都市に人が移りましても、耕地は手離さず、従つて農業に従事する者は、老人か子供になつて、生産が減少し、極端な場合は、荒地になつてしまいます。農民は、土地を先祖伝来の財産であると考え、手離さないのであります。従つて農家が減つても残つている農家の経営規模が拡張し、生産が上るといふことはありません。これが日本の大きな問題であります。この点アメリカでは、農地の転売と経営の拡大が非常にスムーズに行なわれているのではないかと思います。このことについて、アメリカ側のご意見を承わりたいと存じます。

アイオワ州ヒューズ知事

農地を売却して都市に移住することが必要ですが、日本では、先祖伝来の土地をあくまで手離すまいとしていますが、これはちよつとアメリカとは違つた考えであると思います。アメリカでは、日本のような伝統もありませんし、農村の人口が減るとかえつて生産は向上しています。木村知事が言われた、家族を放棄して単身出稼ぎに出る場合であります。アメリカでもそのような例があります。そのような場合アメリカでは、残された者に社会福祉を進め、生活援助をしておりますが、これは政府の大きな負担となつています。

マサチューセッツ州ヴォルフ知事

人口移動に伴う問題进行处理するためには、連邦政府と州政府の意志の疎通が大切であります。この点ジョンソン政府と州政府は、大変うまく行っております。

写真あり

説 明 ジョンソン大統領と記念撮影
昭和 42 年 5 月 24 日

第 2 部

各州視察と米政府高官との会見

5月16日（火）出発前

晴。

午前 11 時，訪米知事団一行は，アメリカ大使館に挨拶に行つた。折悪しくジョンソン大使は，恒例の下田祭に出席して不在であつたので，オズボン公使に大使事務室で会見した。公使は流暢な日本語で次のように語つた。

『私は国務省の職員でありましたが，日本にはライシヤワー大使就任の際参りまして，アメリカ大使館に勤めることになりました。私は，人と人とがじかに接触することが最善の理解の方法であると思つています。顔と顔をつき合わせての対話ほど，人を融和させるものはありません。』

巧みな日本語を駆使する公使は，なおも

『アイオワ州の人は，純情で真面目です。』

などと言つて知事の参考に資せられること多大であつた。安孫子知事は，

『この前アメリカを訪問しました時，日本知事団歓迎と漢字で書いた幕を張つて歓迎してくれましたが，このようなことは戦前には全く無かつたことです。』

といつた。田部知事は，

『日米がお互によく知り合つていなかつたから，無役な戦争をしてしまいました。よく知り合つていれば，あのような惨事も起らなかつたにちがひありません。』

と感慨深げに言われた。公使は，

『アメリカ西部の人たちは，割合日本を知つていますが，アイオワやロードアイランドの人たちは，よく知つておりませんから，日本の事情をよく説明して下さい。』

といつた。歓談約 20 分で知事たちは辞去したが，巧みな日本語と物慣れた

応待は、さすがに外交官と思わせるものがあつた。知事たちの顔も晴れ晴れとしていた。

5月17日 (水) 出発当日

快晴。

この日出発は午前10時の予定であつたが、きのう空港内に事故があり、多くの飛行機が欠航したので、それを取り返すため出発は約1時間遅れた。機内は中国人の婦人や子供で一ぱいだつた。

『高度1万メートル、時速980キロ、天気は清朗で順航を続けています。ホノルル国際空港着陸は、予定より約1時間遅れて午後11時の予定であります。』

と機内放送がある。東京国際空港を17日朝10時に離陸すると、約8時間を費して16日午後10時にホノルル国際空港に着くのである。これはつまり暦の日付と地方時との食いちがいがあるからで、これを調整するため、太平洋のほぼ中央の経度180度の線に沿つて日付変更線があつて、この線を東から西に渡れば1日進ませ、西から東の場合は1日遅らせることになっている。

日本知事代表団が乗つた宮島号は、1967年5月17日午後3時27分に、この日付変更線を通過したのである。

5月16日 (火) ハワイ州ホノルル

午後11時30分ホノルル国際空港到着。

税関には前回の訪米のときとは違つて制服の係員以外誰もいなかった。それでも税関の検査は何もなかった。

税関を出るとバーンズ知事や州庁職員，ホノルル総領事，日系人代表等多数の人々に迎えられ，例によつて各人首から薫り高いレイをいくつもかけてもらつた。空港でフラダンスの歓迎があつてから，夜も更けていたので直ちに州警察の自動車を連ねて，宿舎ロイヤル・ハワイアン・ホテルに向つた。就床午前2時20分。州警察官が一室を借りて，交互に不寝番をしてくれた。なお，バーンズ知事のほかこの夜空港に出迎えてくれた人々を記しておく。山本ホノルル総領事，夏目ホノルル領事，河野秀雄日商第一副会頭，手島日本人青年商工会議所会頭，磯島武夫夫妻，太田薫，フランク小田，桑田賢，安達正之夫妻，細川善次郎，大山幸雄，秋田光義，山崎昇夫妻，藤川敬三夫妻，緒方善次郎，島本清一，泉開教使，重永茂夫，山本常一の諸氏であつた。

われわれが忘れられないことは，宿に着いてからハワイを出発するまでの間，日本の知事一人一人に日本人会幹部の人々が付きそつて下さつて，いろいろと世話をしていただいたことである。御配慮を深謝申し上げる。

5月17日（水） ハワイ州ホノルル

晴。

5時起床。睡眠時間2時間半。

ハワイ，ワイキキ海岸の朝は美しくすがすがしい。日光が太平洋の白波に映え，椰子の木の間からさんさんと緑の芝生や草花の上にこぼれる。小鳥が木の枝の上で声高く歌っている。ハワイは「緑と花と囀」の島である。

清々しい朝という形容詞が，こんなに適切にあてはまるところを未だかつて知らない。

ワイキキの浜の食堂で朝食を食べていると，野生の鳩や雀が餌をあさりに来て，つい隣りのテーブルまで寄つて来る。ホノルルに来る度いつも見慣れ

た風景だが、何とも旅人の心を和ませてくれるほほえましい風景である。

「ワイキキの雀や鳩はみんな脚気にかかっているんですよ。骨を折らずに人間のお余りを頂戴していますので」と聞かされた。

椰子の木の中腹にブリキの環がはめてある。鼠除けである。30センチほどのブリキを鼠は登ることが出来ないのである。鼠は銀座のまん中でも、ワイキキの浜のホテルでも、地球上人間の住む処到る処に棲んでいるのだ。

安孫子団長メッセージ

午前9時安子孫団長は、ロイヤル・ハワイアン・ホテルのロビーで、新聞記者団に次のメッセージを英文で発表した。次に和英両文で掲げておく。

『この度日本知事代表团一行は、日米知事相互訪問計画に基づき、1965年10月日本を訪問された貴国知事団にお答えして、貴国を訪問いたしました。

私ども日本知事代表团は、今回アイオワ州デモインにおけるアメリカ側での第3回日米知事会議に出席するほか、貴国の主要各州の行政と産業の視察いたしますが、御地は私どもの旅程の最初の訪問地として訪問いたしました。

ハワイは、アメリカ本土と日本との中間に位置し、明治元年に始めて日本人が移住いたしまして以来、現在日系人の数は、ハワイの全人口の三分の一以上を占め、歴史的にも経済的にも、日本と最も深い関係を保っております。従つて私どもは御地を訪問して、少しも外国におるような感じがいたさないのみか、限りない親しみを覚えるのであります。しかも一年中常春の御地は、四時南国の香豊かなとりどりの花に囲まれ、太平洋の楽園として、日本人の憧憬の地であります。

昨晚遅く私どもは、ホノルル国際空港に到着いたしました。深更にもかかわらずバーンズ知事ご夫妻をはじめ、アメリカ全国知事会代表、州政

M E S S A G E

By Governor Abiko

Leader of Japanese Governors' Delegation

We the Japanese governors' delegation has fortunately been given an opportunity to visit your great country to reciprocate the American Governors' visit to our country in 1965.

Another aim of our governors' visit to your country at this time is to attend the American portion of the 3rd Japan American Governors' Conference, to be held in Des Moines, Iowa and to visit several leading states in your country to investigate their administration as well as industry. Honolulu is the first stop on our journey of inspection.

Hawaii lies about half way between your main land and our country, and history shows that the first migration of our people to Hawaii was made in 1868, the first year of Meiji. Since then the number of Japanese offspring together with our immigrants have remarkably increased, and at present the number of the Japanese Americans in Hawaii is somewhat over one third of its total population. It is quite natural that the Japanese have always been on good terms with the people in Hawaii historically as well as economically. Such being the case, we never feel any alien feeling whenever we come to this island, but rather we feel deep intimacy towards the people of Hawaii.

Moreover, since the climate of Hawaii is spring like all the year round, and the whole land is covered with fragrant tropical flowers, Hawaii is thought of as the land of aspiration to every person of Japanese background.

Yesterday, late at night, we landed at Honolulu International Airport and, though the evening was far advanced, yet Governor and Mrs. Burns, officers of the State Government, representatives of the National Governors' Conference and many other citizens were good enough to receive us warmly. Many fragrant leis were garlanded about our necks and we were intoxicated with the sweet smell of the flowers.

It is our earnest hope that the friendly ties between both our nations, the United States of America and Japan, may still more be strengthened in the future through mutual exchange visits of governors. At the same time we pledge that we will cooperate with our companion Governors of your country to promote educational and cultural exchange for the welfare of both nations.

Lastly I wish to convey to the people of Hawaii the good wishes and friendship of our 100 million Japanese citizens, from Kagoshima to Hokkaido.

府や市民代表の方々等多数の方々の盛んな歓迎を受け、それぞれ薫り高いレイを沢山首からかけでいただき、私どもの生涯の最良の日でありました。

私どもは、日米知事相互訪問計画を通じて、日米両国民の友好がますます深められますことを希望いたすとともに、学術文化の交流、経済の提携を盛んにし、両国国民の福祉の増進と世界平和のため、相共に協力して参りたいと念願いたしております。

1億日本国民の善意と友好をお伝えして、私のメツセージといたします。』

イースト・ウエスト・センター訪問

午前 9 時 30 分、ハイヤーを連ねてイースト・ウエスト・センターに向う。ハワイ大学構内にあるセンターに着くと、直ちに **Asian Room** に案内され、篠田博士から次のような説明を聞いた。

『イースト・ウエスト・センターは、1960年に米国政府によつて設立された。その目的は、東西の融和を図るためであつた。学生交換部、技術交換部、高等技術研究部の3部に分れている。

学生交換部では、大学院程度の学生が、毎年各国から約 300 人受け入れられる。期間は概ね 2 カ年で、奨学金で学生は勉強している。2 年間に、6 週間の本土 **tour** がある。アメリカの学生は、同期間東洋に派遣される。大多数の学生は、**Master** (修士) の学位をとつて帰国する。

技術交換部には、あらゆる方面の技術科があるが、今年 9 月からは、博物館の技術科が開設される。年間約 300 人の学生がこの部に入る。

高等技術研究部では、アジア及びアメリカの学者を招いて共同研究をしている。年間約 40 人が入部する。日本からは、東大、広大の教授が来ている。調査翻訳部もあつて、東洋の書物を英訳している。その他に発行部があつて、英訳した書物を発行している。』

篠田博士から以上のような説明があつたのち、約 15 名同室に出席してい

た日本からの留学生について、田中という人から紹介された。日本からは約40名留学しているが、ここに出席している人以外は、授業のため出席できないのであると田中氏は言った。

このあと知事と学生との質疑応答に入り、次のような対話が行なされた。

金子知事——ハワイは日系人が多いので、英語の勉強には却って都合が悪いのではないかと？ 安孫子知事——英語は強制的に勉強しなければならないのか？ 金子知事——語学勉強のため、自分の talent を伸ばし得ないような場合は無いかと？ 安孫子知事——どこの国の学生が一番多いかと？ 農業の研究はどうゆうことをしているのか？ 池田知事——月にどれ位費用がかかるかと？ 安孫子知事——各国の所遇はどのように違うかと？ 金子知事——国、県、市等各々立場が異つているか、同一基準による所遇が望ましいと思うかどうか？ 加藤知事——所遇の点で、私たちの耳に入らずに入学している人もあるのではないかと？

学生側からの特に強い要望は次の通りである。

『県の職員が入学する場合、県は少しも面倒をみてくれない。せめて出張扱にしてくれたらと思うが、休職か退職にされてしまう。県は留学生の教育に関しては全く無関心である』と鋭い意見も出された。知事たちは、思わざる伏兵に出合った格好で、訪米してまでこんな追求に遇おうとは思わなかったといつていた。

ハワイの日系人は、日本を心からの祖国と考え、限りない親愛の情を抱いている。初めて会った日本人にも深い愛情と敬慕の念をもつて接してくれる。このことについて岡山県加藤知事は、渡米通信として「夕刊新聞」に次のように発表しておられるので、次にその文章を拝借することとする。

前文略。『これらの人たちから受けた共通の印象は、遠く祖国を離れた

土地で生活しながら、絶えず祖国を思い、郷里のことを考えているということだつた。わたしが日本の復興状況や岡山の現状などを話すと、それはもう大変な喜びよう。目を輝やかせて聞き入り、心の底から祖国の繁栄を祝福してくださっていた。いい意味での“日本的”なものに非常なあこがれと尊敬をもつておられ、このことがまた、祖国日本にいるわれわれに、限りない心強さを感じさせてくれるのだつた。』

パンチボール丘記念基地参拝

東西センター訪問ののち午前 11 時 15 分からパンチボール丘の無名戦死の墓を、一同揃って参拝した。共同団長の安孫子知事と金子知事が、アメリカ知事会側で用意した花輪を階段下に供えて、一同礼拝した。

墓地の面積は、112 エーカーあつて、きれいに刈り込まれた青い芝生の中に、マツチ箱を倒したような低い純白の大理石の墓石が、整然と並んでいる。墓石の前に点々と手向けられた草花が飾られている様子は、日本と変わらない。この墓地は、1949 年に完工した。第 2 次世界大戦戦没者でアメリカ国籍をもつハワイ出身の英霊 13,000 の遺骨その他が埋葬されている。十数段の石段の上に、白大理石の記念碑が建っている。これは 1958 年に着工、1965 年に完成した。碑には月桂樹の小枝を持った女神像が浮彫にされている。女神像の高さは 30 呎もある。清楚そのものの姿である。第 2 回日米知事会議の折には、竣功したばかりの碑に東会長が花環を供えた。その際一緒に礼拝した宮城県三浦知事は、今はすでに幽界の人となっている。人生まことにかつ消えかつ結ぶうたかたに似ている。

ホノルル総領事主催カクテルパーティーと昼食会

正午から深い緑に囲まれた閑静なヌアヌ・アヴェニューの日本総領事館で、山本総領事主催により、カクテル・パーティーに続いて、日本食による昼食会が催された。昼食会は、ビュッフェ・スタイルで、赤飯、鮭、刺身などがたくさん出された。参加者は日系人代表等を含め数十名で、広間は満員の盛況だった。各知事から土産物の贈呈があつた。約 2 時間後総領事館を辞去、ハイヤーに分乗して、エスコート付きで市内観光をした。

バーンズ・ハワイ州知事主催晩さん会

午後 5 時から、例によつて州警察官が運転するハイヤーに分乗して、ベレタニア街のバーンズ知事官邸ワシントン・プレースに向つた。

バーンズ知事は、玄関に立たれて、来客を迎えられていた。広間には、34 名のハワイ土人の女が、ギターを奏しながら歌を歌っていた。知事夫人は、車椅子で、広間の隅の方で来客に応接していた。不自由な身体で訪客に応接する真摯な夫人の姿には、いつも感激を覚えるのである。土産物を贈られるとバーンズ知事はすぐに夫人のところに持つて行かれ、夫婦で礼をいわれていた。バーンズ知事は熱心なキリスト教信者であるが、こうした些細な行為にも、限りなく夫人を慈しむ心情が偲ばれて、知事への敬慕の情を深めるのであつた。

参加者は、ハワイ官公庁代表、軍人、報道関係者、日系人代表、商業会議所代表等約 500 名であつた。数カ所に屋台が出され、アルコールは飲み放題。二カ所の大テーブルには、鯛の生づくりやすし等が並べられ、中央には朱染りの反り橋と鳥井が日本的雰囲気醸し出し、バーンズ知事の苦心が偲ばれた。

河本勝氏（日系人会会長）は、「私は 87 才で、50 年間自動車を自分で運転

しているが、未だ事故も違犯も犯したことはありません。今後も日系人のために尽すつもりです。」と云って意気軒昂たるものがあつた。

日系人の一人は、バーンズ知事について次のように話した。「バーンズ知事は、貧困者のめんどうを非常によく見てくれる人で、特に下層階級の人から慕われています。そのため知事は、保守系なのに左翼だといわれています。今回の日本知事団の接遇について、日系人と意見の対立がありましたが、知事は、すべての県の知事を平等に接遇することが大切であるといつて、断乎日系人側の意見を退けました。そういったしんの強いところがあるのです」と。知事は、1909年の生れだから58才で、政治家として将に働き盛りである。

5月18日(木) ハワイ州ホノルル～アイオワ州デモイン

雨のち曇り。

午前9時54分シー・ライフ公園に向けホテル発。シー・ライフ公園は、実質的に水族館のことである。この公園に着く頃どしや降りの雨で自動車から降りるときは、レイン・コートを頭から被つて園内に駆け込む始末だつた。イルカの芸を見せるところに、見物に来た小学生の一群がいた。婦人アナウンサーは、「日本の高貴な知事団一行が参観に来ておられる。」と再三マイクで放送していた。

ポリネシア文化センター

雨の海岸を1時間ばかりドライブして、午前11時45分ポリネシア文化センターに到着した。幸い雨も止んだ。ここはポリネシア人やタヒチ人やインドネシア人等南方諸民族の文化と生活の一部を見せてくれるところで、榔

子の木陰に草葺きの小屋が点々とあつて、彼等の唄や踊を見聞させてくれるところである。ここで昼食をご馳走してくれた。知事たちも知事夫人も、アンペラの上にあぐらをかいてポリネシア料理をご馳走になった。珍しいご馳走だから紹介しておこう。

PUAA KALUA (豚の焼き肉), KUMALA (ジャガイモ),
CHICKEN-N-LONG RICE (塩味の鶏肉) MAHIMAH I (魚)
PALUSAMI (焼タロイモ) MAORI (パン) EIA OTA (マ
グロサラダ) PAPAYA PUDDING (パパイアのプディング)
PINEAPPLE (パイナップル)

これらのご馳走は、椰子の葉で編んだような盆に盛られて供された。なかなか美味だった。

食事が終わってから、中年の婦人がポリネシア・ダンスを教授してくれた。アロハ・シャツの知事たちは、芝生に一列に並んで教授を受けた。尻を2回半廻わして膝を曲げ、次に膝を伸ばしながら腰を2回前に突出す。その間に腕を水平に上げてくねらすのだから、やってみるとなかなかむずかしい。

踊りが終わってから各種族の部落を訪ねた。遊園地のお猿の電車みたいなモーター・カーに乗って、次ぎ次ぎに部落——といつても一個処に家は一軒しかない——を訪問した。すばらしく体格のいい青年が、半裸体で、木製の武器を振り廻して武芸を見せてくれた。武器は、レッド・ウッドという堅い木で造ったもので、後に団長に記念として贈られた。マルル・ヨラナ

(Thank You very much) といつて辞去したが、フィジ島の家で、夫婦と3・4才の子供まで出て来て踊る姿には、側隠の情に堪えなかつた。

このセンターを出発してから海岸沿いのドライブ・ウェイを快適に飛ばし、パイナップルの広大な畑の中を走つた。砂糖とともにハワイ経済を支えて全世界のパイナップルカン詰の二分の一以上を占めているのもさすがだと思われた。

歓楽亭における歓送迎会

午後 7 時 30 分から、日本料亭「歓楽」で各種日系人団体共催の歓迎会に招待された。この料亭から直接ホノルル空港に向い、午後 11 時 45 分の日航機で出発するのだから、この宴会はまさに歓迎会と歓送会を兼ねたものである。200 畳もあろうかと思われる大広間で、約 600 人の大宴会が催された。日本と少しも変らない純日本料理だった。メイン・テーブルには日本知事団、バーンズ知事代理運輸局長松田博士、ニール・S・ブレイスデル・ホノルル市長代理広重氏、駐ホノルル山本総領事等が着席した。桑田賢氏司会、日本人連合会副会長安達氏の歓迎の辞に次いで宮内局長から日本知事団の紹介があり、共同団長安孫子知事から、概要次のような挨拶があつた。

安孫子知事挨拶要旨

『日本知事団を代表して一言ご挨拶申し上げます。今夕は私どものため、かくも盛大な歓迎会を開催していただき、感激いたしております。

アメリカの知事も日本の知事も、いずれも国民から選挙されるものでありまして、この両者が相互理解を深めますことは、日米両国民の理解と親善を深めることになると思うのであります。

当地の日系人の方々は、あらゆる方面に非常なる発展を遂げておられますことは、まことに善ばしい次第であります。また日本は、戦後驚異的発展を遂げましたが、これまた皆様方のご援助の賜と深く感謝いたしております。ハワイの日系人の方々のご努力に対しては、まことに頭が下る思いがいたします。

戦前には、日本人の発展の舞台として満州がありましたが、現在は、ハワイとブラジルしか無いのであります。私共はこの事実に対し、深い関心を抱いております。

私どもは、日本の発展とともに、日米の友好増進のため努力いたす覚悟でございます。』

歡送迎会は真に盛会裡に終った。その間日本人が初めてハワイに入植したのは明治元年で、43年は入植以来百年目にあたるので、明年は日本移民百年祭を盛大に行うつもりで準備をしているとのことであつて、誠に心強い次第である。

午後10時、宴会を終り、一同自動車を連ねて空港に向う。空港にはバーンズ知事夫妻、山本総領事その他多数の日系人が見送りに来ていた。そして一同再び薫り高いレイを首からかけてもらつた。バーンズ知事夫人の車椅子の姿を見ると、感激を禁じ得ないのである。バーンズ知事は、夫人の病気のためアルコール類は一切たち、日曜日の礼拝を欠かさない。知事は大の日本ひいきで、四男には「征四郎」という日本名をつけている程である。飾らず、お世辞もいわず朴訥な人は、尽きせぬ人格の滋味をたたえているものである。

午後11時45分日本航空2便により、ホノルル国際空港発、サンフランシスコに向う。

ほんの10分ほどどうとうとしたと思つたら、朝食だといつてスチュアデスに起された。外はまだ真暗である。だがものの10分もたたないうちに空は明るくなつて来た。朝食が終るともうサンフランシスコだから下りるのだという。

5月19日（金） サンフランシスコ～アイオワ州デモイン

晴。

午前7時30分、予定通りサンフランシスコ空港に到着。空港には、国務省川本氏や、在サンフランシスコ島総領事等が出迎えていた。空港貴賓室で1時間ばかり休憩ののち、午前8時30分ユナイテッド航空321便に乗り替え同空港発。1時間半ほどすると大ロツキー山脈の中央部にかかる。天気がよいので下界ははつきり見下ろされる。ソートレイク上空と放送がある。ユタ州は、1昨年日本知事団が訪問したところだ。ところどころ雪を頂いた

山頂がくつきりと浮び上っている。全アメリカが山で蓋われているかと思われる程に広大な山並みの連続である。大ロツキーをひと跨ぎして午後 2 時 5 分シカゴ空港着陸。1 時間休憩ののち、午後 3 時アイオワ州デモインに向け同空港を離陸した。

午後 4 時 3 分アイオワ州デモイン着。空港には、日本語で「歓迎」と書いた横幕が張られ、ヒューズ知事を始めノース・ダコタ州ウイリアム・ガイ知事、オハイオ州ジェームス・ロード知事、マサチューセッツ州ジョン・ボルプ知事、ユタ州カルビン・ランプトン知事、ウエスト・ヴァージニア州ヒュレット・スミス知事、ウイコンシン州ワレン・ノーエル知事等の出迎を受け、制服の軍旗護衛兵の栄誉礼の中を知事達は歩を進めた。次でリンカーン高等学校生徒のバンドが日米国歌を演奏、終つて数名の女子高校生から、4 名の知事夫人に花束が渡された。誠に感激に満ちた歓迎であり、ヒューズ知事の心のこもった配慮に対し胸打たれるものがあつた。やがて一行は、待機していたハイヤーに分乗、宿舎セイバリー・ホテルに向つた。デモインはアイオワ州の州都で、デモイン河畔にあり、人口 22 万の中都市であり、全米で 55 番目の都会である。

ヒューズ知事夫妻主催の歓迎晩さん会

午後 7 時からセイバリー・ホテル内デモイン・ルームで、アイオワ州知事夫妻主催により、全米知事会実行委員との歓迎晩さん会が開催された。パーティには、アメリカ知事会会長ガイ知事を始め 7 名の実行委員を初め、州の政財界人、教育界 その他多数の知名人が参会して盛会であつた。

アメリカ知事会会長ガイ知事歓迎の辞

『今晚は皆様よくおいで下さいました。日本の知事様方及び奥様方、本当によくアメリカにお出下さいました。私は 50 州の知事を代表して歓迎のご挨拶を申し上げます。これから皆様方は、十分に休養をとり、楽しみ

ながらご旅行を続けていただきたいと存じます。特に夫人をお連れいただきましたことを私どもはうれしく存じます。私どもは日本を心から尊敬しております。それは日本が、産業、経済、教育等すべての方面に発展を続けておるからであります。私どもは、日本の知事さん方が、何かアメリカの特徴を捕えてご帰国いただきたいと存じます。

今晚は皆様方と親しく肩を並べて談笑いたしておりますが、かつてはお互に戦争を憎みながら相戦う羽目に至りました。今日ではお互に尊敬し親愛する間柄になつております。このように世界各国が友情のきずなで結ばれますことを希望いたします。

ではアメリカ側の知事を紹介いたします。先づ酪農で有名なウイコンシン州のノーエル知事さん、モルモン教教会で有名なユタ州ランプトン知事さん、工業の盛んなオハイオ州ロード知事さん、五大湖に面しているミシガン州のロムニー知事さん、アメリカ最初の植民地マサチューセッツのボルプ知事さん、最後にトウモロコシと豚の生産地アイオワ州のヒューズ知事さんであります。これをもつて私の歓迎のご挨拶を終わります。』

アイオワ州ヒューズ知事挨拶

『1965年にロムニー知事ご夫妻と私どもは、日本を訪問することが出来、大へん楽しい旅行をいたしました。私どもは日本人のエネルギーに活動する姿を見て、感銘いたしました。

アイオワ州は、山梨県と姉妹州県の提携をいたしております。

1965年に訪日の際たくさん贈物をいただきましたので、その時のお礼をいたしたいと存じます。知事さん方には、釣竿と釣具とゴルフ・バッグを、知事夫人には AMANA のウールのシヨールをお贈りいたします。これらをご帰国後お手許にお送りいたします。』

午後 9 時 30 分閉会。

5月20日（土） アイオワ州デモイン

午前8時、セイバリー・ホテルのアイオワ・ルームで朝食会ののち、午前9時30分から11時30分まで、同ホテル・グラント・ボール・ルームで、アメリカにおける第3回日米知事会議が開催された。会議の詳細については、第1部 アメリカにおける第3回日米知事会議の項を参照されたい。

日米知事会議の開会中4名の知事夫人は、ヒューズ知事の私邸で茶会に招待され、知事夫人の接待を受け、子息や令孫のアルバムなどを見せてもらった。夫人たちはいずれも和服で、ヒューズ知事夫人を喜ばせた。

州庁，州議事堂，鐘楼等参観

午後1時30分からヒューズ知事の案内で、州庁や州議事堂、州庁構内の鐘楼などを参観した。州庁舎正面玄関には「リンカーンの側に子供がたゝんでいる立像」があり、庁舎を囲んで数門の大砲が飾られているのが印象を与えた。この庁舎は、1883年に竣工したそのままのもので、知事室の机、椅子等は初代知事以来のものが大切に使用されて今日に及んでいる。歴史を尊ぶ心情があふれていた。天井に州のシールがあつたが、これはアイオワ州の農産物の種子で造つたものである。

構内の芝生に鐘楼がある。この鐘は、1959年に山梨県が台風の大被害を受けた時、アイオワ州民から35頭の豚、80,000ブツシエル（約2,000トン）のトウモロコシを贈られ、その返礼に山梨県民から贈つたもので、高さ4呎、重さ11トンある。ヒューズ知事は、自から鐘撞き棒を持つて鐘をついて見せた。続いて安孫子知事、木村知事、金子知事も、日米友好の鐘を鳴らした。ヒューズ知事の説明によると、『毎年12月の大みそかに除夜の鐘を7回撞き、日本と関係の深い人々を集めて新年を迎える行事が続いている。州内の日系人はこの行事を非常に楽しみにしており、私の大きな誇りである』ということだつた。日米友好に尽した人といつて T・Huttenlocher 夫人が紹介された。

議事堂の傍に、高さ百数十呎もあろうかと思われる高い塔が立っている。1865年の南北戦争に戦死した兵士の記念塔である。州庁前は高台になっていて、デトロイト市街を一望のうちに俯瞰することが出来る。

Lee Stoll 家訪問

ここからバスで 12 哩離れた Bondurant の Lee Stoll 家を訪問した。バスには州庁農業担当官 Harn 氏が同乗して、案内と説明をしてくれた。Stoll 氏は、屈強な体格の見るからに精力的な農夫である。農耕と家畜の世話一切は、令弟とやっている。家族は、既に退職し農事に従事していない厳父（アメリカでは 65 才以上は年金を貰える）と Stoll 氏夫人、弟夫婦と大学と高校に通学している二人の息子で経営している大家族農家である。息子たちは、学校の休暇の間だけ農業の手伝いをするのみだというから、主な働き手は Stoll 氏夫婦と弟夫婦の四人だけである。Harn 氏の説明によると、アイオワ州の平均的農家は、殆んど家族のみで農業をしているとのことであつた。

Stoll 氏は、アメリカの中位の上部にある農家で、

『420 エーカーの土地を所有している。このうち 252 エーカーはトウモロコシ、100 エーカーは大豆、50 エーカーはその他を栽培している。アイオワ州の農家の一戸あたりの所有地は、200 エーカーで米国全体の農家一戸当り耕作面積 220 エーカーより少ない。このあたりの地価は非常に安く、1 エーカーが 5・6 百ドルなので、日本の知事さんも買って下さい』

などと冗談も出た。家の近くに畜舎（牛舎と豚舎）と倉庫があつて、掃除の行き届いた牛舎と豚舎を視察した。『牛は年間 500 頭、豚は 1,200 頭を飼育している。トウモロコシ 250 エーカー、大豆 100 エーカー、アルファルファ 50 エーカーを耕作している。牛は 1 頭を飼育するのに半エーカーの土地を必要とする。アイオワの平均一戸あたり農家の所得は、約 7,000

写真あり

説 明 ヒューズ知事私邸でヒューズ知事夫人の接待を受ける日本知事夫人
左から田部知事夫人、加藤知事夫人、平野知事夫人、安孫子知事夫人、
ヒューズ知事夫人

ドルである』と Harn 氏はいった。アイオワでは、純粹に自作農として自分の農地を耕作しているものは、全農家の約半分で、残りの半分は、自分の農地を耕やすと同時に、小作農として生計を立てている。ところで小作の要件は、小作者が労働力とか、機械力を提供し、地主が種子を出して、収穫の半分は、地主に供出するのである。日本の小作要件とくらべて米国は非常に地主に条件がいい。安孫子知事は、『それは地主に条件がよすぎるではないか？』と質問されたところ、これに対し Harn 氏は、『地主はこれでも大変だといっているし、小作人は条件が悪すぎるといっている。また、農家は工業生産に比べ生産が上らないといっているが、過去半カ年に 25 パーセントも地価が高騰しているではないかなど互に論ばくしている』とのことであつた。

豚舎は清潔で、中には入って見る事が出来た。2 週間後に子を産むという大きな親豚がいた。Stoll 氏の説明によると、『豚は 1 回に 10 頭位の子を産むが、清潔にしないと病気になるので常に注意する必要がある。』ということである。曠野の一軒家のような Stool 家の畜舎でも、清潔にして病気の予防に最善の注意を払っていることに感心した。さらに Harn 氏は『牛や豚の病気は、見学者の足から伝染することがあるので、十分注意しなければならないが、皆さんは此処に来られる前に、他の農場に行かれたとは思わないから安心していきます』といつて笑つた。ジューロツク、ヨークシヤ、ハンプシヤなどの豚を飼育している。

超弩級の牛が 1 頭いた。1675 ポンド (750 キロ) あるという。Stoll 氏が試験的に飼育している牛である。去勢してあつて角が無かつた。Stoll 氏はいった。『牛は 140 日間は 1 日に 4.5 ポンド体重が増す。約 5 カ月して体重が 240 ポンド位になると売る』と。飼料は、トウモロコシ、牧草、抗生物質等を混合して与えていた。水分は全く無く、粉のように見えた。藁などは全く用いていない。

日本で見慣れている豚舎の状況とは相当異つている。

ここでは自動サイロを非常に自慢しており、興味深く視察した。スイッチを入れると、自動的に各飼料がミックスされる仕組みで、やがてベルト・コンベヤーに乗せられ、牛舎や豚舎に運ばれる。円筒形をしたこの自動サイロの建設に、2万ドル（720万円）を要したと Stoll 氏はいつていた。Stoll 氏の家で茶菓の馳走になった。午後4時30分ホテル帰還。

ヒューズ知事夫妻主催レセプション及び晩さん会

夜6時30分からセーバリー・ホテルのテラス・ルームで、ヒューズ知事夫妻主催のカクテル・パーティーとディナーが催された。初めの1時間ばかりカクテル・パーティーが行なわれ、続いて正式晩さん会に移ったが、この夜の参加者は約300名で、その大部分は、ヒューズ知事の言葉によると、日本を訪問したことのある人々であった。

ヒューズ知事歓迎挨拶

『私と私の家内は、今晚日本の知事の方々をお招き出来て喜んでおります。今晚この席にご出席の方々は、一度は日本を訪問されたことのある方々であります。』

日本の知事さん方は、ハワイに2晩泊つたのみで、殆んど直通で当地をご訪問になり、非常にお疲れであるにも拘わらず、今日午前中日米知事会議にご出席いただき、非常に大きな収穫を収めていただきました。

今晚は、9名の日本の知事さんと、4名の知事夫人をお招きしておりますが、この席に出席しておられるアイオワ州の方々をご紹介します。これらの方々は、産業、農業、教育等に従事しておられる方々や公職にある方々及び州議員の方々であります。これらの方々は、心から日本の代表の皆様をお迎えしておるのであります。

日本の代表の方々に、今まで1日半にわたりアイオワの教育、政治、農業等についてご紹介して参りましたが、アイオワで最も誇りとして紹介い

たさねばならないものは、アイオワの州民であります。』

安孫子知事挨拶

『このたび私ども日本知事代表がアイオワ州を訪問いたしまして、このように温かいご歓待を受けますことは、日本全国民が温かいご歓待を受けておるのと等しいのであります。

日本を出発いたしますとき私どもは、アメリカ大使館を訪問してご挨拶いたしました。その際私どもを迎えられた公使の方が、ただ今ヒューズさんが申されましたように、アイオワ州民は、非常に誠実な人々で、最初の大陸の訪問地としては最も適切であると申されました。

アイオワは、アメリカの中心部に位しておりますが、アイオワの繁栄は、全米の繁栄と深いつながりをもつておるのでありまして、益々ご発展になることをお祈りいたします。

今日はいろいろ拝見させていただきました。立派な州庁舎とその隣りの鐘楼を拝見いたしました。アイオワ州は山梨県と姉妹州県の提携を結んでおられますので、あの鐘は、両州県友好のシンボルであると存じます。そしてこのことは、米国と日本との友好と親善を物語るものであると存じます。

ヒューズ知事及び知事夫人に心からお礼申し上げ、お礼の言葉といたします。』

ヒューズ知事と安孫子知事の挨拶が終つてから、アイオワ大学の4名の学生が、ヴァイオリンを演奏して歓待してくれたが、この学生たちは、全米はもちろんヨーロッパまでも演奏旅行をしておる程の腕前であると紹介された。

この夜学生が使つたヴァイオリンは、ある博物館から特別に借用して来たもので、1個25万ドル(9,000万円)の高価なものであると聞いて啞然とした。

5月21日(日)

アイオワ州デモイン～ミシガン州デトロイト

風もなく天気晴朗。

セイバリー・ホテルのアイオワ・ルームで、ヒューズ知事と非公式朝食会。10時30分モーター・ケードで空港に向け出発。約20分で空港着。約1時間空港貴賓室で待つ。ヒューズ知事夫妻を始め、州庁幹部職員その他関係者が多数見送ってくれた。

午後12時15分、ユナイテッド航空246便でデモイン空港発。午後1時30分シカゴ空港着。アメリカン航空貴賓室で乗替えのため休憩。午後3時同空港発。午後4時10分デトロイト・メトロポリタン空港に着陸した。空港ではロムニー知事、ラホドニイ日本名誉総領事を始め、多数州関係者の出迎えを受けた。

午後5時30分、宿舎ホテル・パンチャートレインに到着、旅装を解いた。ホテルに向う途中、電光サインで「Japanese Governors」と出ているのを見た。ちょうど日本知事団の通る道筋に、同時刻電光掲示を出してくれた好意に感謝した。この日は終日飛行機旅行に費した訳である。

ロムニー知事主催晩さん会

午後7時からホテルのオリエンタル・ルームで、デトロイト・エジソン会社主催のカクテル・パーティーとディナーが催された。

ロムニー知事歓迎挨拶

『今晚は、日本から著名な方々のご出席をいただき、ご挨拶申し上げることを欣快に存じます。』

私は一年半前日本を訪問し、九州地方を訪問いたしました。その時お会いした日本の知事さん方のうちで、今晚池田知事にご出席になつておりますが、再びお会い出来ご光栄に存じます。

私は日本を訪問して、日本は非常に古い歴史を持つ国であり、反対にアメリカは、若い国であるということを痛感いたしましたのであります。

当ミシガン州は、日本と同様、産業の発展に努力して参りました。アメリカの経済発展は、ミシガン州が原動力をなしたといつても過言ではありません。日本と西独逸は、異状な経済の発展を遂げましたが、われわれは、これらの国の経済の発展にも協力して参りましたことを誇りと思うものであります。日本は、国の全収入の 10 パーセントを経済の発展に投入しておられます。』

このあとロムニー知事から、日本知事に、銅の盆が贈られた。日本知事団を代表して池田知事からお礼の言葉が述べられ、各知事からの贈物がロムニー知事夫妻に贈呈された。

晩さん会終了後、日本知事団にそれぞれ靴が贈られることになり、各知事の足型を紙に書いて係に渡した。

5 月 22 日 (月) ミシガン州デトロイト

晴。

午前 7 時 30 分、ホテル・パンチャートレイン発。ブルーム・フィールド丘のロムニー知事の私邸に向う。8 時 30 分着。ロムニー知事は公館が無いので、自宅に日本知事団を招待したのである。低い緑の丘の上に建つしよしやな洋館がそれである。庭に池があり、池畔は林に続き、静寂そのものである。玄関をはいつて右側は居間でその奥が応接間になっている。玄関わきの階段を下りると地下の部屋に出る。ここからスロープになつた芝生と林のある裏庭に続いていて、別荘のようである。芝生に日の丸の日本国旗がはためいていた。緑の背景の中に、一点白地に日の丸は、何とも清々しい眺めであり、ロムニ知事の日本国に対する敬意と日本知事を歓迎する誠意に対し感謝の念に堪えなかつた。

知事たちは、一階の応接間でロムニー知事と朝食を共にし、随行は、居間でロムニー知事夫人の接待を受けた。ロムニー知事は、日本知事団と歓談の際、『アメリカは外敵からの危険はない。アメリカの盛衰は青少年問題にかゝっている。青少年の不良化防止は教育と指導が大切であり、私はいまこの対策に取り組んでいる』と語られ、青少年教育の必要を力説された。ロムニー知事は、アメリカ政界の大立物で、1968年の大統領選挙に、共和党から推されている有力候補といわれている。

居間で、日本側知事団から、それぞれ土産物が贈呈された。その際金子知事は、次のような源平合戦の際の弓の名手那須与一の話をして感銘を与えた。

『波間に揺れる小船の上の扇の的を、海中しかも馬上から射ることは、いかに弓の名手といえども至難中の至難であつた。与一はしばし瞑目して成功を神に祈つた。天佑神助といわんか、与一は扇の要を射抜いて的はヒラヒラ海上に舞い落ちた。与一は神に祈つて成功した。ロムニー知事も、神に祈り次期大統領の金的を射止めてほしい。』

田村氏は、国務省派遣の名通訳であるが、金子知事のこの話を、ウイリアム・テルを引用して巧みに通訳を行い、一同を感嘆させた。

続いて裏庭に続く地下の部屋で、記者会見が行なわれた。この会見は、ロムニー知事の記者会見に、日本知事団が立合つた形だつた。2台のテレビ・カメラでロムニー知事と日本知事団の撮影が行なわれ、終つて記者団からロムニー知事にいろいろの質問が寄せられた。

知事の私邸は、前記のように緑の芝生と林に囲まれた閑寂そのものの邸宅であるが、ボストン市の中心から僅か1時間足らずのドライブで、こんなひなびた郊外に出られることは、ほんとに羨ましいことである。

ジェネラル・モーターズ会社視察

ここはジェネラル・モーターズ会社の工場ではなく、**The General Motors Research Laboratories** といつて、技術の研究のみをしてい

るところである。

先づ訪問者の目を奪うのは、広大な敷地と清潔そのものの管理と、整然と並んだ大きなビルである。敷地は 975 エーカーあつて、その中で 25 個の建物の占める面積は、330 エーカーに及んでいる。建物は 5・6 階建位で、余り高いものは無いが、どのビルも竣工したばかりのように美しい。建物と芝生と池が互に調和と均衡を保っている。通俗的な形容だが、全く絵のようである。中央には正に広大な池がある。池の向うのビルが小さく見える程で、美しい水が満々とたたえられ、中央に高い塔が立っている。二カ所から噴水が高く水を噴き上げている。静寂閑雅な近代的大城郭の感がある。

この研究所は、15 の科学及び技術の部門に分れ、それぞれに管理部と事務部がある。15 の各部は、それぞれに連けいがある。研究に従事している人々は 1,500 名で、そのうち 475 人は大学で工学、物理学、冶金学、化学、数学、心理学を専攻した人々で、更にその 3 分の 1 は修士の課程を了え、その 5 分の 1 は物理学の博士号をもっている。これらの専門家には、約 40 人の技術者と 200 人の熟練工が協力している。一自動車会社がこれだけのスタッフを備え、25 棟のビルを持つて研究に従事していることは、驚嘆の外はない。僅か 1 時間 30 分の視察では、盲人が巨像を撫でるほどにしかあたらず、子細に調べることが出来なかつたのは、残念であつた。

デトロイト経済クラブ昼食会

午前 10 時 40 分視察を終り、出征軍人記念会館に向う。この日は“Government Day”でミシガン・ウイークに当り、この会館で開催されたデトロイト経済クラブ主催の昼食会に招かれた。参会者約 600 名で、メイン・テーブルには、元知事や財界代表等約 30 人が列席、会食前に祈禱が捧げられ、続いてロムニー知事から、一人一人日本知事代表が紹介された。食後教育、交通、経済等の諸問題について、各代表の演説があつたが、通訳も付かない演説を 2 時間も聞かされた次第である。

午後 2 時軍人会館発，フオード会社のリバー・ルージュ工場視察に向つた。

フオード会社リバー・ルージュ工場視察

午後 2 時 30 分から 3 時までの 30 分間，同工場を視察した。時間が短いので極く概要を視察したのみだが，同工場の説明者 Mr. Stanley H. Consineau の説明によると，『工場の敷地は，1,200 エーカーあつて，構内に工場の外に二つの病院がある。従業員は 40,000 人で，1 日 7,000 トンの鉄鉱石を使用するが，その半分は，自分の製鋼所で製鉄し，他の半分は他から購入している。有名なヘンリー・フオードは，ここの Rearborn 市に生れた。1 日 2 交代制，20 時間稼働で，賃金は，1 時間 3・77 ドルである。前のジェネラル・モーターズ会社では，1 時間 3・5 ドルであつたから，こちらの方が幾分高いわけである。1 台の自動車を製作するのに，延 19 時間要する。工場は，テレ・タイプで統一的に指揮が行われている。流れ作業で次ぎ次ぎ送られて来る自動車は，それぞれ色やスタイルが異つている。これは注文によつて組立てられているからである』とのことであつたが，オーダー・メイドの自動車をつくるなど，さすがにアメリカである。さしずめ日本の自動車は，レデイ・メイドというところか。更に同氏の説明によると『一つの工場の長さは，1,100 呎もある大きなもので，この工場から 1 日に 1,320 台の自動車が生産される。このような工場がアメリカ国内に 18，全世界に 35 あるという。異なるスタイルの自動車を，電子計算機を使って，流れ作業で生産している。自動車 1 台の生産費中に占める労賃の割合は，30 パーセントである。オーダー・メイドの自動車を造るので，甚だ高価である。従つて大部分は国内消費に向けられ，輸出は全生産の 2 パーセントにしか過ぎない。それにフオード会社のような大型エンジンをもつ車は，アメリカ以外では余り需要が無い。国内では 1 台 2500 ドル（90 万円），外国では 6,000 ドル（216 万円）になる。石炭は，ケンタツキー，ウエ

スト・ヴァージニア等から来ている。デトロイトに自動車工業が発達した唯一の理由は、デトロイト河やルージュ河のような河川があつて、水運の便がよかつたからである』と説明した。

自動車の排気ガスの処理については、『1968年からすべての自動に浄化装置をつける。工場の浄化装置も研究中である』とのことであつた。

デトロイト河遊覧

午後3時から、デブリーグ氏所有のヨット「ジグミル4世号」で、デトロイト河を遊覧した。デブリーグ氏自から乗船して接待につとめてくれた。デブリーグ氏は、1,200万ドル（43億2,000万円）の船主であると聞かされた。

対岸はカナダである。河中に赤く塗った消防艇が歓迎放水をしてくれた。五色の虹が美しく浮んでいた。巡航2時間あまり、午後5時過ぎ下船した。

Dwight Havens氏主催晩さん会

午後7時から出征軍人記念会館で、大デトロイト地区商業会所ドワイト・ヘイブン氏夫妻主催のカクテル・パーティーとディナーに出席した。

ヘイブン氏の歓迎の挨拶があつてから、ミシガン州上院の日本知事団歓迎決議文が、知事団代表田部知事に渡された。決議文は、本文のまま次に掲げることとする。

ヘイブン氏の歓迎の辞に答えて、田部知事は、次のように感謝の言葉を述べた。

『団長の命によつてお礼の言葉を申し上げます。』

私は、4回アメリカを訪問いたしました。訪問する度ごとに、アメリカ人の明つ放しで、誠実な氣質がますます気に入つて参りました。このアメリカ人の氣質を日本国民に伝え、日米親善の増進を図ることが、私の義務であると存じております。

私の友人、広島県永野知事の勧めによりまして、私が作詞いたしました唄をご紹介いたします。』

田部知事の自作の唄はヤスキ節であつた。満場の拍手を浴び、アンコールの声が続いた。午後 9 時晩さん会を終了、バスでホテルに帰還した。

5 月 23 日（火） ミシガン州～ワシントン D・C・

晴。

午前 8 時バスにてホテル・ポンチヤトレイン発。途中マグレガー記念会議場下車、フレイザー氏と会見後、午前 9 時グリーン・フィールド・ヴィレイジに到着した。

グリーン・フィールド・ヴィレイジ視察

Greenfield Village は、1929 年 10 月 21 日に建設された。ここには 3 世紀にわたるアメリカの生活が描写されている。ヘンリー・フォード博物館を始め、昔のまゝのヘンリー・フォードの生家、アジル宝石店、サラ・ジョーダン下宿、リンカーン大統領が弁護士を勤めたローガン地方裁判所、製粉所、実験室等、百余の歴史的建物が、260 エーカーの敷地に散在している。このうちには、鍛冶屋、ローソク屋、ガラス屋、オモチヤ製造所、印刷屋、ジュータン屋、銀細工商、織物屋等、実際に昔取引きした商店が、そのまゝの姿で保存されている。

毎年通常 130 万人が、国内及び外国から訪問する。歴史的に重要なアメリカ人の科学、発明、工業、政治、音楽、芸術を見せてくれる。リンカーン、ウェブスター、フォスター、フロスト、バーバンク、マックガフィー、ガーバー、ライト兄弟、ステインメッツ、エジソン、フォード等偉大な発明家、科学者、政治家に関係のある建造物がある。

ヴィレイジの門を入ると、右手の建物の隣りに、数本のライラツクの大木

があつて、桜ならば満朶のさくらといたいところだが、枝一ぱいに紫の花をつけ、見事であつた。二頭立ての馬車に乗つて構内の建物を見て廻つたが、なかなか古風でいい。日本にもこのような文化的遺産を後世に伝え、後世人を啓発する施設がほしいものだ。

ミシガン大学 (The University of Michigan)

午前 10 時 30 分 An Arbor (アナーバー) のミシガン大学着。総長が留守であつたので、副総長 Maruin Niehuss 氏が接待してくれた。案内と説明は、同大学内日本研究所の Richard K・Beardsley 教授と鈴木幸久教授がしてくれた。

ミシガン大学は、今年創立 150 周年にあたるアメリカで最も古い大学の一つである。もちろん創立当時は、小さな予備校にすぎなかつた。1841 年に始めて大学の認可を得た当時は、教師 2 名、学生 7 名という状況であつたが、現在は学生数 38,000、教授、助教授、講師の数は、3,000 人、別に研究に従事している者 2,500 人、事務職員数は 10,000 人に達している。学生 1 人当りの経費は、月謝年額 1,000 ドル、生活費 1,500 ドル、合計 2,500 ドル (邦貨 90 万円) である。学生のうち 8,000 人は、大学の寮に、3,500 人は大学共済クラブの宿舎に居住している。約 10,000 人は学生結婚をしており、これらの学生は、大学の管理するアパートに生活している。

図書館は、一般図書館 (General Library)、学生図書館 (Undergraduate Library)、及び 25 の各部図書館 (divisional library) に分れており、全蔵書を合計すると、360 万冊に達する。図書館の一部の日本の書物を見せてもらつたが、わが国各県の県史まで揃っているのには驚嘆した。

大学の博物館は、美術、考古学、動物学、古生物学、人類学等の各館に分れ、一般に開放されている。

ミシガン大学の年間予算は、1億8,600万ドルとのことであつた。

午前11時20分アナーバー市庁到着。フルチャー市長を儀礼訪問した。

ミシガン大学総長主催昼食会

午後12時15分ミシガン大学迎賓館イングリズ・ハウスで Harlan Hatcher 総長主催の昼食会が開催され、これに出席した。

副総長 Marvin L・Niehuss 氏から次のような歓迎の辞が述べられた。

『今日は日本の知事様方よくおいで下さいました。今日は総長が留守で残念に存じます。ハツチャー総長は、日本と深い関係をもち、日本を第2の故郷のように思つております。この前三笠宮殿下が来られました時も私は、その席に同席する光栄に浴しました。

今日は本校の図書館をご覧いただき、私どもがどれ位日本に関心をもっているかがお分りになつたと存じます。

このたび日本の知事さん方が、お忙がしいところ本校をお訪ね下さいまして、本当にありがとうございました。こんなにたくさんの知事さんが来られたことは、アメリカの知事さんでもありませんでした。』

続いてアナーバー市長は、次の要旨の歓迎の辞を述べ、各知事にアナーバー市の鍵を贈られた。

『93,000市民を代表して、アナーバー市の鍵をお贈りいたします。この鍵は、市の門を開く鍵であるとともに、お互の心の扉を開く鍵であります。そしてお互に胸襟を披いてお話ししたいと存じます。』

平野知事から次のような挨拶が述べられた。

『私どもは、空港へのバスが1時半に出ると聞いております。それに乗り遅れますと、ワシントンまで歩いて行かねばなりません。余すところ26

写真あり

分でありますから、そのうちの 20 分をロムニー知事さんに譲り、6 分の半分 3 分間で私のご挨拶を終わりたいと存じます。

今回のアメリカ訪問で、私どもが各州で受けましたご歓待と行き届いたご配慮に対しましては、どのような言葉で御礼を表現したらよいか、適当な言葉を見出し得ないのであります。

団長は断腸に通じます。ただ今当地を去るにあたり、正に断腸の思いがいたすのであります。

青少年の不良化防止について、青少年の生活を改善すれば不良化はなくなると思っておりましたが、それは誤りであることを学びました。私共、挙げて青少年の教育に努力したいと存じます。この点ロムニー知事さんは、青少年の教育に渾身の努力を傾けておられますので、まことに意を強くいたすのであります。

昨晩私の友人の知事は、上手に歌を歌って挨拶に代えましたが、私はそんな芸当は出来ませんので、まずいで挨拶でお礼の言葉に代えさせていただきます。只今はアナーバーの市長さんから、心の扉を開く市の鍵をいただきましてありがとうございました。』

午後 3 時 30 分デトロイト空港発。午後 5 時 15 分ワシントン・ダレス国際空港到着。時差 1 時間、直ちに宿舎ワシントン・ヒルトン・ホテルに向う。

竹内大使主催晩さん会

午後 7 時 30 分から、駐米竹内大使官邸における歓迎パーティーに出席した。いつもながら、すし、天ぷら、さしみ、おでん等々バラエティに富んだ日本料理をご馳走になった。ブツフェ・スタイルだったので、好きなものを何回もお代りして復一ぱい頂戴した。

5月24日（水）

ワシントン D. C. ～ロードアイランド州プロビデンス

午前9時45分駐米日本大使館で手配したハイヤーでホテル発ホワイト・ハウスに向う。ホワイト・ハウスでは、昭和38年第2回日米知事会議の際、日本を訪問した前フロリダ州知事で現在大統領府緊急計画局長ファリス・ブライアント氏と275号室で会見が行なわれ、続いて同室でジョンソン大統領と会見が行なわれた。

ブライアント局長挨拶と説明

『今日は日本の知事代表の方々とお会い出来て、心からうれしく存じます。以前にご訪問いただいた知事さんとも再びお会い出来て、何よりもうれしく存じます。

私は今までに三つうれしい経験をいたしました。その二つは、私が二回にわたって日本を訪問したことと、いま一つは今日皆様方をお迎え出来たことであります。

私は元来、州知事が私に最も適した職業であると思っておりますが、その次に適した職業は、現在の職業であると存じております。われわれの政治形態では、以前は連邦と州とが余り密接でなくてもよかつたし、また、大統領と知事とが、そう深い関係は無かつたのでありますが、今日では、連邦と州は非常に緊密なつながりをもっております。現在州への補助金も600種にのぼっており、道路、公園、工業資源、農業、警察、社会福祉等、いずれも連邦と州は密切な関係をもっております。

私の現在担当している仕事は、二つありまして、その一つは、国家非常態制の発動する場合で、例えば龍巻き、台風等の起つた時であります。また、至急に資金を集めることも私の仕事であります。資金は1億5千万ドルにも達しますが、この資金の運用の仕事もやつております。次は、このような事態の起らないことを希望いたしますが、戦争の際、民間の物資を

動員することでありませう。このため物資を貯蔵したり徴発したりする仕事もしてあります。

特に現在州の役割は、重大であると思ひます。それは州及び州以下の行政単位で行なわれることが多いからであります。

私は、みなさんが大統領と会われることをうれしく存じます。大統領は実に立ばな方で、大統領とお会いしていただくことは、日米両国の理解と親善増進のため、まことに喜ばしいことと信じます。

フロリダに海洋学研究所が出来ましたが、天皇陛下が海洋学に深い造詣をもつておられますので、お見せ出来ればと存じてあります。池田首相にもお会いしましたが、亡くなられて残念でした。内山知事は、ご病気の由で心配してあります。

私はあと二つのことをお伝えしたいと存じます。その一つは大変立ばな贈物をいただいたことであり、この立ばな贈物は、私が日本を訪問した時を思い出させてくれます。他の一つは、私の家内も日本で非常なご歓待を受けたことありまして、家内が家出しましたら、日本を探せばきつと見つかると思ひます。』

ブライアント局長の歓迎のことばに対し、共同団長安孫子知事は、次のように挨拶した。

安孫子知事挨拶

『私どもは今回第三回日米知事相互訪問計画によつて、貴国を訪問いたしました。今回の訪問で一番うれしいことは、ブライアントさんにお会い出来たことあります。深く日本を理解しておられるブライアントさんが、このような重要な地位についておられますことをうれしく存じます。日本の知事たちも、貴国との理解を深めるために努力いたしてあります。

特に、今回もまた大統領にお会いすることが出来て、日米の理解を深め得ることをうれしく思ひます。ただ今は、ブライアントさんの立派なお仕

事について、いろいろお話を拝聴させていただき、ありがたくお礼申し上げます。』

ブライアント氏は、前記のように昭和 38 年 10 月、第 2 回日米知事会議の際、夫人同伴でわが国を訪問され、翌 39 年日本知事代表団が訪米の際は、夫人と共にチャーター機に同乗、非常な悪天候の中を、自から州内の視察に案内役を勤められた程で、日本及び日本国民に深い理解と愛情をもつておられる人である。今回、日本知事代表団がジョンソン大統領と会見出来たことは、ブライアント氏の尽力によるところ多大であると思われる。このようなブライアント氏の日本に対する深い理解と友情は、日米知事相互訪問によって生れ、培われたものといつて過言ではない。

大統領の謁見

ブライアント局長との会見に続いて午前 11 時 40 分から、大統領の謁見が行なわれた。この席には、ハンフリー副大統領、ラスク国務長官、マクナマラ国防長官、ウイラー統合参謀本部議長等が陪席したが、ジョンソン大統領は終始にこやかに、日本との友好及び世界の平和維持について力説した。謁見は、午後 12 時 20 分までの 40 分間にわたり、和気あいあいのうちに行なわれた。

ボックス上院議員主催昼食会

12 時 30 分から上院会議室で、デラウェア選出上院議員 J・カレブ・ボツグス氏（J・Caleb Boggs）主催の昼食会に列席した。この昼食会におけるボツグス議員及び、ワイオミング州選出クリフオード・P・ハンセン上院議員の歓迎のことばは、次のとおりである。

なお、ボツグス議員は、これまで日本知事団の訪米の都度、すなわち今回で 3 回歓迎昼食会を開いてくれた人で、第一級の親日家である。ハンセン議員は、1965 年アメリカ知事団訪日の際、始めて日本を訪問した人であり、

今回日本知事団が訪問したハワイのバーンズ知事、アイオワのヒューズ知事、ミシガンのロムニー知事、ロード・アイランドのチャファイアー知事、ヴァーモントのホフ知事等は、いずれも 1965 年に訪日した人々である。アメリカ政府高官のうちに、このように多数の日本を知り日本を理解する人々が増すことは、日米知事相互訪問の大きな成果の一つである。

ボツグス上院議員歓迎のことば

『第 3 回日米知事交換訪問として、今回 9 名の日本知事代表团及び 4 名の知事夫人をお招きすることが出来ましてうれしく存じます。私は、デラウェア州知事をしたことがございます。

今日、日本知事代表团の方々は、大統領と会見出来て結構でした。ここにラスク国務長官が出席しておられますので紹介いたします。(ラスク国務長官紹介。ラスク長官はこの日、重要な国防委員会を欠席してこの歓迎会に出席したもので、このようなことはかつて前例のないことであると新聞記者の一人が語っていた)。

次に前ワイオミング州知事で、現在私どもの同僚であるクリフオード・P・ハンセン上院議員をご紹介します』。

ハンセン上院議員歓迎挨拶

『皆さん今日は（日本語で）。

今日私は、皆さんにお会い出来て、ほんとうにうれしく存じます。日本は米国の友邦であり、偉大な国として尊敬しております。日本は **Land of rising sun** の国であり、米国の最大の友人であります。

今日皆さんは、大統領に会われましたが、大統領も非常に喜んでおられました。私は、1965 年にアメリカ知事団に加わり、日本を訪問し、多くの友人を得ました。14 日間の訪日中、各地で国民の皆さんと親しくお会いすることが出来ました。

日本国民は、Can do の国民であり、工業も非常に発達しております。日本国民は、家庭を大切にす国民であり、また、非常に勤勉な国民であります。

アメリカには多くの人種が住んでおりますが、そのうち日本人が一番犯罪を犯すことが少ないのであります。また、親切な国民で、始めて会った農民も工場の労働者も、等しく私どもを歓迎してくれました。何回でも日本を訪問したいと思います。皆様のような方々に、世界の平和に尽していただきたいと思ひます』。

オハイオ州選出婦人下院議員歓迎挨拶

『日本の知事さんをお迎え出来て、ほんとにうれしく存じます。下院を代表してご挨拶申し上げたいと存じますが、私は女性ですので、先づ日本の知事夫人に歓迎の辞を呈したいと思ひます。私も日本は大変美しい国と聞いておりますが、そのうちぜひお訪ねしたいと念願しております。

昔は下院に 17 名の婦人議員がおりましたが、現在では 11 名しかおりません。

私の主人はハーヴァード大学にりましたが、その頃日本の方と知り合になる機会がありまして、日本人はすばらしい国民であることを知りました。その後主人は、日本への輸出業務に従事いたしました。日本ではすぐ模造品が出来てしまいますので、間もなくその仕事を止めました。それ程日本人は賢明です。

特に知事夫人に歓迎の意を表して、オハイオ州の州花であるカーネーションを、おつけしたいと存じます』。

このあとハワイ州選出松永下院議員その他 2・3 の下院議員の歓迎の挨拶があつてから、共同団長金子知事から、大要次のような挨拶があつた。

金子知事挨拶

『只今は、ボツグス上院議員、ハンセン上院議員及び、ご列席の上下両院の方々から、こもごも歓迎のご挨拶をいただきありがとうございました。

今日は、日米両国国旗の前で、このように盛大な歓迎のパアーティを開いていただき、心からお礼申し上げます。

日本とアメリカは、太平洋を隔てて遠く離れた国であると考えておりましたが、飛行機の発達は、この距離を狭めたのみならず、日米の友情は、非常に親密な関係に結ばれておりますことを、今日アメリカを訪問して、私は強く感じました。このことは日米知事の相互訪問が、回を重ねて6回に及んだことによるものと存じます』。

昼食会のあと、直ちに上下両院議会の傍聴が行なわれたが、上院議会ではボツグス上院議員、ハンセン上院議員及びその他の議員から、日米の友好親善と日本を礼賛する演説が行なわれ、国会議事録に登録された。ボツグス上院議員とハンセン上院議員の演説は、概ね次のとおりである。

ボツグス上院議員の演説（国会記録より）

『議長、私どもは本日、日本の九つの県から高貴なる知事代表団を、この国会議事堂にわれわれの賓客としてお招きしておることを発表いたすことは、私の光栄とするところである。同知事団は、アメリカ知事との交換訪問の途中で、ここワシントンを訪問されたのである。今朝ご一行は、ジョンソン大統領により、ホワイト・ハウスに招かれた。

賓客は、共同団長、山形県安孫子藤吉知事、同じく共同団長、香川県金子正則知事、福島県木村守江知事、佐賀県池田直知事、島根県田部長右衛門知事、岐阜県平野三郎知事、岡山県加藤武徳知事、広島県永野巖雄知事、奈良県下位真一郎副知事の方々である。

5月16日ホノルルご到着以来日本知事団ご一行は、アイオワ州デモイ

ン及びミシガン州デトロイトを訪問された。

ワシントンを去られてからご一行は、ロード・アイランドのプロビデンス、ヴァーモントのモンピリア訪問ののち、ボストンで公式日程を終ることになっている。ヴァーモント訪問中、ちよつとわき道にそれて、モントリオールの 1967 年万国博訪問を含め、ご一行の公式訪問に国際色を添えることになっている。アメリカ訪問が終ると若干の知事は、ヨーロッパを、又他の知事は中央及び南アメリカを訪問し、更に若干の知事は、直接日本に帰国される。

今回は、日本知事団の第 3 回目のアメリカ訪問である。この前には 1962 年と 1964 年に同様アメリカ訪問が行なわれ、アメリカ知事団は、1962 年と 1963 年及び 1965 年に、日本の諸県を訪問した。そしてわれわれの同僚ハンセン上院議員は、1965 年の日本訪問に参加された。このような日米知事の交換訪問は、1961 年ホノルルにおける年次知事会議によつて採択された決議文の線に添つて行なわれるものであり、決議文のうちには、次のとおり記録されている。

1. アメリカ全国知事会は、日米両国の関係を強固にするため相協力すべきである。
2. アジアにおける民主主義のとりでとして、又偉大なる工業国として日本は、その経済的成長と安定と繁栄によつて、自由世界のため本質的寄与を行なつた。
3. 交換訪問は、思想の交換、共通問題の解決及び、各州と日本との貿易と旅行と文化の推進に役立つものである。かくして自由世界の平和と民主主義を大いに助長するものである。

議長。今回は、上院が日本知事団を歓待した 3 度目である。アメリカ全国知事会の元会長として私は、このような機会を持ち得たことを、喜びとするものである。私は、国務省がこのような交換訪問を可能にするうえに、最も大きな協力を行なつたものであることをつけ加えたい。最後に、議長、

アメリカ知事団の日本訪問及び日本知事団のアメリカ訪問は、われわれ偉大なる 2 国間の国際協力と理解を、いやが上にも増大するものであるとの確信を重ねて強調したい。

議長、私は前ワイオミング知事で、現在ワイオミング選出上院議員である私の同僚ハンセン氏に発言を譲りたい』。

ハンセン上院議員の演説

『議長、私はデラウェア選出議員の私の同僚にお礼申し上げる。目下アメリカを訪問中のアジアの友邦国の紳士諸君について、ボツグス氏が言及されたことは、最も適切である。

9名の賓客については、それぞれ紹介されたので、私がつけ加えることはない。日本の知事各位のアメリカ訪問及び、アメリカ知事の魅惑的感動的国家日本の訪問は、偉大なるわれわれ両国間の国際的協力と理解を助長すること多大である。

私はワイオミングの知事として、1965年に、離踏した東京と優美な美しさをもつ地方を視察のため、アメリカ知事代表団に参加する光栄に浴した。そして終始、どこの都市でも、また、あらゆる瞬間、日本国民の心尽しと好意には感銘の外はなかつた。それは私の最初の日本訪問であつたが、決して最後のものではない。この旅行の印象は数々あつたが、主として、僅か 20 年間に、甚だしい損害を蒙つた国家から、アジアの巨大な民主的工業国に生れ変つたことに対する尊敬の念である。

われわれはアジアの不安 (unrest) と不断の革命 (revolution) について多く聞かされているが、日本には経済的、社会的進歩の緩慢な無言の革命 (revolution) のみが見出された。そして個人と集団の勤勉を通じて、彼等自身を、彼等の家族を、そして彼等の国家を益しようとする勤勉な国民の倦むことを知らない焦燥 (unrest) のみが見出された。

日本は今日、アジアにおける最高の個人所得と、世界第 3 位を誇る鉄の

製産と、最高の学問の普及率とを有している。また日本は、世界第一の造船国である。これらは、日本国民が成就した進歩の単なる統計的指標にすぎないが、これらはまた、アジアの指導国家として着実な上昇活動を示すものである。

日本国民と彼等の指導者は、産業と生産におけると同様、政治と社会の質的向上にも、同様の関心を抱いている。また日本国民は、家庭と家族を、社会安定の基本的要素と考えている。

私の同僚が申したように、今回の訪問は、日本知事団の第3回目のアメリカ訪問である。私は今回の訪問は、将来何回も続けて行なわれる多くの日米交換訪問の一つであるようにと希望している。

私は、デラウェア選出ボツグス上院議員とともに、有能な国務省職員が、日本知事団に差し伸べられたご協力及び、われわれの賓客を今日ここにお迎えしたわれわれのため、差し伸べられたご協力に対し、国務省に謝意を表すものである。

私はボツグス上院議員と共に、日本知事団のアメリカ首都訪問を、心から歓迎する。

私どもは、ここに日本知事団をお迎えいたしたことを、喜びとし誇りとする』。

ロードアイランド・ヒルスグローブ空港着

午後6時55分アリゲニ航空829便にてワシントン・ナショナル空港発。午後8時7分ロードアイランド州ヒルスグローブ空港着。空港には、Chafee知事夫妻、Warwick市の市長Philip W・Noel氏、州庁職員など多数の人々が出迎えてくれた。Warwick Veterans Memorial高等学校のコーラス隊が、日本国歌を演奏して歓迎した。鼓笛隊のような服装をした少女7・8名が、カーネーションとバラの花束を知事夫人に贈った。17・8歳の背高いくとも可憐な姿は、周囲の人々を魅了するに十分だった。ウオーウ

イツクの男女高校生は、コーラスを合唱した。空港のすばらしい歓迎ぶりについて、後に夕食会のときシェイフイー知事に伝えると、知事は、『これはみんな日本を訪問したとき学んだことだ』と答えられた。

5月25日（木）　ロードアイランド州プロビデンス

雨と風。

午前8時15分バスにてシエラトン・ビルトモア・ホテル発。8時30分州庁着。知事と朝食を会食した。雨と風が激しいので、バスの乗り降りには、州庁職員が傘をさしかけてくれた。

シェイフイー知事歓迎挨拶

『ロードアイランドに、4人の夫人を含めた日本の知事ご一行をお迎え出来ましたことをうれしく存じます。あいにく天気が悪くて残念ですが、これは決して州の責任ではありません。連邦が責を負うべきことです。

わが州は、連邦中最少の州であります。人口密度は最大であります。ロードアイランド州は、アメリカ建国時代の13州の1つで、当時移民は、英本国の宗教的圧迫を逃れ、宗教の自由を求めて当地に参ったのであります。

昔は繊維産業が盛んでありましたが、今日では工業が第一になっております。漁業も昔は盛んでありましたが、今日ではそれほどではありません。繊維産業は、全産業の5分の1程度で、これに次いで宝石細工、銀製品製造等で、保険業、銀行業等も盛んであります。また、海軍の基地が置かれています。

人口が増加するにつれて、日本と同様、ゴミの処理、交通等の問題が起きております。先年日本を訪問いたしました際、私は、このような問題の処理について学んで参りました。

かつては全米第一の富裕な州でありましたが、その後一時貧しくなり、

苦難の道を歩みましたが、今日では再び認められて来ております。

今日の状態に導いたものは、立派な道路であると思いますが、私は更に鉄道を重視しております。アメリカでは鉄道は斜陽化しておりますが、何かよい再建方法はないものでしょうか？ 東京—大阪間の新幹線のようなものが建設出来たらと思います。

目下州議会の開会中でありますので、明後日終了しますが、目下甚だ多忙であります。私の立場をご理解いただき、昼食と夕食は皆さんとご一緒にいただきますが、その他は失礼いたしますので、ご了承願います。州議会の運営について苦勞しておりますので、議会運営についてご教示いただければ幸いです』。

朝食後、簡単な記者会見ののち、州議事堂を参観した。ロードアイランドという州名は、昔同名の船から取ったもので、その船で使用した銀器などが飾つてあつた。

ジョン・ブラウンの家 (John Brown House)

1787年にジョン・ブラウンは、東洋を訪問、2年後に帰国したが、その際建てたのがこの家である。英国式の建築で、室内には、日本人の筆になる1854年のペリー提督の日本訪問の絵、ジョン・ブラウンの肖像画、九谷焼などが飾つてあつた。一見仏壇のような家具があつたので、尋ねたところ、読書や書きものの際使うテーブルであつた。そしてロード・アイランドは、アメリカで最高の家具の製産地で、デザインは単純であるが、線が頗る優美であると説明があつた。なお、ペリー提督は、ロード・アイランドの生れである。

美術館

デザイン・スクールに留学している土田英子嬢が、11時から試験が始ま

るというのに、それまでの間でもと、通訳などをしてくれた。美術館で教育を担当しているトーマス夫人が、案内され、次のように説明された。『この美術館は小さな規模ではあるが、1. ギリシヤ、ローマの美術品、2. 19世紀のフランスの絵画、3. 日本、印度、中国等の東洋美術品を数多く収蔵している。陳列品は、3カ月毎に全部変えるそうだから、非常に多くの美術品を所蔵しているわけである。10世紀頃の木造の仏像があつた。大阪の小川村から出たもので、1933年に購入、この美術館の最優秀品の一つである』と。この他100年前の宮島の刺しゅうや、18世紀のプロビデンスの壁画等があつた。トーマス夫人はさらに『日本の絵と西洋の絵を比較して、同じ風景画でも日本の絵は、ロマンチックで人情を表わしているが、西洋の絵は、光を科学的に利用している』と説明された。

中庭にロダンの彫像が競売に出されていた。価格は7,500ドル（270万円）であると説明者は言つた。ハナミズキ（Dogwood tree）が真盛りだつた。

ニューポート市 (New Port)

ニューポート市は、大西洋に突き出た半島にあつて、港であると共に夏の避暑地として有名である。19世紀の中頃、金持ちがはでな邸宅を建築し、夏の社交都市として有名になつた。Eastonの浜とBaileyの浜は、有名な避暑地である。Ocean DriveとBellevueの大通りは、旅行者の訪問地となつている。

此処には多くの富豪の邸宅や史蹟などが、史蹟保存協会によつて保存され、一般に公開されている。下田市と姉妹都市提携を結んでいるが、いずれも港湾都市であり、ペリー提督と関係があり、歴史的、産業的に深いつながりがある姉妹都市提携の意義は大きいものがあると思われる。

多数の大邸宅が史蹟として保存されているが、その豪壮さを見るにつけ、19世紀中頃のロード・アイランドが、いかに富裕な州であつたかがうかが

われる。

大理石の家 (Marble House)

Bellevue 大通りの大理石の家，別名 Vandervill 邸を見学した。こ
こは大人 1.75 ドル，小人 75 セントで，日曜日も含め，午前 10 時から午
後 5 時まで，一般に公開されている。

ニューポートの大邸宅のうち最も華麗なこの「大理石の家」は，Richard
Morris Hunt の設計により，William K・Vanderbilt のため
1892 年に建築されたものである。大理石の家という名前は，建築や装飾
に用いられた各種の大理石のため付けられた名前である。ベルサイユ宮殿の
多くの特徴が，建築様式や室内装飾に取り入れられている。

門や車道，入口の扉の銑鉄及び階段やバルコニーの手摺は，ベルサイユ宮
殿のものを真似たものである。ホールの黄大理石は，イタリアの Sienna か
ら取り寄せたもので，食堂の壁は，Numidian 産のピンクの大理石である。

Gothic ルームは，その他の 17，18 世紀のフランス様式の室と較べ
て，著しい対照を示している。最も苦心が払われた室は，「ゴールデン・ル
ーム」として知られている舞踏室で，部屋中すべて金で装飾されている。マ
ントル・ピースの中央にあるフランス製の時計は，世界中のそれぞれの時間
が告げられるように工夫されている。1 階は Vanderbilt 氏夫妻その他家
人の寝室で，2 階は応接間になっている。

Cliff walk の朱と金の漆塗りの tea house は，1913 年に建築され
たものである。建物内に 70 の室があり，左右対象的に造られている。ヴァ
ンダービルト氏は，ニューヨークの鉄道会社の社長で，鉄道の経営で儲けた
金で，この黄金と大理石の邸宅を，海浜の最も風光明眉なところに建築した
のである。現在は，ニューポート郡保存協会によつて保存され，観覧料を維
持費にあてている。昨年度は 10 万人が訪問している。建物の大きさは 250
呎×150 呎の 4 階建である。驚いたことにこの当時すでに油圧式のエレベ

ーターが出来ていたことである。

午後 12 時 15 分 Ocean Drive (海岸の最も景色のよいドライブ道) に添って海岸をドライブした。

The Elms (エルムス邸)

エルムス邸で、ニューポート郡保存協会主催により昼食会が催された。議
会開会中にもかかわらずシエイフイー知事は、しばしば視察現場に現れて説
明や案内を援助してくれたが、この昼食会にも出席して、日本知事団を接待
された。

エルムス邸は、前記 Marble House と同様、富豪の邸宅であるが、次に
その概要を紹介しよう。

ベルビュー大通りにあるエルムス邸は、アメリカにおける最も美しいフラ
ンス風の別荘と考えられている。フィラデルフィア石炭業界の大立物
Edward J・Beruind の夏の別荘として 1901 年に建築された。エルムス
邸は、18 世紀にパリーの近傍に建てられた d'Asnieres 別荘をモデル
にして、有名な建築家 Horace Trumbauer が設計したものである。

エルムス邸の 1 階の広間は、18 世紀の終りにニューポートに建てられた
多くの邸宅の優美さを反映している。昔の家具調度品を多く収めているヴェ
ニス風の食堂、ルイ 16 世の客間、クリスタルのシャンデリヤのある舞踏室
等は、当時の富豪の邸宅の代表的なものである。7 月から 9 月中旬までの毎
土曜日の夜、全館に火がともされると一段と魅力に充ちたものとなる。

青銅や大理石の像、たわむれる泉、見晴し台、フランス風に入念に造形さ
れた木々や生垣のある緑の芝生、これらはけだしニューポートの最も美しい
ものの一つに数えられよう。春のチューリップ、夏のベコニヤ、秋の菊等は、
美しいフランス式庭園の呼びものである。全世界から集められた樹木や灌木
は、訪問者を喜ばせる。

聖ジョージ・スクール

午後 2 時 30 分から聖ジョージ・スクールの視察が行なわれた。この学校は、ロード・アイランドが最も誇としている学校の一つである。この学校は、理想的な英才教育を行っている学校のように見えた。学費は年間 2,800 ドル（邦貨 1,008,000 円）であるが、ハーヴァード大学の 2,000 ドルに比較し、中等学校の学費としては甚だ高額である。生徒数は 210 名で、先生は 35 名である。全員入寮制の男子のみの中学 3 年高校 3 年の学校である。教科目は、数学、語学、化学、音楽、神学等であるが、夜は演劇、新聞等のクラブ活動が行なわれる。生徒の礼拝のため豪華な礼拝堂があつた。スパルタ式硬教育が行なわれているので、生徒は酒も煙草も厳禁されている。

寮の各室を参観して廻つた。昔の日本の軍隊のようによく整頓されていたが、ある室で、寝台を被っている布に、自動車の絵が書いてあるのがあつた。自動車は若者のあこがれの的であるのだ。ある室に、Smoking is Permitted と書いてあつた。生徒のレジスタンスの現れであろう。

アリス・ブレイトン女史の庭園見学

午後 3 時 15 分 Alice Brayton 女史邸到着。

ブレイトン女史は、92 才のお嬢さんである。大きな邸宅に、2・3 名の下女と生活しているらしかった。女史の書齋に自から案内してくれた。10 畳程の室の周囲に、古い書物が一ぱいつまっていた。女史は誇らし気に「これは私の書齋です」といった。レイン・コートを頭から被つて、雨の庭園を見学した。庭木があるいは象の形に、あるいは麒麟の形に刈込まれ、よく手入れが行き届いた見事な庭園だつた。

帰りがけにブレイトンさんは、自分が書いたというブレイトン家系譜の書物を 1 冊ずつ贈つてくれた。

Squantum (スカンタム) クラブ晩さん会

午後 10 時からスカンタム・クラブの焼き蛤の夕食会に招待された。シェイフイー知事夫妻出席。日本語のメニューも用意されたので、次に記載する。

○しお豆，貝の澄まし汁，西洋玉ねぎ，トマト，貝のチャウダー（スープ），黒パン。

○かき揚げ，スクアンタムの焼き蛤，ソーセージ，ゆでとうもろこし。

○さつまいも，スクアンタム・ポンス（飲み物） 焼き魚。

○サラトガ・ポテト，焼きロブスター（アメリカ大えび）。

○クリームをかけたインディアン・プディング。

○季節メロン。

○コーヒー

○日本酒。

ニューポートは，魚が豊富であるが，特に蛤とロブスターは美味である。焼蛤と焼きロブスターは，まことに珍味で，海の王者だと思つた。

余興にペンブローク大学の女子学生が，「恋のチャンス」「君はすべて」「みんなが笑つてた」「虹の彼方に」「哀歌」「ヘイ・ライダー」「この道は」などの歌を歌つて歓待してくれたが，永野知事は，これら女子学生と「オールド・ブラック・ジョー」を合唱して喝采を博した。田部知事，木村知事，宮内局長等は，炭抗節を踊つて紹介，これに対しアメリカ側は，日本知事も加えてスクエア・ダンスを踊り，まことに和気あいあいとした日米交歓風景であつた。

余興が終つてシェイフイー知事は，州最高幹部職員を紹介した。

団長安孫子知事は，日本知事団を紹介したのち，次のとおり挨拶された。

安孫子知事挨拶要旨

『日本知事団を代表して一言ご挨拶申し上げます。シェイフイー知事ご夫妻の心からのご歓待をいただき，特に若い方々から，歌や踊りのご披露をいただき，ありがとうございました。』

今日は大変寒く、また、雨も強く降っておりますが、皆様の暖かいご歓待を受け、心温まる思いがいたします。昨日ジョンソン大統領とお会いいたしました。その節大統領が強調しておられましたように、相共通する点を助長し、日米の友好と親善を深めてゆきたいと存じます。

シェイファー知事さんは、議会開会中でご多忙中のところ、私どものためご案内やその他いろいろご配慮いただきまして、ありがとうございます。このような日米知事の交換訪問は、将来も続けて行い、更に発展させたいと存じます。特にニューポートは、ハリス出生の地として、日本の私共とも浅からぬ関係をもっております。

田部知事は、歌が大変上手なのですが、今日はまだ歌っておりません。それは今日お孫さんが生れて、それで頭が一ぱいになっているからだと思えます。

今晚は、ペンブローク大学の学生の方々のご歓待をいただき、また、留学中の日本の学生もご招待いただきまして、ありがとうございます。重ねて大変なご歓待を受けましたことに対し、衷心よりお礼申し上げます。』

午後 10 時ビルトモア・ホテル帰還。

5 月 26 日（金） ヴァーモント州モンペリア

午後 6 時プロビデンス空港発、ヴァーモント州に向う予定であつたが、夜来の強風と雨止まず、予定を変更してバスにて出発した。

バスで 3・4 時間のドライブである。途中から雨も止んだ。途中峠を越えてニューハンプ州の Concord で小休止をしてコーヒーなど飲んだ。ここでは地上が時ならぬ新雪に蓋われていたが、木も草も雪の間から緑の新芽をのぞかせていた。

12 時モンペリアのヴァーモント州庁着。ホフ知事や幹部職員が州庁の玄関に出迎えて下さった。州庁舎前に日米両国旗が空高く掲げられて春風には

ためいていた。これは州旗を降して米国旗と日章旗を掲げたのであつて、未曾有のことである。ホフ知事の御厚志に感謝した次第である。

モンペリアは、人口 1 万に満たない小さな町であるが、道路もよく、どの建物も、周囲の芝生はよく手入れが行き届き、何処を見てもゴルフ場のように美しかった。

知事団一行は、直ちに州庁舎に案内され、ホフ知事の歓迎の挨拶を受けた。

ホフ知事挨拶

『日本の知事団の皆さんよくいらつしやいました。1 昨年私は、日本を訪問いたし、大変お世話になりました。当地の風景は、日本に似ているところがあると思います。今日天候が悪くて残念です。これから生命保険会社で昼食会をいたし、しばらく休憩することになっております。今晚は、ヴァーモント大学の晩さん会にお招きしたいと存じます』。

これに対し、安孫子知事から、大要次のような挨拶があつた。

安孫子知事挨拶

『ホフ知事さんのお話のように、ヴァーモントの風景は、日本のそれと非常によく似ています。途中雪景色を楽しむことが出来、たくさん写真を撮りました。今明日いろいろお世話になりますが、特にモントリオール万国博までお世話いただき、ありがとうございます。

日本とヴァーモントが、ますます友好を深めますよう希望いたします』。

ナショナル生命保険会社昼食会

午前 11 時 45 分からナショナル生命保険会社の昼食会に出席した。この間夫人は、ストーのトラツプファミリー・ロッジで、マリキ・フオントラツプ夫人と昼食後市内観光をされた。

社長 John T・Fey 氏は、「自分の会社も日本に関心を持ち、日本に投資

している。日本との関係を永く続け、更に発展させたい」と歓迎の挨拶を述べ、安孫子知事からお礼の言葉が述べられた。

続いて午後 2 時からナショナル生命保険会社で記者会見が行なわれ、安孫子知事から次の要旨の挨拶があつた。

安孫子知事挨拶

『私どもは、ハワイからアイオワ州ミシガン州、ロード・アイランド州を経て、本日ヴァーモント州をお訪ねしました。この間デモインでは、日米知事会議に参加し、ワシントン D・C・では、40 分間の長きにわたつて、ジョンソン大統領と会見いたしました。このように長時間お会い出来たことは、異例に属するとのことでありました。

日米知事相互訪問も、今回で日米それぞれ 3 回行なわれましたが、通算 6 回行なわれた訳でありまして、日米の相互理解と親善増進に、多大の貢献をいたして参りました。

一昨年ホフ知事は、相互訪問計画によつて日本を訪問されましたが、その際、特に私の県を訪問されました。山形県は、ヴァーモント州と風景も大変よく似ております。またスキーが盛んであることも同じであります。再びホフ知事が、日本及び山形県をご訪問下さいますことを希望いたします』。

記者

米国で見聞されたことで日本の問題処理に役立ち、日本の問題処理が米国で役立つことがあるか？

答

交通、住宅、ゴミ処理等日米は互に共通の問題をもつている。これらの問題処理について、日本に役立つものはこれを活用いたしたい。特にアメリカは、各種の実験をしておられるので、日本でも応用してみたい。ミシガ

ン州のロムニー知事は、青少年不良化防止について、重大な関心をもって
おられるが、日本に帰ったら、ロムニー知事のご教示に従って、実施して
みたい。

記者

このような諸問題処理のため、日米に情報交換の組織があるか？

答

日米両国の知事会にそれぞれ事務局があつて、情報の交換を行つている。

記者

ジョンソン大統領に会つて、ベトナム問題に触れたか？

答

発表は禁じられているので申し上げられない。私たちはもちろん平和を望
んでいるが、アメリカは止むを得ず戦争をしているのだと思つている。

IBM 視察

午後 3 時 30 分からエセックス・ジヤンクシヨンの IBM 工場を、工場長
ジェイムス・J・リツチー氏の案内で視察した。この工場は、広い原野の中
で、芝生に囲まれた 3 年前に建築されたばかりの美しい建物である。

IBM の全職員は 20 万人に及び、アメリカ第 8 番目の大企業である。世
界 104 カ国で事業を行い、米国内だけで 22 の工場、16 の研究所、42
0 の営業所を持ち、株主は 30 万人に及んでいる。

1957 年の収入は 12 億ドル、1967 年には 42 億ドルに成長した。
1961 年の従業員の数数は、11 万 6,700 人であつたが、1966 年
には 19 万 8,000 人になつた。

労働関係については、週 40 時間制で、給与は、週給と月給とあるが、時
間給はない。週 40 時間を越えると、給与は 5 割増し、日曜、休祭日の勤務
は、倍額になつている。5 年以上勤続者には、2 週間の有給休暇が与えられ
る。15 年以上勤続者には、4-5 週間の有給休暇が与えられる。病気の場合

合は、6カ月の有給療養期間が与えられ、入院の際は入院費、手術代が会社から支給される。生命保険料は、会社から支払われる。

退職は、55才以上であるが、55才—65才は、希望する時に退職出来る。停年は65才である。高等学校卒業者は、全従業員中66パーセントを占め、専門学校及び大学の卒業生は、33パーセントである。

マネージャーは、5人ないし25人の部下をもち、雇用、勤務評定、解雇、利益の算定等に責任が負わされている。製産品は、電子計算機の部品、電子回路等であるが、現在は基本回路も造っている。平均給与は、非技術系で週給120ドル。大学卒業の技術系初任給は600～700ドルである。女性は5人に1人の割になっている。全社に労働組合はない。昇進は能率と勤務成績の実力主義によつて行われる。同種の仕事を同年間勤めている人で、給料の最高と最底との差は、約20パーセントである。

オートメーションは最高の域に達し、基本回路にトランジスタをVacume pencilでつける仕事はもちろん、製品の検査もすべて自動的に行なわれる。回路を調べる機械に、ニコンの製品が使われていた。アメリカに来て、日本の工学の優秀さを知らされたことである。

ヴァーモント大学における晩さん会

午後5時30分からヴァーモント大学における晩さん会に招待された。

ホフ知事挨拶

『1962年から日米知事の交換訪問が行なわれておりますが、1昨年私は、アメリカ知事団に加わり、東京と九州を訪問し、さらに山形県を訪問いたしました。

山形県は、スキーの盛んな、風景の美しい県です。その時以来山形県とヴァーモントの友情は、一段と緊密になりました。この次はぜひ妻を連れて訪問したいと思います。山形県とヴァーモントは、大変よく似た風景を

しています。

この知事交換は、友情の交換であるばかりでなく、水や空気の汚染その他多くの問題解決のため、お互に情報を交換し、努力し合っております。アメリカでは特に国務省が日米知事交換に深い関心を持ち、協力してくれております。

次に州とヴァーモント大学とが、どのような関係にあるかお話ししたいと思います。大学の役割は、生活が複雑化し、政治の運営がむづかしくなるに従って重要になつて参ります。しばしば大学と意見の交換を行つておりますが、今後も一層緊密な関係を保つて行きたいと思つております。これから学校関係の方をご紹介します。』

ライマン・S・ラウル総長挨拶

『皆様よくこの大学をお訪ね下さいました。この大学は、1791年の創立でありますから、随分古い大学であります。構内には次ぎ次ぎに大きな建物が建っておりますが、大切なのは、内容であります。現在医学部、法学部、工学部、農学部、看護部等に学部があります。大学は年々大きくなつておりますが、この州にふさわしい大学にしたいと思つております。

ヴァーモントは、日本から遠く離れておりますが、たくさん日本の方々を訪ね下さるようお待ち申しております。』

5月27日（土） ヴァーモント州～カナダ・モントリオール

晴，時々曇。

カナダ万国博視察

午前8時45分バスにて宿舎ホリデー・イン発，1967年万国博視察のためモントリオールに向う。ここからモントリオールまでバスで約2時間で達することが出来る。午前11時着。午前11時30分チャルス・E・ワイリー氏の案内で、先づヴァーモント館視察。正午日本館にて昼食。

午後自由行動。午後 6 時クエニツク館にて夕食。午後 8 時 EXPO67 出発、午後 10 時 15 分宿舎ホリデー・インに帰還した。

EXPO67 は、「人間とその社会」というテーマで開催され、サブ・テーマは、「人間探求者」「人間生産者」「人間創造者」であった。従って今回の万国博は、すべて上記のテーマに従って批判されるべきで、成功不成功も、このテーマに合致するか否かによつて決定される。見本市は、買つための企画であるが、万国博は一層文化的意義を有するものである。

僅か数時間の訪問で、単に外形を見るに止つたが、日本館は、外観は校倉造りに似て日本古代建築の特色を出し、各国のパビリオンもそれぞれにお国ぶりをあらわして、いずれも見事であった。すべてがスケールの大きいこと、訪問者の多いことは想像以上であった。最初の予定者数よりも 1 日 5 万人以上も多いそうである。

5 月 28 日（日） ヴァーモント州～マサチューセッツ州

午前 8 時 30 分から宿舎ホリデー・インでホフ知事及び州幹部職員との朝食会があつた。席上ホフ知事は、次のように挨拶した。

ホフ知事挨拶

『皆さんと今日お別れいたさねばならないことは、大へん寂しいことです。一昨日ご到着になつた時、州庁舎前に日米の国旗が立ててありましたことを、皆さんお気付になつたと思います。普通は米国々旗と州旗を掲げておくのですが、州旗をおろして米国々旗と日章旗を掲げました。この二つの国旗のように、日米は並んで仲よく進んで行きたいと念願しています。現代国家にはいろいろの問題がありますが、私は、世界の人々は、平和に共存出来るものであるという信念をもつております。ヴァーモント州民とアメリカ国民に代り、日本知事の方々に、ご訪問いただきましたことを厚くお礼申し上げます。友好のしるしとして、今回新調いたしました日本の

国旗をお贈りいたします』。

安子孫知事謝辞の要旨

『当地に参りましてから手厚いご歓待とご配慮をいただき、厚くお礼申し上げます。

昨日は EXPO67 を見せていただきましたが、特にヴァーモント館と日本館とが、相隣り合っておりますことも、不思議なご縁と存じました。

世界の平和は先づ、日米が手をつなぐことによつて達成されると信じております。それ故に日米が相協力することは、ぜひとも必要であると存じますのであります。私どもはこのことを日本国民に知らせたいと存じます。機会がありましたら、私どもも、また、私どもの後継者も、当地を訪問いたすように努力しないと存じます』。

バーリントン市の都市再開発視察

バーリントン市 (Burlington) の Urban renewal について Jerry Brown 氏は、次のとおり説明した。

『今朝皆さんは、お帰りになりますので、時間の関係上簡単に説明いたします。

アメリカのような若い国に、どうして都市再開発が必要なのかと、不思議に思われるかも知れません。最初この市は、湖畔の方に都心がありましたが、次第に荒廃して来ましたので、更新が必要になりました。もう一つの理由は、昔は自動車もなく、交通機関も発達しておりませんでした。それで当時時速 17 哩に適するように建設した道路も、今日では 12 哩しか速力が出せないようになりました。今日では、昔とちがつて、小売店もデパートも、相応のスペースや駐車場が必要になつて来ました。このまゝ行けば、市は次第に郊外の方に押し出されてしまいます。都心の税収入が低

下し、都心で文化的な仕事や行政が出来なくなりました。このような傾向は、1940～1950年間に顕著に起りました。市当局は、建築会社や商店に、都心に移るように勧誘しましたが、成効しませんでした。連邦政府と市が共同で、土地の新らしい計画を始めました。すなわち都心に役に立たない建物の取り壊しを始めました。こうして出来たスペースを如何に利用するかが大切な問題であります。土地の買却は入札で行いますが、どんなに沢山お金を出しても、土地利用計画が悪ければ、その会社は土地を入手することが出来ないことになっております。すなわち会社がいろいろと計画を立て、入札によつて市と契約することになりました。今日午前中その場所を見ていただきますが、州庁舎やアパート、文化センター等を建設することになっております。現在の商店街と新しく計画する市とを、二つの道路で連絡することになっております。新しく建築する高い建物によつて、他方の風景を妨げないように計画されています。駐車場は、人と車を隔離する政策をとつております』。

ヴァーモント州からマサチセツツ州へ

午前 11 時ノース・イースト航空 227 便に搭乗、バーリントン空港発、マサチユセツツ州ボストンに向う。

午後 12 時 01 分、正確にボストンのローガン国際空港着、空港では、マサチユセツツ州ヴオルプ知事らに迎えられ、直ちにシエラトン・プラザ・ホテルに向う。

夜 **Winchester** のヴオルプ知事の私邸のレセプションとダイナーに招待された。ミシガン州ロムニー知事の私邸もそうであつたように、市の中心からほんの 1 時間ばかり自動車ドライブすると、もう静かな郊外というよりは、鄙びた **Countryside** に来てしまう。閑静な私邸で、未だ暮れ切らない庭で、記念の写真など何枚もとつてもらつた。珍らしいイタリア料理のご馳走になつた。前駐日大使ライシャワー氏夫妻も来賓として招待され、顔見知

りの知事たちは、互に久かつを叙した。

ヴオルブ知事挨拶

『日本の知事代表の方々，来賓の方々，ライシャワーご夫妻，ご列席の皆様。今晚は私のささやかなパーティにお招きいたしましたところ，お疲れにもかかわらずご出席いただきましてありがとうございます。』

デモインご到着以来，ミシガン州，ワシントン D・C・，ロード・アイランド，ヴァーモント等各州を廻り，ここマサチューセッツ州にお着きになりました。皆様さぞお疲れのことと存じます。いつもこのような公式訪問には，時間が足りなくて残念です。各州を見て来られましたが，わが州は 1620 年に the Pilgrims (Plymouth に植民地を拓いた 102 人の清教徒) が上陸して開かれたのであります。わが州からは大統領も 3 人出しておりますし，前大統領ジョン・F・ケネディー (John F・Kennedy) もわが州の出身であります。このように輝やかなしい歴史をもっておりますが，一方電子産業も盛んであり，道路の建設にも鋭意努力しております。学術方面では，ハーヴァード大学，ボストン大学，シモンズ大学，マサチューセッツ大学等多くの有名校をもっております。私の娘もボストン大学を卒業いたしました。私どもは，平和と教育と産業の発展及び社会福祉のため努力いたしております。

さる 20 日アイオワ州デモインで日米知事会議が開催され，人口移動に伴う諸問題について，2 時間にわたって協議いたしました。そして私どもは，人口の過密，過疎に伴う諸問題について，共通の問題をもっていることを知りました。どうぞ私どもの新らしいボストンを見ていただきたいと存じます。私どもは，清教徒 (Pilgrims) の精神をもつて，各種の問題解決に努力したいと存じております。私どもは，海を越えてはるばるマサチューセッツを訪問された皆様と手をつないで，お互の利益のため努力したいと存じます。

私と家族の者はみな、皆様をわが家にお招き出来て喜んでおります。もつと代表的なアメリカの家庭にお招きできればよかったですのですが、私の家はそのような代表的な家でないので残念です。

皆様の収獲の多いご旅行をお祈りしております』。

家庭的な暖かいパーティであつた。ヴオルプ知事の令弟は、3・4人の友人とギターを弾いて日本知事団をもてなしてくれたが、興酣となるやヴオルプ知事は、自から楽器を奏して余技を披露した。所望に応じ田部知事は、自作の歌「春風に駒はいななくひと鞭あてて、あとは男の心意気」を朗吟し、永野知事は「オールド・ブラック・ジョー」を歌つて喝采を博した。心と心の通つた楽しい一夕であつた。

5月29日（月）マサチューセッツ州ボストン

記念艦コンステイション参観

午前中ボストン海軍軍港に老軀を横たえている米海軍の歴史的軍艦コンステイション号を参観した。この軍艦は総トン数2,200トンで、英仏戦争勃発後1794年に建造されたものである。明年10月21日158回目の就役記念祭を執行する。

海軍中尉の艦長以下約20名の乗組員が、常時乗船し、参艦者の案内や説明を行っているが、年1回はこれら乗組員によつて沿岸の巡船が行なわれる。この艦のあだ名は“Old Ironsides”（老甲鉄艦）といつて、舷側は、鉄板でできているが、エンジンはなく、たくさんの帆で走る帆船である。説明者は、この軍艦は負けたことのない常勝艦であるといつた。実際はこの軍艦は、米海軍最古のものではなく、Constellation という軍艦が最古のもので、Constitution より約1カ月古い。

知事と夫人たちは、この中尉の艦長に敬意を表した。蜘蛛の巣のように張られた索具や、大砲の並んでいる甲板、船員室、食堂、記念品などを見せて

もらった。この船は、毎年 10 万人の参観者があるといっていた。

ハーバード大学 (Harvard Univ) 視察

マサチューセッツ州ケンブリッジにあるハーバード大学を視察した。この大学はアメリカ名門中の一つで、1636 年創立、アメリカ最古の大学である。学生数約 17,000、先生の数約 4,600 人である。

入学競争率は、7 人に 1 人で、男女共学である。入寮も可能である。月謝は年間 2,000 ドル (72 万円) であるから、日本では甚だ高額であるが、アメリカでは普通である。試みに学生結婚をしている人がどれ位あるかと聞いてみたら、約 5 パーセント位だろうといつた。

学生の服装を見ると、いずれもビートルズかヒッピー族のように、頭髪を長く伸ばし、股引のようなズボンをはき、サンダルをつつかけていた。服装からはどうみても真面目な学生とは思われなかった。ちょうど日本人の教授に会ったので聞いてみると、『学生は概ね立派な家庭の子弟で、日本の学生も及ばない程よく勉強する。彼等はあのような服装を誇りにしているので、ちょうど大正時代に一高の生徒が、朴歯の下駄を履き、袴をはいて腰に手拭いをぶら下げて得意にしていたのと相通ずるものがある』といつた。

ハーバード大学を辞去して町をドライブしていたとき、若い女性のはだしで歩いているのを見た。これがヒッピー族の流行と聞いて驚いた。

大学に博物館がある。植物博物館、鉱物学博物館、比較動物学博物館、考古学民族学博物館等の博物館がある。大学の各図書館の書物を合計すると 760 万冊に達し、その他研究室などの書物は、別に 400 万冊所蔵されている。

ボストン博物館視察

ボストン博物館の東洋部門は、最も有名である。傑出した作品において、数において、種類の豊富なことにおいて、世界にその比を見ないといわれて

いる。日本、中国、朝鮮、インド、エジプト、ネパール、ギリシヤ、ローマ、チベット、タイ、カンボジア等各国の優れた絵画、織物、陶器、漆器、彫刻等が一堂に集められている。日本のものについては、室町時代、足利時代、鎌倉時代の文人画、佛画、文箱等数え切れないが、中でも雪舟作の猿、光琳作の松島は人目を引いている。短時間の見物は誠に残念であつた。

州庁訪問

午後州庁を訪問して、知事室でヴオルプ知事と会見した。ヴオルプ知事から日本知事に、それぞれ銀製の鉢と、昨夜ヴオプ知事邸で写した署名入りの写真が贈られた。

ヴオルプ知事挨拶

『皆さん今日は、わが州の State House によくおいで下さいました。きのうは1日よい日を過ぎられたことと存じます。今日は、ケネディー前大統領の50歳の記念日にあたりますので、新らしい15セントの切手を発売いたしましたので、僅かですがお贈りいたします。

昨晚私の夕食会をいたしました時、写しました写真が出来上りましたので差上げます。最初に各知事さんに、ポールリビアの銀の鉢をお贈りいたします。たかこれは、荷物になりますから、日本の皆様のお宅にお届けいたします。ポールリビアは、銀製品で有名なところであります。

それでは今からお1人ずつ、写真を差上げます。それぞれ私の署名がしてあります。別に知事さん方には、州の紋章のあるカフス・ボタンを、夫人にはチャーム（胸に飾るもの）をお贈りいたします。

週末には他に出かける予定でありましたが、止めになりましたので、再びお会い出来てうれしく存じます。この次はどうぞもつとゆつくり滞在していただきたいと存じます。

神の恩寵がありますれば、又近い将来お会い出来ると思います。明年は

ぜひ日本を訪問したいと存じております』。

次いで上下両院議会を参観した。特に注目を引いたのけ、議員の賛否の表示とその計算の科学的なことであつた。賛成は YEA, 反対は NAY で、正面の壁に表示される。左右いずれかの方向にバーを倒すと、両側の壁に YEA と NAY の列に大きく電気表示される。そして電子計算器によつて直ちに集計される仕組みである。

最後の晩さん会

午後 7 時 30 分からクラブ・アルゴンクインで、ヴォルプ知事主催の最後のカクテル・パーティーとディナーが開催された。ヴォルプ知事と Francis W・Sargent 副知事の挨拶があつた。

Sargent 副知事挨拶

『今晚このご一行の中に、副知事がおられることに対し、心から歓迎の意を表します。と申しますのは、私も副知事だからであります。知事の命に従い、今朝皆さんとお会いいたしました。が、今晚再び皆様を歓迎することが出来て、心からよろこんでおります。

私の子供の 1 人が佐世保におりますので、私どもは子供を訪ねていろいろ愉快的な経験をいたしました。家に犬が 1 匹おりますが、私は清水次郎長と名付けております。東京の魚市場も拝見しましたが、非常に衛生的で、ボストンの魚市場も及ばないと思ひました。日本の風呂に入つたことや浴衣を着てくつろいたことも、一生忘れ得ない思い出であります。夕飯の時の魚が余り美しいので、食べるのが気がひけました。日本の産業の生長と、交通機関の発達、自然美がよく保たれていること等に感心いたしました。特に日本の汽車は、早くて、時間が正確で驚きました。また道路もオリンピック東京大会を機会に、非常に立派になりました。

現在アメリカでは、自然の美が急速に損われておりますが、日本の美しい自然は、永久に保存していただきたいと存じます。

最後に、日本の知事の方々をお迎え出来て心から光栄に存じておりますことをお伝えして私のご挨拶を終わります。』。

次いでライシャワー氏が次のような挨拶を述べられた。

『私が日本語でお話ししますと、通訳組合から文句が出るといけませんから、英語でお話しすることにいたします。

私は8カ月前日本を去って大使を辞めましたので、挨拶はもうしたくないと思っておりますが、今晚は日本の古いお友達に会えてうれしさの余り、ご挨拶することにいたしました。

6カ月あとで皆さんが来て下さったら、私の私邸にお招き出来たのですが、目下工事中ですので、この次ご訪問いただく時、お招きしたいと存じます。日本にありました時は、すべて外交的に発言をしなければなりませんでしたが、今はその必要がなくて気楽です。

私はヴオルプ知事に、ぜひ日本を訪問するように勧めました。また、サーヤント副知事さんに、再び日本を訪問されるようお勧めします。』。

木村知事挨拶

『私は、日本の貧乏県福島県の知事であります。もつと金持ちの県の知事がおられますが、9人の知事に代つてご挨拶いたします。

今日はこのようなご丁寧なご歓待をいただき、ありがとうございます。今日をもつて私どもの行事の一切を終わりますが、この席をお借りして、ご出席の皆様及び全アメリカの国民に、厚くお礼申し上げます。

ハワイに16日に参りましてから、アイオワ州、ミシガン州、ワシントンD・C・、ロード・アイランド州、ヴァーモント州、マサチューセッツ州各州を訪問いたし、その間にモンリオールの万国博も見せていただき、

昨日こちらに到着いたしました。この間到着ところで心からの温かいご歓待をいただき、お礼の言葉ありません。

日米知事の相互訪問は、両国の自治行政の改善と、親善と友好とを促進することではありますが、世界平和の維持もまた重要な使命であります。このため貴国と日本との親善を深めますことは、最も肝要であると存じます。ワシントンでジョンソン大統領とお会いしましたが、世界は容易ならぬ時期に来ていると思います。われわれは、世界の平和維持のため、より一層努力いたさねばならないと存じます。

日米両国知事の相互訪問により、いろいろ経験を積みましたが、この経験を基礎にして、ますます真実と誠心と勇気をもつて、所期の目的に向って進みたいと存じます。

今後ますます日米親善の増進に努力いたしますことをお誓いして、お礼の言葉といたします。』

解団式

午後 9 時 30 分から、シエラトン・プラザ・ホテルで、アメリカ側クリフイーールド局長、河本、福田、田村、マーフィー嬢等諸氏を交えて、和やかな解団式を行い、かくして一切の行事は、円滑成功裡に終了した。

5 月 30 日（火） マサチューセッツ州ボストン

日本知事団一行は、午前中にシエラトン・プラザ・ホテルをチェック・アウトし、それぞれの目的地に向って出発した。

以上で今回の対米日程を終ったのであるが、この全日程を通じて、われわれの心を打ったことは、米国側では州知事のみでなく米政府がこの日米知事相互訪問を高く評価していることであり、このことはジョンソン大統領及びラスク国務長官の挨拶の中にも述べられているところである。特に州知事が心から日本知事を歓迎して下さったこと及び州の人々も親しみをもってわれわ

れに接して下さったことである。日米知事相互訪問はいよいよその意義を高く示している。

後 記

この報告を終るに当り、われわれは米国政府並びに訪問各州及び米国知事会の事務当局の御配慮を深謝しなければならない。国務省からは、有能な通訳 3 人を全日程を通じ派遣され実にすばらしい意見交換が出来たことである。また訪問各州では日本人留学生や永年米国に居住している日本人を通訳にしてお下さったところもあつた。また日本人医師を付添人にして下さった州もあつて、多大の感銘を受けた。なおアイオワ、ミシガン、ロードアイランド、ヴァーモント、マサチューセッツ州では、日本語の日程を用意して下さったことも誠に至れり尽せりの配慮であつて大変助かつたわけである。こゝに深く御礼申し上げる。

最後に、今回のような意義ある日程を作定せられ、何等の支障なく日程を遂行された米国知事会の事務当局の方々に深甚な謝意を表する次第である。

第 3 部

訪 問 各 州 の 概 況

訪 問 各 州 の 概 況

I ハワイ (HAWAII)

知 事	ジョン・A・バーンズ
Governor	John A・Burns (D) (1965年10月第3回日米知事会議のため来日)
副 知 事	トウマス・P・ギル
Lieutenant Governor	Thomas P・Gill (D)
法務長官	バート・T・小林
Attorney Bert General	T・Kobayashi
俗 称	アロハ州 (Aloha State)
州 都	ホノルル (Honolulu)
面 積	16,716Km ² 四国の約9割(全島面積)連邦中第43位。
モットー	国家の生命は正義により不朽のものとなる。 (The Life of the Land is PerPetuated in Righteousness)
州 花	フヨウ属の植物 (Hibiscus)
州 鳥	ネネ (ハワイのガチヨウ)
州 木	その木 (KuKui)
連邦加入	50番目

歴 史

ハワイの歴史は、1778年イギリスの航海探険家キャプテン・ジェームス・クックによるハワイ群島発見に始まる。彼はサンドウイツチ群島と命名した。

太平洋のナポレオンといわれたカメハメハ大王は、ハワイ島ロハラの長の子として生れ、1782年王位に即き、1795年8島を平定した。しかしその子孫カメハメハ5世は、後嗣子がなかつたため、カメハメハ王朝は5代で滅びた。

1873年、選挙によつてカメハメハ家の重臣ルナリロが新王に選ばれたが、在位僅かに7カ月で歿し、1872年2月12日カラカウアが新国王として即位、1891年1月20日外遊中サン・フランシスコで病死したのち、王の妹にあたるリリウオカラニが女王として即位した。しかし2年後1893年1月17日「安全委員会」と称する反対派結社が女王を廃するに及んで、ハワイにおける王朝制は遂に断絶し、今はその直系子孫もいない。その後仮政府の出現を見、越えて1894年7月4日ハワイ共和国政府が発足したが、1898年6月、米国議会による米布合併決議案の採択を契機として1900年にハワイは、アメリカ合衆国に合併され、合衆国の領土となつた。次いで1959年3月立州が実現し、米国第50番目の州となつた。

位置、地勢、気候

ハワイは北太平洋によつて本土から分離され、州都ホノルルは、東京から3,849マイル、ホノルルからロス・アンゼルスへは2,556マイルで、サン・フランシスコへは2,396マイルあり、ジェット機で4時間半で達することができる。ハワイの標準時間は、米本土の太平洋沿岸のそれより5時間遅れ、日本の標準時間より19時間遅い。

ハワイ群島の総面積は、6,435平方マイルで、わが国四国（7,244平方マイル）の約9割に相当し、コネクティカット、デラウエア、ロード・アイランド諸州よりやや大きい。州都ホノルルのあるオアフ島の面積は、わが国佐渡の約1.8倍であつて、群島全面積の約1割弱にしか当たらないが、ハワイ全人口の約80%が密集している。

ハワイは 8 つの主な島と 114 の小島から成り、前者のうち 7 つに人が居住し、後者の 4 つに人が居住している。西経 154 度 40 分～160 度 30 分、北緯 22 度 16 分～18 度 55 分に及んでいる。

主な島は、ハワイ（4,021 平方マイル）、オアフ（ホノルル及び真珠港）（595 平方マイル）カフーラウエ、（人は居住しない）ラナイ、マウイ、モロカイ、カウアイ及びニイハルの諸島である。

諸島のうち最高峯は、ハワイ島のマウナ・ケアで、海拔 13,796 フィートの死火山である。双子山マウナ・ロアは 13,680 フィートで、世界最大の活火山である。間歇火山キラウエアの噴火口は有名である。マウナ・ケア山頂近くのワイアウ湖は、13,020 フィートの高地にあり、アメリカ最高の湖である。カラエは南の岬の意味で、ハワイの先端にあり、アメリカ最南端をなしている。

ハワイは噴火によつて生じた島嶼である。各島とも河川がなく、西北端のカワイ島に小川がある程度である。小笠原と同じく、群島中には蛇が 1 匹も棲息していないことは、火山性島嶼の故といわれている。気候は 1 年を通じて温和であり、日中戸外に出ればかなり暑さを感じず、年中北東からの冷風貿易風に恵まれ、日本等より湿度が少なく、室内又は木陰におれば極めて快適である。夏季にも華氏 90 度を示すことは稀で、冬期においても 60 度を下ることは殆んどない。雨期は 11 月から 4 月までであるが、1 日中降り続けることなく、また、暴風雨も稀である。年平均雨量は、ホノルル空港で 22 インチ、ハワイ島のヒロ市で 140 インチである。

住 民

ハワイ土着の種族は、元来はポリネシア人であるが、他の種族と混血している。1876 年に概ね 53,900 人が極東及びポルトガルからの労働者の輸入によつて増加した。

1965年のハワイの人口は、702,030人（軍人を含まず）で、州住民の人種別統計は、次のとおりである。

日 本 人 系	207,153 人	(30.0%)
白 人 系	238,531 人	(34.4%)
ハ ワ イ 土 人	9,741 人	(1.4%)
ハ ワ イ 土 人 系	102,502 人	(14.8%)
フ イ リ ピ ン 土 人 系	72,160 人	(10.4%)
中 国 人 系	40,240 人	(5. = %)
黒 人	6,648 人	(0.8%)
そ の 他	15,646 人	(2.3%)

在 留 邦 人

日本人のハワイ移民は、1868年（明治元年）に砂糖黍栽培に従事させるため、米人ウエンリードの募集によつて渡布した153名が最初である。

ハワイの日系人は、全人口70万（1965年7月）の30%に相当する約20万である。

日系人の主な団体は次のとおり。

- (1) ハワイ日系人連合協会（ホノルル）会員約40,000人
- (2) ホノルル日本人商工会議所、（ホノルル）会員約460人
- (3) ホノルル日本人青年商工会議所（ホノルル）会員約185人
- (4) ハワイ島日本人商工会議所（ヒロ）会員約320人
- (5) ハワイ島コナ日系協会（コナ）会員約50人
- (6) マウイ島日系人協会（マウイ）会員約3,500人
- (7) マウイ島西部日本人連合協会（マウイ）会員約500人

日本語学校

86校のうちホノルル市内のみでも1965年24校である。

日系人の政治進出

ハワイ立州後ハワイから、知事及び州議会議員のほかに、上院議員 2 名、下院議員 2 名を選出しているが、この 4 名のうち、上院にはダニエル・井上氏、下院にはスパーク・松永氏及びミンク夫人の計 3 名の日系議員が当選し、日系人の政治面における進出はまことに顕著である。

産業、経済

1963 年度の事業活動は、277.3 億ドルで、最大の歳入は、国防、砂糖、観光事業、パイナップル の順になっている。

1965 年における米軍の現地支出は、4 億 5,000 万ドルに及び、この金額は同年におけるハワイ州の主要産業たる砂糖（175 百万ドル）、パイナップル（121 百万ドル）及び観光事業収入（264 百万ドル）の合計額の約 80% に該当している。

鉱産物は、国内消費に充当されている。ポートランド・セメントが産出される。石灰は砂糖キビの汁を澄ませるのと、パイナップルの汁の酸味を取り除くのに使用される。火山灰は、道路や軽量コンクリートに使用される。塩は太陽熱蒸発法により海水からとる。海女はマウイ沖で、宝石の黒サンゴを採取する。玄武岩と石灰石は建築に使用される。

1963 年における 1 人当りの収入は、2,463 ドルであった。

ホノルルには、年間 1,818 隻以上の船が入港する。定期航空便は、パン・アメリカン、ユナイテッド、ノースウエスト・オリエント、カンタス、日本航空等である。ハワイ諸島間の航空便は、アロハ航空とハワイアン航空である。海上便は、キヤナディアン・パンフイック、メイソン・ナビゲーション、アメリカン・プレジデント、オリエント航路等である。

日本からの輸入（1965 年）は、缶詰用薄板、亜鉛鉄板、棒鋼等の金属製品（年間約 550 万ドル）せん維製品（アロハシャツ、ムーム等）

(年間約 25 万ドル)、魚缶詰、調味料等 (年間約 36 万ドル)、自動車 (年間約 250 万ドル) である。

日本への輸出は、金属スクラップ、牛脂、パインアツプル製品、コーヒー、機械等である。

経済界の構造

ハワイ経済界の特徴は、少数財閥の独占支配ということであり、これを牛耳るいわゆる大財閥は、次のとおりである。

C. Brewster & Co. (砂糖、海運、陸運、牧畜、保険)

T. H. Davies & Co. (砂糖、農機具販売、建築資材、保険、海運等)

Castle & Cooke, Inc. (砂糖、荷役、器械販売、海運、保険等)

American Factors, Ltd. (砂糖、パイナップル、保険、百貨店)

Alexander & Baldwin, Ltd. (砂糖、パイナップル、海運、保険)

これら少数の財閥がハワイ全島の私有地 236 万エーカーの約 90% を独占しており、その他の主要産業の全般に亘り支配権を握っていた。

然るに第 2 次大戦後米本土資本のハワイ進出が開始され、1956 年には先づヘンリー・カイザーが、ワイキキにハワイアン・ヴィレイジと称する大ホテルを建設、またオアフ島バーバース・ポイントにセメント工場を建設、またシエラトンが伝統あるローヤル・ハワイアン、モアナ等ワイキキの 4 つの大ホテルを買収し、最近は、ヒルトンが前記のカイザー・ハワイアン・ヴィレイジを買収し、別にカハラ・ヒルトン・ホテルを建設、更にロツクフェラーもハワイ各島にホテルを新築した。日本の国際興業株式会社も、プリンセス・カイウラニ及びモアナ、サーフライダー等 3 つのホテルを買収したほか、ワイキキに 21 階建新ホテルの建設を発表した。

1953 年、戦後初の日系銀行である中央太平洋銀行 (住友銀行と業

務提携)が誕生し、さらに1959年には第2の日系人銀行シテイ・バンク・オブ・ホノルル(三井銀行と業務提携)が生まれ、1960年に創立されたハワイ・ナショナル・バンクには、三菱銀行から業務顧問が副頭取として迎えられた。また1959年には、ハワイ白木屋百貨店が開店し、続いて1960年には、野村、大和、山一、日興の各証券会社が相次いで業務を開始したが、現在野村のみが残っている。その他日本航空、日本観光協会、日本交通公社、三井物産、西日本貿易、資生堂、ポーラ化粧品、サンスター、東芝、松下電器、東宝、松竹等が支店ないし駐在員や事務所を設置している。

日本の宗教団体

仏教は、1885年(明治18年)から渡布して布教を開始し、現在西本願寺36カ寺、浄土宗16カ寺、曹洞宗10カ寺、真言宗17カ寺、日蓮宗4カ寺がある。

その他神道としては、明治37年にホノルルに大神宮が建立され、金刀比羅神社、出雲大社、石鎚神宮、稲荷大社、ヒロ大神宮、マウイ神社等がある。

宗派神道としては、金光教、天理教、世界救世教、天照皇太神宮教、生長の家、創価学会、立正佼正会等がある。

日本人キリスト教会の数は、100を越える。

新聞社

合計20数紙(英語、日本語、中国語、韓国語、フィリピン語による)があるが、このうち有力なものは、ホノルル・スター・ブユレティン、ホノルル・アドヴァータイザー、布哇タイムス、布哇報知等である。

ラジオ・テレビ放送局

ラジオ放送局には、KOHO（日本語放送局）KZOO（日本語放送局）のほか他に 14 局があり、6 局が時間を限り日本語放送を行っている。他にハワイ島 3 局、マウイ島 2 局がある。

テレビ放送局は 4 局あるが、そのうち 2 局は、日本語による放送を行っている。

教 育 施 設

ハワイ大学は、州立大学で、農、文理、商業、教育、工学、一般教養及び看護の各学部と大学院がある。1966 年 1 月現在学生数 17,500 人、うち日本人 153 名。

イースト・ウエスト・センターは、1959 年創立、留学生数 344 名（1965 年）うち日本人留学生 81 名。日本から日本庭園寄贈。

II アイオワ (IOWA)

知 事	ハロルド・E. ヒューズ
Governor	Harold E. Hughes. (D) (1965 年 10 月訪日)
副知事	ロバート・D. フルトン
Lieutenant	Robert D. Fulton. (D)
Governor	
州務長官	メルヴイン・D. シンホースト
Secretary	Melvin D. Synhorst (R)
of State	
法務長官	リチャード・C. ターナー
Attorney	Richard C. Turner (R)
General	

俗 称 鷹の目の州
Hawkeye State
州 都 デモイン (ズ)
Des Moines
面 積 145,800Km²
連邦第 25 位
人 口 2,757,537 人 (1960 年)
連邦第 24 位
モットー われわれはわれわれの自由を誇りとし、われわれの権利を
守る。
Our Liberties We Prize and Our Rights We
Will Maintain.
州 花 野ばら
Wild Rose
州 鳥 東部ヒワ
Eastern Goldfinch.
州 木 カシワ
Oak
州 歌 アイオワ
連邦加入 第 29 番目

位置、地勢

アイオワ州は、中西部の北西中央部に位置し、北はミネソタ、東はウイスコンシンとイリノイズ、南はミズリー、西はネブラスカとサウスダコタの諸州に境している。ミシシッピ河が東部全域に流れ、ミズリー河が、西部の 4 分の 3 を貫流している。土地の高度は、480 フィートから 1675 フィートに及んでいる。

産 業

アイオワ州は、アメリカ農業の心臓をなし、世界の最も肥沃な土壤をもち、アメリカにおける A 級土壌の 25 パーセントを有している。全州の 94.3 パーセントは、農場である。

Corn Belt（米国中西部のトウモロコシ地帯）の心臓をなすアイオワは、全米の主要な農業州として知られているが、工業の発達が頗る急速であつたので、1963 年の生産物価額は、70 億ドルに達した。一方農産物の市場価額は、25 億ドルであつた。生産物価額の増加は、毎年 30 億ドル以上に達した。

多くの工業は、農産物を加工し、又は農器具を製造している。しかしながら急速に発展している工業は、各種製造工場を有し、電子工業各種品目、洗濯機、タイヤ、鉄道車両、溶鉱炉、自動車付属品、化学製品、肥料、自動販売機、事務用家具、セメント、石膏壁板等を製造している。アイオワ州は、ミシシッピ河の貝殻から、貝殻タン産業を開発した。

アイオワ州の 1965 年における家畜類の市場出荷は、22 億 8,000 万ドルで全米の各州をリードし、1966 年 1 月 1 日現在豚の保有数は、1,252 万 9,000 頭であつた。トウモロコシの産出では、平年度は全国首位を占めているが、1965 年の産額は、8 億 1,196 万 4,000 ブツシエルで、イリノイ州の豊作に次いで第 2 番目であつた。アイオワはまた、全農作物市場出荷受取額は、29 億ドルでカリフォルニアに次いで第 2 位であつた。

牛は 1966 年 1 月 1 日現在、719 万 1,000 頭で、テキサス州に次いで全米第 2 位、大豆は、1 億 2,367 万 5,000 ブツシエルで第 2 位、鶏は第 4 位、七面鳥は第 5 位、羊は第 10 位であつた。鶏卵とバター生産は、上位を保っている。その他多量に生産される農作物には、赤クローバー、チモシイ、ムラサキウマゴヤシ、ジャガイモ、玉ネギ、ポツプコーン等がある。乳牛は主にホルスタイン種で、多くのクリーム

を含んだバターが生産される。

鉱産物は、1965年に1億493万ドルであつた。主な鉱産物は、セメント、石、砂、砂利、石膏、石炭等である。

人口、観光事業、その他

1965年7月1日の人口は、276万人であつた。毎年百万人以上が旅行者として他の州からアイオワ州を訪問し、アイオワ州経済に2億ドル以上を加えている。

観光客の呼び物は、Harbert Hoover（第31代大統領）の生誕地、West Branchの近くの図書館、5月にPellaとOrange両市のチュールリップ祭り、8月にDes Moinesにおけるアイオワ州見本市、若干のカウ・ボーイの演技公開等である。88の州立公園とリクリエーション地区とがある。Marquette（マーケット）にあるEffigy（エフィジー）丘の国立墓地は、有史以前のインディアンの埋葬地である。

荷主は、Kansas City, St. Louis, Omaha及びChicago市場に、家畜を供給している。アイオワ州は州の負債もなく、州の財産税もない。Des Moines（デモイン）は、最大の都市で、人口208,982人（1960年調査）である。

教育施設

アイオワ州の高等教育施設としては、27の大学、21の短期大学、2つの州立大学、1つの州立単科大学がある。有名な大学は、アイオワ市のアイオワ大学、アメスのアイオワ州立大学、シダー・フォールズのアイオワ州立単科大学、シダー・ラピツドのコー大学、デモインのドレイク大学、グリネルのグリネル単科大学等である。

沿革

Marquette（フランスのカナダ探検家）とGolliet（フランス生

れのミシシッピ河探検家)が、1673年にアイオワ州に達した。
Julien Dubuque (ジュリエン・ダビユーク)は、1788年に現在のダビユークで鉛を採掘する許可をスペインから獲得した。最初のリング園は、1799年に造られた。LewisとClark (アメリカの探検家)は、1804年にアイオワに寄港した。この地はスペインからフランスに譲渡され、1803年に Louisiana Purchase (米国が1803年にフランスから買収した広大な土地で、東西はミシシッピ川からロッキー山脈まで、南北はメキシコ湾からカナダに至る地域)によつてフランスから譲渡を受けた。1812年 Missouri 准州、1834年 Michigan 准州、1836年 Wisconsin 准州、1838年6月12日 Iowa 准州となり、1846年12月28日遂に Iowa 州となった。

デモイン (ズ) Des Moines

Iowa 州の州都、デモイン河畔にある。山梨県甲府市と姉妹都市。
人口 208,982 (1960年) 市支配人、Tom Chenoweth

III ミシガン (MICHIGAN)

知事 ジョージ・ロムニー
Governor George Romney (R)
1965年10月訪日 (夫妻)
副知事 ウィリアム・G. ミリケン (R)
Lieutenant
Willam G. Milliken
Governor
州務長官 ジェイムス・M. ヘアー (D)
Secretary of James M. Hare
State

法務長官 フランク・J. ケリー
Attorney

Frank J.Kelley

General

俗 称 アナグマの州
(Wolverine State)

州 都 Lansing

面 積 150,780Km²
(北海道の2倍よりやや小)
連邦第23位

人 口 8,029,000人 (1962年)
連邦第7位

モットー 心地よき半島を求めるなら、汝の周囲を見回せ
(If You Seek a Pleasant Peninsula,
Look About You)

州 花 りんごの花

州 鳥 駒鳥

州 木 白松 (White Pine)

州 歌 ミシガン、私のミシガン

連邦加入 第26番目

位 置

Michigan 州は、アメリカの北東中央部に位し、ミシガン湖により2分されている。北半島は、Canadaと相対し、北はSuperior湖に接し、南はWisconsin州とミシガン湖に接している。南半島は、西はミシガン湖に接し、ウイスコンシン州とIllinois州に面している。東はErie湖、Huron湖、Ontario湖及びカナダに、南はIndianaとOhio州に接している。ミシガン州は、5大湖のうちの4つに接している。ヒューロン湖とスピアリア湖とをつなぐThe Sault St・Marie

Canals（スー・セント・マリー運河）は、世界一交通量の多い運河である。半島を上下に分割している Mackinac（マキノー）海峡には、長さ 5 マイルのマキー橋がかかっている。

産 業

ミシガン州は、世界屈指の自動車生産州で、また、ミシガン湖畔の豊かな果樹園は、莫大な量の果物を生産し、半島の上部からは、多量の鉄、銅が産出される。その他州の湖や森林は、休暇の保養地として人気を博している。1965 年 7 月 1 月の推定人口は、821 万 8,000 人であった。

ミシガン州は、自動車と自動車部品、穀物、機械工具、金物類、鋼鉄バネ、事務用家具、非鉄金属の鋳物類、工業用ベルト、=ール紙製作機、灰鉄鋳物類（gray iron foundres）の生産では世界第 1 位を占めている。生産に従事する労働者の週平均賃金は、全米第 2 位である。生産増加額は、毎年 130 億ドル以上に達し、そのうち 49 億ドルは、自動車及び自動車艤装品である。紙、化学製品、木材もまた重要産物である。

観光客も多く、観光客による収益も 1965 年に約 9 億 6,000 万ドルに達した。ミシガン州は 3 億 6,000 マイルに及ぶ河川と、1 万 1,000 以上の湖をもち、5 大湖のうちの 4 つに面しているので、最も長い淡水の海岸線をもっている。水上スポーツ、音楽祭、スキー、冬のカーニバル祭、鱒釣り、鹿狩り等が最も人気がある。Superior 湖のロイヤル島は、53 万 9,339 エーカーあつて、雄大な国立公園である。

この他ミシガン州には、5 つの国有林、73 の州立公園及びリクリエーション地区と、多数のカヌー場がある。

農産物の収益は、1965 年に総計 9 億 6,000 万ドルであつた。ミシガン州は、全米の tart cherry（酸味の強いサクランボ）の 69% を産出し、甘いサクランボとスモモは、カリフォルニアに次いで第 2 位、

リンゴとブドウは第3位、梨と桃は第4位である。これら果実の総産出高は、年間85万4,600トンを超える。酪農生産物も上位に位している。1965年1月1日現在62万6,000頭の乳牛を有していた。大部分の乾燥豆はミシガン州で産出され、また、トウモロコシ、小麦、砂糖黍、大豆、バレイショ及びカラス麦も重要産物である。

鉱物の1965年度における全産額は、5億7,192万2,000ドルであつた。鉄鉱石の産額は、1,347万5,000トンで、1億4,400万ドルに達し、第1位を占め、次いでセメントの9,330万ドル、石油の4,205万2,000ドル、銅の5,172万7,000ドル、砂及び砂利の4,700万ドルその他石、塩、マグネシウム、石灰、天然ガス等であつた。

教育施設

約70の高等教育施設があるが主要なものは、イースト・ランシングのミシガン州立大学、アン・アーバーのミシガン大学である。その他デトロイト大学、ウエイン大学、ウエスターン・ミシガン大学、イースターン・ミシガン大学、セントラル・ミシガン大学、ミシガン工科大学等も著名な大学である。

沿 革

ミシガン州は、元来フランス人が開拓したもので、フランス語を語原とする Detroit, Mackinac, Sault Ste. Marie (スー・セント・マリー) 等の多くの名詞がある。フランスは1763年に英国に追放された。1787年の布告により、ミシガン准州は、他の西部諸州の一部を加えた。1805年に単独の准州として創設され、1837年1月26日連邦に加入した。

デトロイト (DETROIT)

地 理

デトロイト川に面し、市全体が頗る平坦である。市街は河畔から半径4～7マイルにわたりひろがり、その外側を郊外の住宅、工場地が5～15マイルにわたりのびている。

人 口

人口は167万144人で、首都圏地域の人口は376万人強であった。(1960年調査) アメリカ第5の大都市。

日系人は約750名で、そのうち戦争花嫁は約150名である。

市の沿革

1701年フランス人探険家、キヤデラックにより開かれた。その後1812年に至るまで英国の支配をうけ、同年合衆国に割譲された。このようにフランス人により開拓されたため、現在でも当時の開拓者の子孫であるフランス系の市民が多く居住している。最近は工場労働者として多くの黒人が市に移住し、総人口の22%を占めているが、市民の大多数は英国系、北欧系の白人である。

主要産業

デトロイトは、世界の自動車の都として知られ、自動車及び自動車部品の製造を重要な産業としている。General Motors, Ford, Chrysler 及び American Motors 等有名な会社の工場が集っている。その他化学薬品、事務用機械、耕作機械等を多く製造している。

デトロイト港の1965年の輸出は、138千ST(米トン)、55,597・8千ドルで、輸入は2,573千ST、145,695・4千

ドルであつた。

首都地域における労働者の全収入は、毎年 112 億ドルと見積られている。

文化施設その他

デトロイト美術館、デトロイト歴史博物館、Greenfield Village & Henry Ford Museum（自動車王ヘンリー・フォードが造つたアメリカの歴史村）Ford Rotunda（フォードの工場。流れ作業による製造工程を公開している）等のほか、市内には 51 の公園と 38 の遊園地があり、特に有名なのは、Belle Isle で、カナダとデトロイト市の間にあり、小さな島全体が公園となつている。（1,000 エーカー）

そ の 他

航空会社は、Allegheny, American, BOAC, Capital, Delta, Eastern, Lake Central 等が航空輸送を行ない鉄道は、New York Central, Chesapeake & Ohio, Baltimore & Ohio, Grand Trunk・Wabash 等 9 つの鉄道がある。旅客船が他の 5 大湖と水上連絡をしている。

IV ワシントン D.C. WASHINGTON D.C.

面積 69 平方マイル

人口 802,178 人（1964 年）

沿革 各州から独立した「連邦政府の街」を造ろうという企画は、連邦憲法の制定に 4 年先立つて 1783 年頃から始められたが、北部諸州対南部諸州の軋轢のために、その所在地の決定に日時を費し、連邦議

会において北部が南部に妥協し、ポトマック河畔の地に首都建設を決定したのは1793年であった。初代大統領ワシントンは、**Pierre C・L'Enfant**（ピエール・ランファン）というフランス人技師に首都設計を命じ、ヴァージニア及びメリーランド両州から領土を分譲させ、1800年第2代大統領ジョン・アダムスが、フィラデルフィアから遷都してワシントンに移り、以来米国連邦政府の首都として現在に至っている。

概 況

ワシントン D・C・は、メリーランド州とヴァージニア州との間にはさまれた合衆国の首府である。**Potomac** 河とその支流 **Anacostia** 河の合流点の北方に主に発達したこの地域は、**District of Columbia**（コロンビア区）と呼ばれる特別行政区である。（註）（アメリカ太平洋岸最北端のワシントン州と混同する人があるが、ワシントン州は、50州の1つであり、ワシントン D・C・は、アメリカ合衆国の首都で、全く異なるものである。）

市街はキャピトルの丘（**Capitol Hill**）を中心に、街路が東西および南北に走ってほぼ碁盤目状に区切られている。樹木の多いことや道路の広いこと、高層建築が少ないことなどが、この歴史的都会に落ち着きを与え、アメリカ全国中で最も清潔な都市の一つになっている。**Circle** や **Square** と呼ばれる広場の多いのも市の特色である。市内は **Capitol** で直交する街路によつて、それぞれ北東、北西、南東、南西の4区に分けられている。

行政形態

3人委員会（2人は大統領が D・C・居住者より任命し、1人は陸軍が **Corps of Engineers** 中より任命する）が、D・C・の行政を管

轄している。過去においては D・C・住民は、選挙権をもっていなかったが、1961年連邦憲法修正案第 23 項が承認されるに及んで、D・C・居住者も、現居所において大統領及び副大統領の選挙投票権が与えられるようになり、1964 年の大統領選挙に際し、始めて大統領及び副大統領選挙権を行使した。

著名建築物、公共施設等

国会議事堂 (The Capitol)

議事堂の建築には、2,400 万ドルを要した。建物の面積は、凡そ 4 エーカーで、南北の長さ 751 フィート 4 インチ、巾 350 フィート、高さは自由の像の頂上まで 287 フィート 5.2 インチである。自由の像は、高さ 19.5 フィート、重さ 14,985 ポンドで、青銅で出来ている。

冥想の部屋 (Room for Meditation)

冥想とお祈りのための部屋である。白いカシの祭壇に、開いた聖書と燭台が置かれ、10 の座席と 2 つの長椅子がある。ステインド・グラスには、祈禱をしているワシントンが描かれている。総選挙後の 1 月 20 日に、大統領と副大統領の就任式が行なわれる。

国立彫像室 (National Statuary Hall)

彫像室は、1864 年に創設され、それ以前の下院の室が利用された。最初各州は、全国的記念に値する 2 つ以下の彫像を献納するようにと要請された。1933 年に 1 州 1 基の彫像に改められ、現在 86 の彫像が 47 州から献納されている。床上の枠（わく）は、1848 年 2 月 21 日 John Quincy Adams の倒れた位置を示している。

議員用ビル

国会議員用のビルは、キャピトルの丘の4つのビルで、選挙民と会ったり、その他の事務を行なったりする。2つは上院用で、2つは下院用である。

始めの上院用のビルは、1909年に竣工し、1933年に増築された。第2上院用ビルは、1958年に完成した。これら2つのビルと議事堂は、地下輸送路が連結している。

下院議員のビルには、元議長の名がつけられている。最初のビルは、ジョセフ・G・キヤノン（1903～1911議長）の名が冠せられ、第2のビルには、ニコラス・ロングワース（1925～1931議長）の名が、第3のビルには、サム・レイバーン（1940～1946, 1948～1952, 1954～1961議長）の名が冠せられた。

1964年1月23日 Johnson 大統領は、国立文化センターという名称を、John F・Kennedy と改名した。

ホワイト・ハウス (米国大統領官邸) (The White House)

大統領官邸白聖館は、財務省ビルと大統領府ビルとの間のペンシルバニア大通りの南側の、樹木に蓋われた地（18エーカー）にある。本館は170フィート×85フィート、6階建てである。

ホワイト・ハウスは、500ドルの懸賞で、アイルランド生れ建築家 James Hoban の設計になるものである。

アーリントン国立墓地 Arlington National Cemetery

アーリントン国立墓地には、無名戦士の墓と、John F・Kennedy の墓がある。ケネディー大統領は、1963年11月25日にここに葬

られた。

アーリントン墓地は、陸軍省の管理下にあり、1864年に設立された。

リンカーン記念堂 (Lincoln Memorial)

西ポトマック公園にあつて、大理石の大ホールには、あたかも大安楽椅子に冥想しているかの如く腰掛けている Abraham Lincoln の像がある。この像は 1922 年 5 月 30 日の記念日に献納された。記念堂は、Henry Bacon の設計にかかり、像は Danial Chester French が製作した。

記念堂は、コロラド=ユール白大理石で作られ、高さ 79.10 フィートあり、巾 80.3 フィートの石段の上部にある。リンカーンの座像の高さは 19 フィート、古典的な椅子の高さは 12.5 フィートである。

国防総省 (The pentagon)

世界最大の事務所の建築物である。ポトマック河のバージニア側にあり、敷地面積は、34 エーカーである。このビルには、陸、海、空軍省を包括する国防省、参謀本部等がある。

1943 年 1 月 15 日竣工、約 8,300 万ドルを要した。芝生とテラスの面積は、204 エーカーである。廊下の全長は $17\frac{1}{2}$ マイルである。

ここに働く人は 26,000 人で、自動車駐車場 67 エーカー、10,000 台が駐車可能である。銀行、ドラッグ・ストア、診療所、歯科医、切符買場等が含まれている。4,200 個の時計、685 の噴水、1,900 のトイレ、280 の休息所、672 のホース室等がある。1 日平均 30,000 コツプのコーヒー、3,500 クオート（1 クオートは約 1.14 リットル）のミルク及びミルク製品、3,200 クオートのソフト・ドリンク（アルコールを含まない飲物）を消費する。

ワシントン国立記念碑 Washington National Monument

ワシントン国立記念碑は、白大理石の方尖塔（obelisk）で、高さ $555.5\frac{1}{8}$ フイート、基底の広さは 55.15 平方フイートである。500 フイートのところに、一辺に 2 つずつ、8 つの小窓がある。1848 年 7 月 4 日礎石が置かれた。

国会図書館 (Library Congress)

国会図書館は、キャピトル・ヒルの 2 つの建物を占有している。1 つは 1897 年に建てられた豪華な花崗岩のイタリー・ルネッサンス建築で、他の 1 つは 1939 年建立、ジョージア産の白大理石の近代的付属建物である。1,300 万部の書物及び雑誌を保管し、年間 20 万冊の書物を買足している。

トーマス・ジェファソン記念堂

Thomas Jefferson Memorial

西ポトマック公園の係船池の南岸に建っている。この堂は円形の石造りで、外部はヴァーモント大理石、内部はジョージア白大理石で出来ている。中央の円形の部屋（直径 86.3 フイート）には、アメリカの彫刻家 Rudolph Evans 作の Thomas Jefferson （高さ 19 フイート）の像が立っている。この記念塔は、Jefferson 降誕 200 年祭に、1943 年 4 月 13 日、F・D・ルーズベルト大統領が献納した。

リンカーン博物館 Lincoln Museum

1865 年 4 月 14 日と 15 日、Abraham Lincoln の狙撃と死亡に関係のある 2 つの家が公共財産になっており、毎年数万の人々が訪問している。1 つの家は、1833 年に教会として建築され、1861

年に劇場に改築された。暗殺後（暗殺者 John Wikes Booth）政府は、この家を 10 万ドルで事務所として買収した。1893 年 6 月内部が崩壊して 22 名死亡、68 名負傷した。1932 年 Lincoln 博物館に変更した。

街路を横切つて William Peterson の小さな赤煉瓦造りの家があるが、ここで Lincoln は死亡した。この家は国有になった。

国立科学アカデミー National Academy of Sciences

科学の発展と国民の福祉のため、科学の使用に献身した科学者や技術者の私立団体である。現在 675 名の会員を有し、これら会員は、研究上の業績によつて選ばれる。

国立記録保管所 National Archives

独立宣言、合衆国憲法及び権利章典（Bill of Rights）が、国立記録保管所の展示室に秘蔵されている。これらは変化を起さないヘリウム・ガスの充満したガラスと青銅のケースの中に密閉されている。これらはちよつと指示を与えれば、振動防止、火災予防の金庫に納めることができる。

国立美術館 National Gallery of Art

1937 年 3 月 24 日建立。1962 年度の参観者は 123 万 6,155 人であつた。建物は故 Andrew W・Mellon の拠出金で建設され、1,500 万ドルを要した。バラ色と白色のテネシー大理石で出来ており、延長 785 フィートである。中央の円屋根のある円形の建物（rotunda）は、24 本の暗緑色の大理石の柱に支えられ、高さ 100 フィートである。

Mellon 氏は加うるに、彼のコレクションである絵画 126 点、彫刻 26 点を寄贈した。そのうちには、Raphael の Alba Madonna, St. George 及び龍、Van Eyck, 受胎告知 (annunciation) 等が含まれている。

米国国立博物館 Smithsonian Institution

この博物館は、世界の歴史的、科学的大施設である。多くの分科を有し、1964 年には、1,400 万人以上の人々が此処を訪問した。1846 年に英人 James Smithson の遺言により、彼の財産の国への遺贈によつて設立された。

花 見 時 (Cherry Blossom Time)

有名な桜の木は、西ポトマック公園の湖泊渠 (Tidal Basin) を取り囲み、東ポトマック公園の路傍に添つて 2 マイルにわたっている。1912 年に東京市長からワシントン市長に贈られたことに始まる。最初の 3,000 本は、東京の荒川堤のさくらからふやしたものである。最初の桜は、1912 年 5 月 27 日大統領夫人 William Howard Taft と日本大使 Chinda 夫人によつて植樹された。今日 Tidal Basin 周辺の桜は白色、その他は桃色、東ポトマック公園の桜は、真紅色である。桜花は普通 4 月の始めの週に満開となる。National Park Service の The National Capital Parks が管理している。

V ニュー・イングランド地方 NEW ENGLAND

概 要

New England は、アメリカ北東部の地方で、このうちには Massachusetts, Rhode Island, Vermont (以上 3 州は、本年 5 月日本知事団が訪問した) Connecticut, New Hampshire, Maine の 6 州が含まれている。この 6 州は、次の沿革で述べるように一地方と考えられているので、最初に一括して紹介し、次いで個々の訪問州について紹介することとする。

住 民

ニュー・イングランド諸州の住民は、英国系が多く、19 世紀に入ってから、アイルランド、ドイツ、スカンディナヴィア、イタリー、フランスその他ヨーロッパ人種が移住したが、その数は古い英国系住民に比べて少数である。英国系住民の中でも、メイフラワー号その他の初期の船で移住した者の子孫は、「blue blood」と呼ばれ、ニュー・イングランド地方のみならず、米国における一種の貴族的な存在として知られている。メイン州及びヴァーモント州には、フランス系カナダ人の子孫が相当多数居住している。

沿 革

メイン州からコネクティカット州に亘る 6 州は、歴史、住民の人種的構成、文化、産業、政治等の面で互に類似している。米国内最も「同質的」(homogeneous) な地方であり、通常ニュー・イングランド地方として一括して考えられている。

1620 年、メイフラワー号により、現在のマサチューセッツ州東端の Plymouth に上陸したニュー・イングランド最初の英国移民団は、大自然やインディアンと闘いながら各地に植民地を開拓したが、コネクテ

イカット・ヴァレー以外には肥沃な平野を有しないこの地方では、植民第一期は、小規模な農業経済の域を脱し得なかつた。しかしニュー・イングランド地方への移民の多くが、技術を身につけた職人であつたこと、海岸線が屈曲に富んでおり、早くから沿岸貿易を営み得たこと等の理由により、すでに18世紀の初期には、ニュー・イングランド地方は、アメリカ植民地の商工業の中心となるに至つた。

ヴァージニアを中心とする広大な平野をもつ南部の植民地が、大規模な農業経営を主とし、奴隷労働の上にたつた一種の貴族社会を形成していたのに対し、ニュー・イングランド地方の植民地は、(1)地勢的にも他の地方から隔離していたこと、(2)移民の殆んどが当時のヨーロッパ社会の小市民であつたこと、(3)更に、移民後自給自足の農業経済より発展して、商工業的發展を遂げるに至つたこと等の理由から、独立精神に富んだ移民が多く、また、個人を中心としていわゆる民主主義的社会を形成するに至つた。一方人口も18世紀後半には300万を越え、余剰農産物を本国(英国)に移出し得るようになった。(当時の英国はまだ農業国であつたため、米移民のこの種發展は、英国の農民にとって大きな脅威であつた。)總体的にみて米植民地が、経済的に英本国に依存する必要を認めなくなるに及んで、ニュー・イングランドは、英国にとって取扱い難い植民地となり、Sugar Act はじめ一連の対植民地条例に端を発した本国との軋轢が、ボストン市におけるTea Party事件(1773年)等を経て、遂に爆發し、この地方は獨立戦争(1775年~1783年)において、最も重要な役割を演じた。

この戦時中ニュー・イングランド地方は、その閉鎖的地勢の故に殆んど戦火を免れ、経済的打撃も少なかつたため、米国獨立後は、米国沿岸貿易を殆んど独占し、捕鯨、中国貿易等の遠洋航海に乗り出し、一方殆んど総ての船舶を建造する等、益々商工業の發達を遂げた。

19世紀の後半に入ると米国内産業革命、鉄道の發達等によつて、も

はや独りニュー・イングランド地方のみが米国商工業の中心地ではなくなり、米国商工業は、鉄、石炭等の重工業原料を多量にもつ地方及び、交通の要地へ移転して行つた。今世紀に入るに及んでニュー・イングランド地方は、小規模の軽工業（靴、綿製品等）漁業、コネクティカット州ハートフォート市を中心とする保険業及び、夏冬の旅行者を対象とするレクリエーション施設等の外は、見るべき商工業の発展のない地方となるに至つた。この一例として 1905 年の Cotton Spindles の数は、1,400 万であつたのに対し、1938 年には、400 万に減少している事実を挙げる事ができる。

以上のニュー・イングランド地方の商工業の盛衰とは別に、この地方が 19 世紀に、Emerson, William James 等の哲学者や、Hawthorne, Longfellow, Lowell, Thitter 等の小説家を出したことや、ハーヴァード大学、エール大学を筆頭に、多数の優秀な大学をもっていること等により、今なお米国文化の中心地とされている。

地勢及び気候

ニュー・イングランド地方は、米国東岸を北東から西南に従走する Appalachian Highlands と呼ばれる山脈と大西洋とによつて、その東西を囲まれた細長い地方で、その南北には深い森林があり、従つて米国の他とは、自然的に隔離される形にある。（この事実がこの地方における独立精神の強化に役立つといわれる。）山脈が海岸線に迫っているため平野は少なく、コネクティカット・ヴァレイのみが肥沃な平野として数えられるに過ぎないが、一方、海岸線が屈曲に富むので良港が多い。

ニュー・イングランド地方の緯度は高く、最北端は北緯 47.5 度（北海道の北端は北緯約 46 度）であり、コネクティカット州のニュー・ヘーヴン市（エール大学の所在地）は青森市に、マサチューセッツ州のボ

ストーン市（近くにハーヴァード大学がある）は、札幌市にそれぞれ相当する緯度にあるが、東海岸を洗う暖流のため、気候は前記日本の諸地方に比べてやや温暖である。しかし冬季には摂氏零下 43 度に下る所もあり、一般に降雪量も多い。

(1) ロード・アイランド

RHODE ISLAND

知 事 ジョン・H. シヤフィー (R)

Governor John H. Chafee

1965 年 10 月来日

副知事 ジョセフ・H. オドネル 2 世

Lieutenant

Joseph H. O' Donnell, Jr. (R)

Governor

州務長官 オーガスト・P. ラ・フランス

State

August P. La France (D)

General

法務長官 ハーヴァート・F. ドシモーヌ

Attorney

Herbert F. De Simone (R)

General

俗 称 Little Rhody (米国で最小の州であるため)

首 都 Providence

面 積 3,140Km² (鳥取よりやや小) 第 50 番目 (最小)

人 口 859,488 人 (1960 年) 第 39 番目

モットー 希望 (Hope)

州 花 すみれ

州 鳥 Rhode Island Red (アメリカ産鶏の一品種)

州 木 モミジ

州 歌 Rhode Island

13 原州の 13 番目

位 置

6つのニュー・イングランド州の1つであるロード・アイランドは、全米中最小の州で、長さ48マイル、幅37マイルである。北と東はMassachusetts州に、西はConnencticut州に、南は大西洋に接している。国の測量によると、州の総面積は1,214平方マイルとなっており、州の測量によると、1,487平方マイルとなっているが、これは、後者が350平方マイルの海岸水域とNarragansett湾を包含しているからである。

人口密度

小さなロード・アイランドは、人口稠密で、高度に工業化されている。この州の1平方マイルの人口密度は（1960年調査）869.6人で、891.6人のニュー・ジャーシー州に次いで第2番目である。

産 業

産業は、毎年10億ドル以上の増加を示しており、このうちの約17%は、織物業によるものである。織物工場は、Samuel Slater（英国生まれの実業家）の1790年代の紡績の時代から1940年頃まで、他のすべてのロード・アイランドの産業を合計したよりも、多くの職工を雇っていた。近年紡績工場の被使用人は、著るしく減少したが、その他の部面の仕事は増加している。ロード・アイランドはまた、宝石細工と銀製品の製造において、新しい分野を開拓した。しかしながらこれらの産額は未だ織物に及ばず、これらに次ぐものは、金属、機械、ゴム、プラスチック等である。

労働力の僅か1%が農耕に費され、1965年の農業収益は、合計2,147万2,000ドルであつた。酪農と家禽（特にロード・アイランド・レッドといわれる鶏の一種）は、最も重要な部門であり、ジャガイ

モ、リンゴは主要な農作物である。魚と貝の魚獲は、毎年 364 万ドルを越えている。

砂と砂利、花崗岩及び石灰石の産額は、1965 年度約 262 万 4,000 ドルで、3%のアップであった。

主要産業： 鉱業（花崗岩）

工業（繊維、宝石、銀製品等）

農業（酪農品等）

対日輸出品 機械、化学製品等

教育施設等

Brown 大学（1764 年）と 3 つの短期大学を含め、11 の大学がある。Newport には、海軍大学と大西洋巡洋艦、駆逐艦隊本部がある。Quonset Point（クオンセツト・ポイント）には、主要な海軍航空基地がある。観光事業では、毎年約 3,500 万ドルの収益を挙げている。

沿革その他

個人の権利を求める戦は、1764 年、英国人の船員徴用に対する抵抗と、1772 年、徴税船 Gaspee 号の焼討ちによつて、不正な課税に対する抵抗をもたらした。ロード・アイランドは、1776 年 5 月 4 日英国皇帝に対する忠誠を放棄し、独立宣言を早めた。1790 年 5 月 29 日、憲法を批准し、13 原州の第 13 番目の州となった。ロード・アイランドは、19 世紀にアルコール飲料を禁止し、1889 年再度禁止、第 18 回目の修正の批准を拒否した。

Providence（ロード・アイランド首都で海港、人口、20 万 7,498 人、（1960））は、主要な生産と教育の中心地で、毎年 900 万トン以上の船荷を取扱う港である。

Newport は、19 世紀の中頃、金持ちがはでな邸宅を建築し、夏の

社交都市として有名になった。Easton の浜と Bailey の浜は、有名な避暑地で、Ocean Drive と Bellevue 大通りは、旅行者の訪問地になっている。Touro Synagogue (1763 年) は、アメリカ最古の、そして国家的史蹟である。催物としては、競馬、音楽祭、水上競技等がある。73 エーカーに及ぶ下町の再開発計画が、1966 年に行なわれていた。

(2) ヴァーモント

VERMONT

知 事 フイリツプ. H. ホフ
(1965 年 10 月来日)

Governor Philip H. Hoff (D)

副 知 事 ジョン. J. デイリー

Lieutenant John J. Daley (D)

Governor

州務長官 ハリー. クーリー

Secretary

Harry Cooley

of State

法務長官 ジェームス. L. オークス

Attorney

James L. Oakes (R)

General

俗 称 緑の山の州 Green Mountain State

州 都 Montpelier (モントペーリヤー)

面 積 24,887Km² (新潟県の約倍)

人 口 389,881 人 (1960 年) 第 47 番目

モットー Freedom and Unity 自由と統一

州 花 Red Clover

州 木 Sugar Maple (サトウ カエデ)

州 鳥 Mermit Thrush 北米産ツグミの一種

概 況

ヴァーモント州は、6つのニュー・イングランド州のうちの1つで、13原洲に次いで第1番に連邦に加入した。北はカナダの Quebec 地方に、東は New Hampshire に、南は Massachusetts に、西は New York に接している。東の境界線は、200マイルにわたりコネクテイクット河に添って走っている。西には、長さ120マイルの Champhire 湖が南北に横たわっている。

主な地勢は、Green 山脈が州の北から南の下の方まで走り、4,393フィートの Mansfield 山は、そのうちの最高峯である。6つの山は4,000フィートを越え、21の山は、3,500フィート以上あり、そのうち Killington 山は、4,241フィート、Ellen 山は、4,135フィート、Camels' Hump (ラクダのコブ) は、4,083フィートである。

ヴァーモントは、霜から霜の間が110日ないし160日で、夏の気候は涼しい。The Long Trail は、ハイクとキャンプで有名である。州有林と森林公園は広漠としている。Green Mountain 国有林は、ほぼ58万エーカーある。(1エーカーは約4反24歩) 木材の伐採は監督され、獲物の避難所は、保護されている。Muskrat (ジャコウネズミ) Skunk (イタチ)、raccoon、(アライグマ) 狐、ミンク等は毛皮を提供する。川ではマス、ナマズ、スズキ、サケ等がとれる。

Stowe, Killington, Snow 山、Stratton, Mansfield 州有林等、多くのスキー場がある。これらは100マイル以上に及びスキー道(trail) や椅子付リフトの設備をもっていて、冬と夏に開かれる。

産 物

ヴァーモントは、大理石、花崗岩、滑石、石綿等の産出では国内屈指であり、その他石板、雲母、緑泥石、鉄、銅、マンガン、亜炭、石炭及び粘土を産する。

び酪農が盛んで、毎年 20 億リットルの牛乳を生産し、全農業収益の 80 パーセントを占めている。1964 年に、牛は 41 万頭であつた。七面鳥も多く飼育されている。林檎は果実の第 1 位を占め、トウモロコシ、ジャガイモ、マグサ等多く産する。ヴァーモントは、Maple syrup (カエデ・シロップ) を多量に生産し、年産額は 45 万ガロン以上に達する。Franklin 郡と Orleans 郡が、主要な生産中心地である。主な産業は、電気機械以外の機械、石、粘土製品、木材、家具及び紙等の木製品である。

沿 革

この地は、1609 年に Samuel de Champlain が訪問、1724 年、Battleboro 近くの Fort Dummer に、最初の永久居住者が定着した。

1770 年～71 年、Ethan Allen が組織した The Green Mountain Boys は、(Green Mountain は、Vermont の俗称で、ヴァーモント少年団の意) 1775 年 5 月 10 日、83 名をもって Ticonderoga トリデを奪取した。Crown point は、5 月 12 日に陥落し、この 2 つのトリデは、ボストン包囲攻撃のため、150 門の大砲を明け渡した。少年たちは、Bennigton と Saratoga で戦つて殊勲をたてた。

1777 年、植民地の人々は、独立を宣言し、憲法を採択、最初に財産によつて資格を与えることのない、普通成年男子選挙権を与え、知事を選挙した。住民は、Philadelphia の Dr. Thomas Young の提案により、Verd-mont (Green mountain) から、Vermont という名前を選んだ。ヴァーモントは、1791 年にアメリカ憲法を批准し、1791 年 3 月 4 日に連邦に加入した。ヴァーモント州の人々は、熱心な奴隷制度反対者で、同州人 Stephen Douglas を通じ、Lincoln を支持した。

教育施設と運輸

Vermont は、Burlington の Vermont 大学、Middlebury 大学、Norwich 大学等 14 の高等教育施設を有している。

Vermont には、Central Vermont, Rutland, Boston 及び Main, Canadian Pacific, Delaware & Hudson, Main Central and Canadian National 等の鉄道が通じている。航空会社には、Mohawk 及び Northeast がある。

(3) マサチューセッツ

MASSACHUSETTS

知 事 ジョン・A. ヴォルプ

Governor John A. Volpe (R)

副 知 事 フランシス・W. サージヤント

Lieutenant

Francis W. Sargent (R)

Governor

州務長官 ケビン・H. ホワイト

Secretary of

Kevin H. white (D)

the Commonwealth

法務長官 ダグラス・M. ヘツド

Attorney

Douglas M. Head (R)

General

俗 称 Bay State, Old Colony.

州 都 Boston

面 積 21,386Km² (秋田県の 2 倍より小)

人 口 5,149,834 人 (1960 年) 第 9 位

モットー By the Soward We Seek Peace, but Peace

Only Under Liberty.

人は劔による平和を求めるが、平和は自由の下にのみ存する。

州	花	Mayflower (アメリカイワナシ)
州	鳥	Chickadee (シジューカラの類)
州	木	American Elm (アメリカ・ニレ)
州	歌	非公式 Massachusetts
連邦加入		13 原州の 6 番目

位 置

Massachusetts は、New England 6 州のうちの一つで、東は大西洋、北は Vermont と New Hampshire、南は大西洋と Rhode Island と Connecticut、西は New York に接している。

沿 革

1498 年に John Cabot (イタリー航海家) と Sebastian Cabot (その子) の 2 人は、この海岸に添って航海した。Bartholomew Gosnold は、1602 年に、現在の New Bedford の近くに、最初に上陸した。John Smith は、1614 年に最初の地図を作成した。Mayflower 号の清教徒は、1620 年に Plymouth に上陸した。Massachusetts 湾の植民地と Boston は、1630 年に創立された。独立戦争は、Lexington と Concord で 1775 年 4 月 19 日に始められた。Bunker Hill の戦いは、6 月 17 日に行なわれた。ワシントンは 1776 年 7 月 13 日、Cambridge で指揮をとった。

教育施設

Massachusetts 州は、無月謝の学校と 1649 年 Dedham の最初の学校のため、最初の課税が行なわれたが、1840 年まで何ら統一的制度はなかつた。大学の核心ともいべき Harvard 大学は、1639 年に開設され、教育上の指導者になってきた。その他著名な大学は、Amherst,

Andover 工芸、Boston 単科大学、Boston 総合大学、Brandeis, Clark, Hebrew 教育、Holy Cross, Lowell 工芸、マサチューセッツ工芸大学、Mt. Holyoke, Northeastern, Radcliffe, Simmons, Smith, Tufts, Univ. of Mass. (マサチューセッツ大学) Wellesley, Williams 及び Worcester Polytechnic 等の大学である。

産 業

Gloucester のスクーター船は、Grand Banks の漁場でタラ漁をした。彼等は現在ディーゼル機械のトロール船を使い、そしてグロスター市は、州中陸揚げ量では主要な港である。Marblehead は、有名なヨット・センターである。今日 Quincy は、アメリカ海軍のため原子力船を建造している。

Massachusetts は、州民のため靴、織物、道具等製造の開拓者であった。The Bay State (マサチューセッツの俗称) は、靴の製産では全米第一である。Haverhill, Boston, Brockton, Lawrence, Lowell 及び Lynn は、靴製産の中心地である。Francis Cabot Lowell は、動力織機を 1822 年に完成し、Lowell でアメリカにおける綿布製造を始めた。製紙も重要な産業で、Fitchburg, Holyoke, Dalton, Pittsfield, Springfield, Framingham, Boston にそれぞれ工場がある。

Massachusetts の Rowe にあるヤンキー原子力発電会社は、10 の公益事業から成り、1960 年 11 月、発電所を開設し、1964 年には 30 億 KWH (キロワット時) 以上に達した。

農産物は、生産額順に記述すると、酪農、家禽、温室産物、野菜、果実、たばこ、ツルコケモモ等である。

娯楽演芸

Cape Cod には夏の劇場があり競技会が開かれ、Provincetown には、芸術家のコロニーがある。Berkshires の Tanglewood では、ボストン・シンフォニー・オーケストラの夏季音楽会が開催される。Jacobs' Pillow は、バレエの中心地である。

運輸航空

Massachusetts は、広汎な鉄道、ハイウエー、航空及び港の施設をもっている。マサチューセッツの有料道路は、ニューヨーク高速道路に通じている。25 の公立空港と 27 の私設商業空港、6 つの水上飛行機基地、103 の私設飛行場をもっている。103 のうち 33 は、ヘリ・ポートで、10 は水上飛行機の基地である。1964 年 1 月 1 日現在、39,500 機が、18,000 の会社によつて操縦されていた。

ボ ス ト ン B O S T O N

Boston は、史蹟に富み、その名は英国 Lincolnshire の Boston の名をとつて名付けられ、New England の偉大な商業的、財政的、文化的及びサービスと卸売のセンターである。人口 697,197 人（1960 年）であるが、近くの Cambridge, Lynn, Somerville 等 76 の市や町の人口を合わせると、その人口は 2,589,301 人に達し、Boston はこの首都圏の中心をなしている。Boston は、New York, Chicago, Philadelphia に次いで第 4 番目に大きな卸売市場をもち、全 New England の生産物の半以上を取扱っている。アメリカ最大の羊毛市場をもち、アメリカの 3 大ゴム製造センターの一つである。Boston は器機、機械、電気装置、輸送装備等を製造し、羊毛、ウーステット生地、靴、家具及び海産食品の主要な配給者

である。

Boston は重要な金融センターである。首都地域には 34 の大学があり、科学部門と工学部門から毎年 8,900 人の卒業生を出している。この地の多くの図書館は、9 百万冊の書物を所有している。

Logan 国際空港は、総額 64 万ドルの費用をかけて Boston 港を浚渫して造った土地に造られたものである。1962 年～1963 年の 1 年間毎週国内線 2,182 便、国際線 148 便を有していた。航空会社は、Alitalia, Allegheny, American, BOAC, Eastern, Irish, Mohawk, National, Northeast, Pan American, Provincetown-Boston, Trans-Canada, TWA 及び United 等である。主な鉄道は 3 本である。

E X P O 6 7

1 9 6 7 年 万 国 博 覧 会

1967年、カナダの100回目の誕生日＝カナダ連邦の百年祭＝を祝つて、展示会、芸術祭、各種のショーや特別行事が、カナダ全国でくりひろげられ、「カナダの休日」の面白さをいやがうえにもかきたてます。しかも6か月間にわたって、モントリオールでは万国博覧会が催され、世界中の人々の注目がカナダに集まるのです。カナダの83の都市をまわる2つの連邦列車と670の地域を訪れる8つの移動キヤラバンが、カナダの歴史を劇的に描き出し、世界で最もすぐれた演劇、オペラ、音楽、バレエがカナダ全国をくまなく巡業してまわります。また40の地域では、カナダ陸軍のタトゥーが華やかな軍の歴史をくりひろげます。ロツキー山脈からモントリオールまでの約5,633Kmにわたる昔の開拓者ルートでは、百年祭カヌーレースが開催されます。

カナダの学生や一般の人々も、海外からのお客様と同じように、この広大な国のあちこちを訪れ、休日を楽しみます。1967年にカナダを訪れる人は、どこえいつてもこの大規模なパーティ、パーティのお祭り気分巻き込まれるでしょう。

EXPO67

モントリオールにおけるEXPO67＝1967年万国博覧会＝は「人間とその社会」というテーマにもとづいて開催されます。70カ国以上の国々が、モントリオールの近くを流れるセント・ローレンス川に浮ぶ美しい島々に特設館をつくり、「人間探究者」「人間生産者」「人間創造者」「人間とその社会」などのサブ・テーマのもとに、想像力に富んだ興味深い展示をすることになっています。そして世界芸術祭、カナダ陸軍のタトゥー、多彩なページェントなどがくりひろげられ、国際シヨピング・センターや、大規模

な遊園地、ヨットや小型船、水上競技の行なわれる港の施設などが設置されます。1967年4月28日から10月27日まで開催されるEXPO67をぜひご覧ください。私達の時代の最もすばらしいモニュメント=EXPO67は、きっとみなさまの一生の思い出となるでしょう。

(カナダ政府観光局発行
パンフレットから)

便宜供与を受けた人々の氏名リスト

便宜供与を受けた人々の氏名リスト
LIST OF NAMES AND ADDRESSES OF
PEOPLE WHO EXTENDED
CONVENIENCES TO THE JAPANESE
DELEGATION

アメリカ知事会及び国務省職員
OFFICIALS OF U. S. GOVERNORS'
CONFERENCE AND THE STATE
DEPARTMENT

Brevard Carihfield (事務局長)
Secretary-Treasurer
National Governors' Conference
1313 East 60th Street, Chicago, Illinois 60637
U. S. A.

Miss Lois Murphy (秘書)
Secretary to Mr. Carihfield
c/o National Governors' Conference

Yukio Kwawmoto (国務省)
Japan Program Officer
Office of East Asian & Pacific Programs
Bureau of Educational & Cultural Affairs
Department of State (Du-6898), U.S.A.

Sadahiko Tamura (通訳)
7 Surrey Lane
Conyngham Pa. 18219, U.S.A.

Manabu Fukuda (通訳)
2107 Fordham St.
Hyattsville, Maryland, 20787, U.S.A.

Gene T. Minogue (トラベル・コンサルタント)
c/o National Governors' Conference
1313 East 60th Street
Chicago, Illinois 60637, U.S.A.

外務省在アメリカ公館
OVERSEAS OFFICES OF THE FOREIGN
AFFAIRS MINISTRY OF JAPAN

Yoshio Yamamoto 山本良雄
Consul General
Consulate-General of Japan
1742 Nuuanu Avenue
Honolulu, Wawaii 96817, U.S.A.

Hachiro Natsume 夏目八郎
Consul
Consulate-General of Japan
1742 Nuuanu Avenue
Honolulu, Hawaii 96817, U.S.A.

Umeo Kagei 影井梅夫
Consul General
Consulate-General of Japan
No. 520 North Michigan Avenue
Chicago, Illinois 60611, U.S.A.

Ryuji Takeuchi 武内龍次
Ambassador Extraordinary and Plenipotentiary
of Japan
Embassy of Japan
2520 Massachusetts Avenue
N.W. Washington D.C. 20008, U.S.A.

Ryozo Sunobe 須之部量三
Envoy Extraordinary and Minister
Plenipotentiary of Japan
Embassy of Japan
2520 Massachusetts Avenue
NW. Washington D.C. 20008, U.S.A.

Kunihiko Uchimarui 内丸邦彦
Councillor
Embassy of Japan
2520 Massachusetts Avenue
N. W. Washington D.C. 20008, U.S.A.

Yoshitsugu Kamei 亀井義次
Consul General
Consulate-General of Japan
Suite 2505, 1155 Dorchester

Boulevard West
Montreal 2,P.Q., Canada

Akio Okada 岡田昭男
Vice Consul
Consulate-General of Japan
Suite 2505, 1155 Dorchester
Boulevard West
Montreal 2,P.Q.,Canada

Russell S. Codman, Jr.
Honorary Consul General of Japan
50 Congress Street
Boston, Massachusetts,U.S.A.

Yasuhiko Nara 奈良靖彦
Consul General
Consulate-General of Japan
235 East 42nd Street New York
N.Y.,10017, U.S.A.

Takaji Kato 加藤隆司
Consul
Consulate-General of Japan
235 East 42nd Street New York
N.Y., 10017,U.S.A.

Hiroshi Ohi 大井浩
Consul
Consulate-General of Japan
235 East 42nd Street New York
N.Y., 10017,U.S.A.

Tatsujiro Ohashi 大崎辰次郎
Vice Consul
Consulate General of Japan
235 East 42nd Street New York
N.Y.,10017,U.S.A.

Seiichi Shima 島静一
Consul General
Consulate-General of Japan
The International Bldg 706
601 California Street
San Francisco, U.S.A.

Kenji Iwasaki 岩崎 健 彌
Consul
Consulate-General of Japan
The International Bldg 706
601 California Street
San Francisco,U.S.A.

Masahiro Sasaki 佐々木 正 浩
Consul
Consul Consulate-General of Japan
The International Bldg 706
601 California Street
San Francisco,U.S.A.

ワシントン・アメリカ政府高官
WASHINGTON D.C.,AMERICAN
GOVERNMENT OFFICIALS

Dean Rusk
Secretary of state
Department of State
Washington D.C.,U.S.A.

Farris Bryant
Director, Office of Emergency Planning
The White House
Washington D.C.,U.S.A.

J.Caleb Boggs
Senator
The United States Senate
Washington D.C.,U.S.A.

Clifford P.Hansen
Senator
The United States Senate
Washington D.C.,U.S.A.

HAWAII

John A. Burns
Governor
Iolani Palace
Honolulu, Hawaii, U.S.A.

Thomas P. Gill
Lieutenant Governor
Iolani Palace Honolulu,
Hawaii, U.S.A.

Koichi Iida
Honorary Adviser
United Japanese Society of Hawaii
1145 Bishop Street
Honolulu, Hawaii 96813, U.S.A.

Motohiro Tanimura
Adviser
United Japanese Society of Hawaii
1145 Bishop Street
Honolulu, Hawaii 96813, U.S.A.

Masayuki Adachi
Executive Vice President
Honolulu Japan Chamber of Commerce
Honolulu, Hawaii, U.S.A.

John I. Nishimoto
President
United Japanese Society of Hawaii
1145 Bishop Street
Honolulu, Hawaii 96813, U.S.A.

Ken Kuwata
Vice President
United Japanese Society of Hawaii
1145 Bishop Street
Honolulu, Hawaii 96813, U.S.A.

Takeo Ishoshima
President & Director
K. Isoshima Co., Ltd.
1180 Fort Street
Honolulu, Hawaii, U.S.A.

Katsuichi Kawamoto
Advisor
The Hawaii Times, Ltd.

943 11th Avenue
Honolulu, Hawaii, U.S.A.

Joseph H. Fukuda
International Manager
Sheraton Hawaii Corporation, Royal Hawaiian
Honolulu, Hawaii, U.S.A.

Dr. Howard P. Jones
Chancellor, East-West Center
University of Hawaii
Honolulu, Hawaii, U.S.A.

I O W A

Harold E. Hughes
Governor
State Capitol
Des Moines, Iowa, U.S.A.

Robert D. Fulton
Lieutenant Governor
State Capitol
Des Moines, Iowa, U.S.A.

Dr. Eber Eldridge
Iowa State University
Ames, Iowa, U.S.A.

Frank Covington
Director, Iowa Office for Planning and Programming
State Capitol
Des Moines, Iowa, U.S.A.

Lee Stoll (農 家)
Bondurant, Iowa, U.S.A.

Edward L. Campbell (アイオワ州庁責任者)
Administrative Assistant to Governor of Hughes
Des Moines, Iowa, U.S.A.

M I C H I G A N

George Romney

Governor
State Capitol
Lansing, Michigan, U.S.A.

William G. Milliken

Lieutenant Governor
State Capitol
Lansing, Michigan, U.S.A.

James M. Hare

Secretary of state
State Capitol
Lansing, Michigan, U.S.A.

Leroy G. Augenstein

State Board of Education
State Capitol
Lansing, Michigan, U.S.A.

General Lester Bork

Economie Club of Detroit
920 Free Press Building
Detroit, Michigan, U.S.A.

Det. Sgt. Fredrick M. Carpenter (警 護)

Michigan State Police Post
Grand River at Seven Mile
Detroit, Michigan, U.S.A.

M. L. Carpenter (ジエネラル・モーター)

General Motors Technical Center
Warren, Michigan, U.S.A.

Stanley Cousineau (フオード工場説明者)

Ford Motor Company
The American Road
Dearborn, Michigan, U.S.A.

Det. Lt. George C. Craft (警護責任者)

Michigan State Police Post
Grand River at Seven Mile
Detroit, Michigan

Bob Dawson

Greenfield Village
Dearborn, Michigan, U.S.A.

Charles B. Devlieg (遊覧船提供)

Fair Street
Royal Oak, Michigan, U.S.A.

Det. Stanley Doubleday (警 護)

Michigan State Police Post
Grand River at Seven Mile
Detroit, Michigan, U.S.A.

John D. Fraser

Director of Community Arts Center
McGregor Memorial
495 West Ferry
Detroit, Michigan, U.S.A.

Robert Haas (ミシガン大学)

Administration Building
University of Michigan
Ann Arbor, Michigan, U.S.A.

Dwight Havens

Greater Detroit Board of Commerce
150 Michigan Avenue
Detroit, Michigan, U.S.A.

Dr. H. W. Hildebrandt

Assistant to the President
Administration Building
University of Michigan
Ann Arbor, Michigan, U.S.A.

Wendell Hulcher (アナーバー市長)

Mayor
City Hall
Ann Arbor, Michigan, U.S.A.

Dr. Herbert T. Iwata (知事団随員医師)

428 Mckerchey Building
Detroit, Michigan, U.S.A.

Bill Keimig

Bood Building-36th Floor
Detroit, Michigan, U.S.A.

John Kinsey
Greater Detroit Board of Commerce
150 Michigan Avenue
Detroit, Michigan, U.S.A.

William L. Kohlman (晩さん会主催)
Detroit Edison Company
2000 Second Avenue
Detroit, Michigan 48226, U.S.A.

George Lahodney
Detroit Edison Company
2000 Secon Avenue
Detroit, Michigan 48226, U.S.A.

Miss Sarah Leudders
Greenfield Village
Dearborn, Michigan, U.S.A.

Bob Lusk
Automobile Manufacturers Assn.
320 New Center Building
Detroit, Michigan 48202, U.S.A.

Dr. James P. McCormick
Vice President of Student Affairs
Wayne State University
Detroit, Michigan, U.S.A.

Carleton McLain
Cranbrood Schools
Bloomfield Hills, Michigan, U.S.A.

Mr. Barvin Neihuss
University of Michigan
Ann Arbor, Michigan, U.S.A.

Mervyn V.(Vic) Pallister (レセプション主催)
Michigan State Chember of Commerce
215 S. Washington Avenue
Lansing, Michigan 48933, U.S.A.

Peter Pekkala
Automobile Manufacturers Assn.
32 New Center Building
Detroit, Michigan 48202, U.S.A.

Chief Charles Quinlan (消防放水歓迎)
Detroit Fire Department
250 W. Larned
Detroit, Michigan, U.S.A.

Bob Sisson
Michigan Bell Telephone Co.
1365 Cass-Room 1331 B
Detroit, Michigan, U.S.A.

George T. Trumbull, Jr. (歓迎責任者)
Administrative Assistant
State Capitol
Office of the Governor
Lansing, Michigan 48903, U.S.A.

Mr. Walter Austin
3422 Edison Ave.
Detroit, Michigan
48206 U.S.A.

VERMONT

Philip H. Hoff
Governor
State House
Montpelier
Vermont, U.S.A.

John J. Daley
Lieutenant Governor
State House
Montpelier, Vermont, U.S.A.

Harry Cooley
Secretary of State
State House
Montpelier, Vermont, U.S.A.

RHODE ISLAND

<u>NAME AND ADDRESS</u>	<u>SERVICE RENDERED</u>
Miss Alice Brayton Cory's Lane Portsmouth, Rhode Island	Entertained at tea and showed governors her topiary gardens.
Mr. James Caulfield Short Line, Inc. 400 Fountain Street Providence, Rhode Island	Drove bus during entire trip.
Mr. George Thomas Cullen General Manager Sheraton-Biltmore Hotel Providence, Rhode Island	Hotel accommodations and other services.
Mr. Andrew Eadie The Squantum Club Veterans Memorial Highway East Providence, Rhode Island	Arranged clambake and other activities at The Squantum Club.
Mr. Charles Eggert Warwick Veterans Memorial High School 2401 West Shore Road Warwick, Rhode Island	Leader of band which provided music at airport upon governors' arrival.
Mr. Henry Evitts 15 Berkeley Avenue Newport, Rhode Island	Arranged luncheon at "The Elms."

Miss Susan Fischer Pembroke Double Quartet Woolley Hall, Meeting Street Providence, Rhode Island	Leader of girls' singing group which entertained at the Squantum Club.
Mrs. Donald T. Gibbs 163 Riverview Avenue Middletown, Rhode Island	Accompanied group during tour of Newport.
Mrs. Robert H. Glanville 1 Mathewson Lane Barrington, Rhode Island	Provided floral arrange- ments for governors' rooms and hotel dining room.
Mr. Charles Goodheart 41 John Street Newport, Rhode Island	Described scenes of Newport during bus tour.
Mr. Archer Harman, Jr. St. George's School Newport, Rhode Island	Headmaster of st. George' s School, visited by governors.
Mr. Henry Heffernan Kidder Peabody & Co.,Inc. 33 Bellevue Avenue Newport, Rhode Island	Accompanied group during tour of Newport
Mr. Richard M. Leger 434 Laurel Lane Warren, Rhode Island	Leader of square dancing group which entertained at the Squantum Club.
Mr. Theodore C. Littler Front Office Manager Sheraton-Biltmore Hotel Providence, Rhode Island	Assisted Mr. Cullen in Providing hotel accommo- dations and other services.
Mrs. Clifford P. Monahon Rhode Island Historical Society 52 Power Street Providence, Rhode Island	Welcomed governors and conducted tour of Rhode Island Historical Society.

Mr. Daniel J. Robbins,
Director
Rhode Island School of
Design Museum of Art
224 Benefit Street
Providence, Rhode Island

Welcomed governors upon
their arrival at the
Museum.

Mr. Anthony Rosati
Aeronautics Division
Theodore Francis Green
Airport
Warwick, Rhode Island

Assisted in arranging
details for welcome of
governors at airport.

The Honorable Dennis F. Shea
Mayor of Newport
City Hall
Newport, Rhode Island

Greeted governors at
“The Breakers” and presented
plaques to them.

Mr. Holbert Smales
31 Ashurst Avenue
Middletown, Rhode Island

Conducted tour of “The
Breakers.”

Mr. Harold Talbot
Preservation Society of
Newport County
37 Touro Street
Newport, Rhode Island

Coordinated all activities
in Newport.

Mr. Albert R. Tavani
Administrator of Aeronautics
Theodore Francis Green
State Airport
Warwick, Rhode Island

Arranged details for
welcome of governors at
airport.

Mrs. Frederick Thomas
Director of Education
Rhode Island School of Design
Providence, Rhode Island

Conducted tour of the Museum
(Oriental collection and
other displays).

VERMONT (Continued from P.188)

James L. Oakes

Attorney General
State House
Montpelier, Vermont, U.S.A.

Peter J. Hincks

Treasurer
State House
Montpelier, Vermont, U.S.A.

Jay H. Gordon

Auditor of Accunts
State House
Montpelier, Vermont, U.S.A.

Richard Bottamini

Director of Public Relantions
National Life Insurance Company
Montpelier, Vermont 05602, U.S.A.

Dr. John T. Fey

President
National Life Insurance Company
Montpelier, Vermont 05602, U.S.A.

Donald A. Lyons

Deputy Commissioner
Vermont Development Dept.
Montpelier, Vermont, U.S.A.

Roger M. Griffith

Public Relations Dept.
University of Vermont
Burlington, Vermont, U.S.A.

Lyman Rowell

President
University of Vermont
Burlington, Vermont, U.S.A.

Mrs. Maria von Trapp

Trapp Family Lodge, Stowe, Vermont, U.S.A.

Eugene Cenci

Manager
Holiday Inn, Route 2
South Burlington, Vermont, U.S.A.

Charles E. Wiley
Manager
Vermont Pavilion
Expo 67
Montreal, Quebec Canada

Mr. Wallace Whitcomb (警護責任者)
Sargent-at-Arms
State House
Montpelier, Vermont, U.S.A.

James Ritchie (IBM 総支配人)
General Manager
IBM
Essex Junction, Vermont, U.S.A.

Dr. & Mrs. David Fukuda (知事団随行医師, 通訳)
176 Washinton Street
Barre, Vermont, U.S.A.

MASSACHUSETTS

John A. Volpe
Governor
State House
Boston, Mass., U.S.A.

Francis W. Sargent
Lieutenant Governor
State House
Boston, Mass., U.S.A.

Kevin H. White
Secretary of the Commonwealth
State House
Boston, U.S.A.

Calvin J. Wright
John Hancock Mutual Insurance Co.
200 Berkely Street
Boston, Mass. 02117, U.S.A.

Miss Eleanor Woyciechowski
John Hancock Mutual Insurance Co.

200 Berkely Street
Boston, Mass. 02117, U.S.A.

Mr. Russel Codman
Honorary Consul General of Japan
50 Congress Street
Boston, Mass., U.S.A.

Mrs. Deidre Roskill
Office of University Marshal
Wadsworth House
Cambridge, Mass., U.S.A.

Mr. Harlan Dalton
The Crimson Key
Harvard University
Cambridge, Mass., U.S.A.

Chief Paul Doherty (警護責任者)
Capitol Police
State House
Boston, Mass., U.S.A.

John Desmond
Department of Commerce and Development
100 Cambridge Street
Boston, Mass., U.S.A.

Margaret Condrick
Greater Boston Chamber of Commerce
125 High Street
Boston, Mass., U.S.A.

Daniel J. Lynch, Jr.
c/o Governor's Office
State House
Boston, Mass., U.S.A.

Anthony Athenas
Pier 4 Restaurant
Boston, Mass., U.S.A.

Mr. Gerhard Bleicken
John Hancock Mutual Insurance Co.
(Senior Exec. Vice President)
200 Berkely Street
Boston, Mass. 02117, U.S.A.

Officer Dennis DuGuay (警護)
Capitol Police
State House
Boston, Mass., U.S.A.

Miss Carla Ceresi
Capitol Police
State House
Boston, Mass., U.S.A.

日米知事会議米側出席代表

U.S. DELEGATION ATTENDED AT
THE JOINT CONFERENCE

(For referenne sake) 参 考

William L. Guy
Governor and Chairman of the National
Governors' Conference
State Capitol
Bismarck
North Dakota, U.S.A.

Harold E. Hughes (前出)
Governor
State Capitol
Des Moines
Iowa, U.S.A.

James A. Rhodes
Governor
State House
Columbus
Ohio, U.S.A.

George Romney (前 出)
Governor
State Capitol
Lansing
Michigan, U.S.A.

Warren P. Knowles
Governor
State Capitol
Madison
Wisconsin, U.S.A.

Hulett C. Smith
Governor
State Capitol
Charleston
West Virginia, U.S.A.

Calvin L. Rampton
Governor
State Capitol
Salt Lake City
Utah, U.S.A.

Brevard Carihfield (前 出)
Secretary-Treasurer
National Governors' Conference

Dr. Eber Eldridge (前 出)
Iowa State university

Frank Covington (前 出)
Director
Iowa Office for Planning and Programming